

横須賀市民アンケート報告書

(令和4年度 実施)

令和6年(2024年)3月

横 須 賀 市

はじめに

横須賀市では、「横須賀再興プラン（2022-2025）」に基づき、この横須賀で暮らすすべての人々がお互いを認め合い、慈しみあい助け合うことができる「誰も一人にさせないまち」の実現を目指しています。

今回のアンケートでは、市民の皆さまの生活意識や横須賀市の取り組みに対する実感をお伺いしました。

調査で得られた結果は、現在の取り組みの改善や、今後の政策・施策の立案にあたって、基礎的なデータとして活用してまいります。

最後になりましたが、調査にご協力いただきました市民の皆さまに、厚く御礼申し上げます。

令和6年（2024年）3月

経営企画部都市戦略課

目次

1. 調査目的および実施方法等.....	1
1、調査目的および調査項目.....	2
2、調査概要.....	3
3、その他.....	3
2. 集計結果.....	5
I. 定住意識について.....	6
問1 居住年数.....	6
問2 前住地.....	8
問3 暮らしやすさ.....	10
問4 定住意向.....	13
問4-1 定住意向の理由.....	18
問4-2 希望する転居先.....	25
問4-3 転居意向の理由.....	26
II. 近所の方々や地域とのつき合いについて.....	31
問5 近所とのつき合い方.....	31
問6 近所とのつき合いの感じ方.....	33
問7 地域活動の参加状況.....	35
問8 今後の地域との関わり.....	37
III. 生活意識について.....	38
問9 分野別主観満足度.....	38
問10 生活全体の満足度.....	42
問11 生活全体の満足度を判断する際の重要事項.....	43
問12 心配ごとや困っていること.....	44
IV. 横須賀市の主な取り組みについて.....	46
問13 取り組みの認知度.....	46
問14 進んでいる実感のある取り組み.....	49
問15 良い影響を与えていると感じるものとその理由.....	52
問16 重点的な取り組みの認知度.....	57

問17 市政に対する評価.....	71
問18 市政に対する要望.....	72
3. 基本的な属性.....	74
4. 調査票.....	79

1. 調査目的および実施方法等

1、調査目的および調査項目

市民の生活意識や横須賀市の取り組みに対する実感を把握し、今後の市政運営や政策立案の基礎資料として活用するため、以下の項目についてアンケート調査を実施した。

【調査項目】

設問番号	項目
基本的な属性	
F1～F8	F1 性別、F2 年齢、F3 居住地域、F4 結婚の有無、 F5 世帯構成、F6 同居状況、F7 住宅形態、F8 職業
I. 定住意識について	
問1～4	「居住年数、前住地、現住地定住意向、定住や転居理由など」について
II. 近所の方々や地域とのつき合いについて	
問5～8	「近所の方々とのつき合い方や地域との関わりなど」について
III. 生活意識について	
問9～12	「生活満足度や心配ごとや困っていることなど」について
IV. 横須賀市の主な取り組みについて	
問13～18	「市の具体的な取り組みに対する認知度や満足度など」について

2、調査概要

調査対象	15歳以上～89歳以下の市民3,000人 (令和4年(2022年)12月1日現在:住民基本台帳から無作為抽出)
調査方法	・対象者に調査票を郵送配布 ・回答方法は、郵送とインターネットのいずれかを選択
調査期間	令和5年2月15日～3月7日 ※発送日～投函締切日
回収数	1,461件 うち、インターネット回答;325件
回収率	48.7% うち、インターネット回答;22.2%

3、その他

調査の企画・分析は、経営企画部都市戦略課で実施した。

基数となるべき実数は、各設問に対する有効回答者数である。

なお、結果数値は、表章単位未満を四捨五入しているため、内訳の合計が計(100.0%)にならないことがある。また、複数回答の設問では、割合の合計が100.0%を超える。

2. 集計結果

I. 定住意識について

問1 あなたは、横須賀市に通算でどのくらいの期間住んでいますか。(〇は1つ)

- 居住年数が20年以上の「長期居住者(計)¹⁾」(78.0%)は、8割近い。
- 5年以上20年未満の「中期居住者(計)²⁾」(16.0%)は、約1.5割。
- 5年未満の「短期居住者(計)³⁾」(5.9%)は1割に満たない。
- 短期、中期、長期それぞれの居住者割合は、前回調査(令和2年度実施)と比べて、ほぼ変わらない。
- 長期居住者の中でも、「50年以上」のボリュームが大きいのは、今から約50年前に、市内各地域で多くの住宅供給が行われ、それに伴う人口流入が主な要因と思われる。

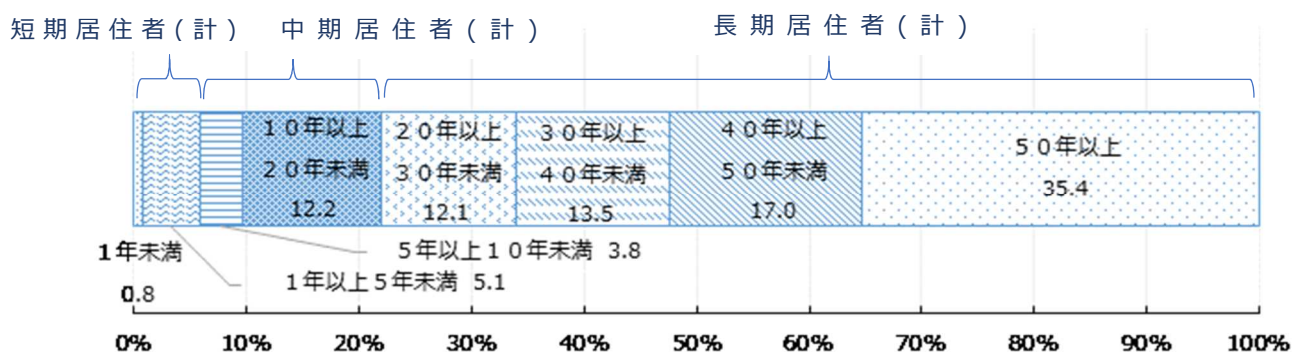
【今回調査】

長期居住者(計) 78.0%、中期居住者(計) 16.0%、短期居住者(計) 5.9%

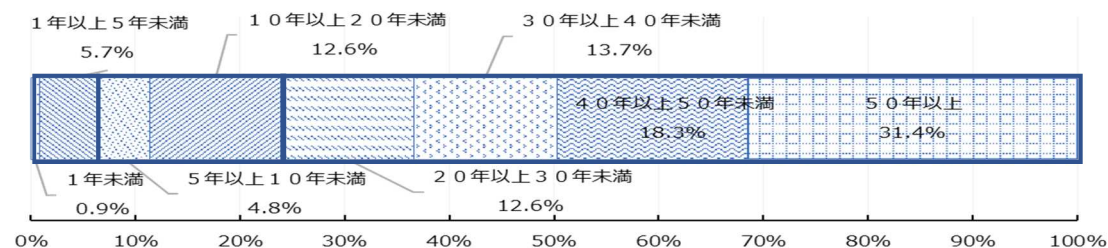
【前回調査(令和2年度実施)】

長期居住者(計) 76.0%、中期居住者(計) 17.4%、短期居住者(計) 6.6%

問1. 居住年数 (N=1455人)



前回調査(令和2年度実施) 居住年数 (N=1597人)



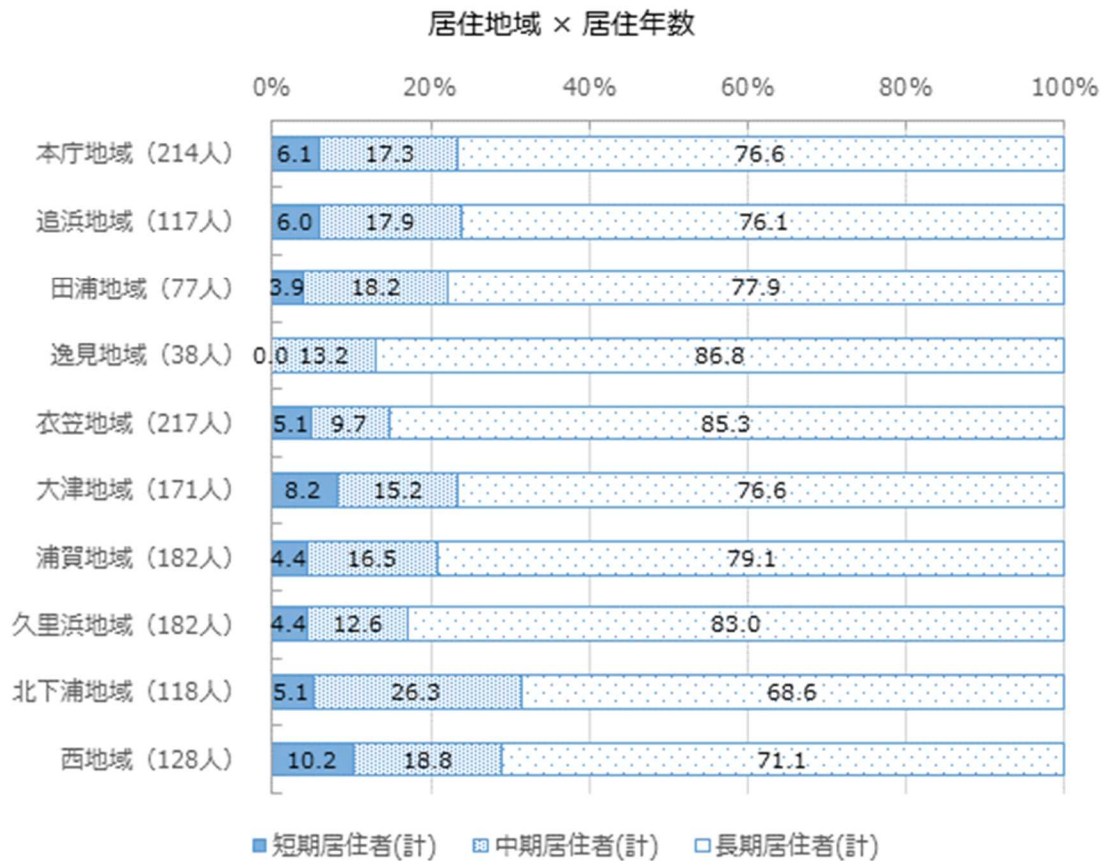
¹⁾ 「20年以上30年未満」「30年以上40年未満」「40年以上50年未満」「50年以上」の計

²⁾ 「5年以上10年未満」「10年以上20年未満」の計

³⁾ 「1年未満」「1年以上5年未満」の計

【居住地域×居住年数】

- すべての地域で、居住年数が20年以上の長期居住者の割合は7～8割と高く、横須賀には、長く住んでいる市民が多いことがわかる。



問2 横須賀市に住む前は、どちらにお住まいでしたか。(〇は1つ)

- 「生まれてからずっと横須賀に住んでいる」(35.5%) が最も多く、次いで「横浜市」(18.7%) となっている。
- 「県内からの転入⁴」のうち「横浜市」以外からの転入は14.7%。
- 「県外からの転入⁵」のうち、東京都など首都圏からの転入は13.3%、その他が17.8%。県外からの転入が一定の割合であるのは、市内に自衛隊関連施設があることが影響していると考えられる。
- 回答傾向は、前回調査(令和2年度実施)と、ほぼ変わらない。

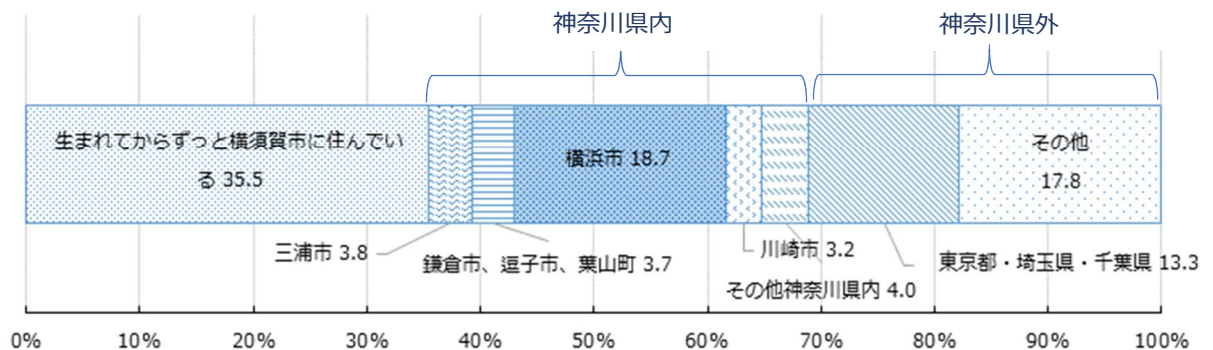
【今回調査】

生まれてから横須賀在住 35.5%、県内から転入 33.4%、県外から転入 31.1%

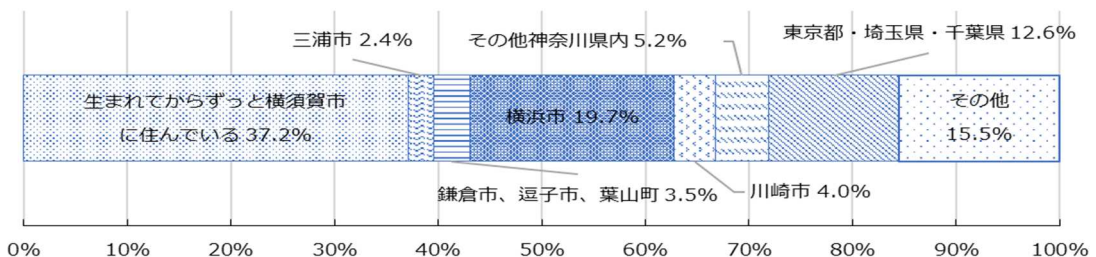
【前回調査(令和2年度実施)】

生まれてから横須賀在住 37.2%、県内から転入 34.8%、県外から転入 28.1%

問2. 横須賀市に住む前の住まい (N=1433人)



前回調査(令和2年度実施) 前住地 (N=1568人)



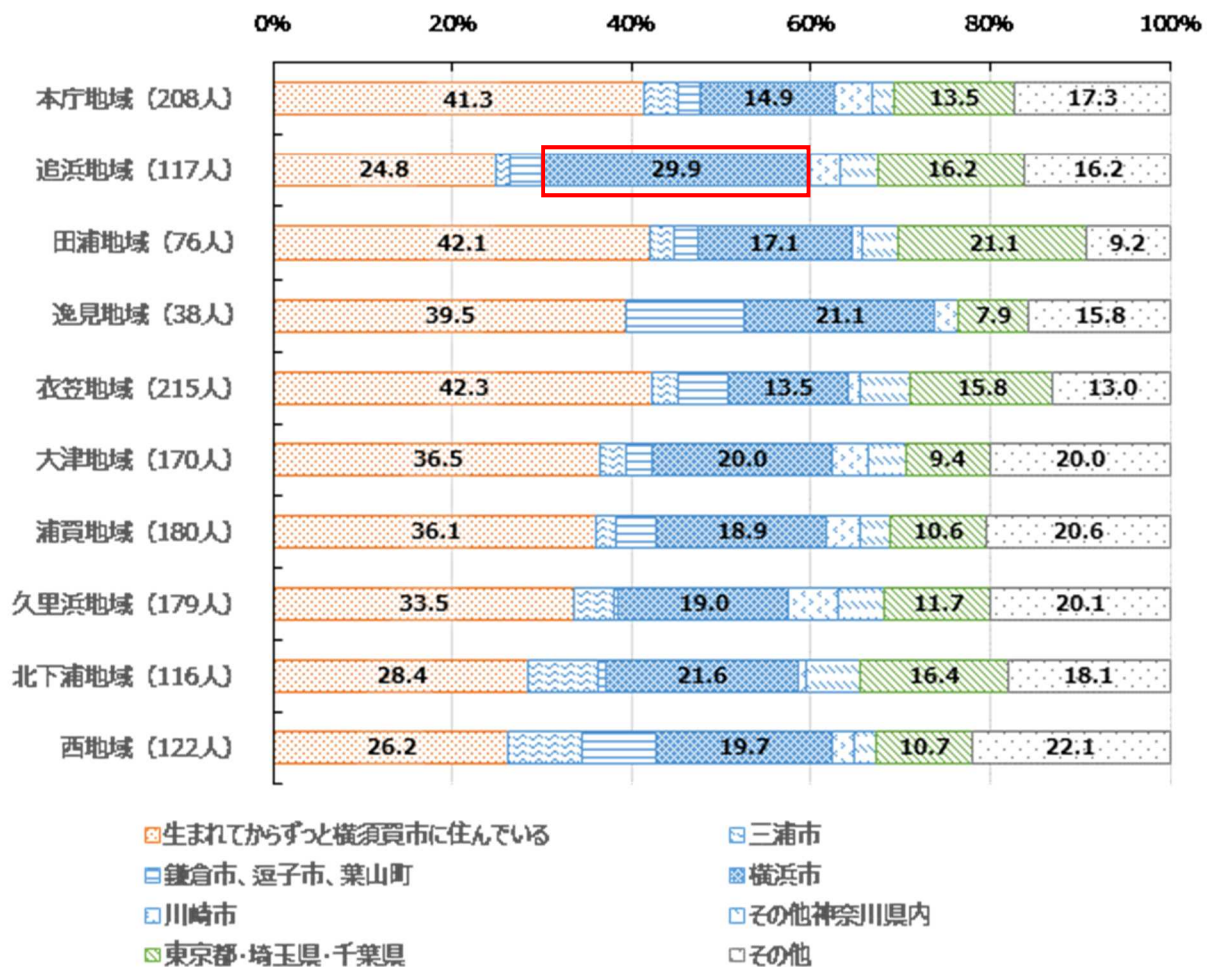
⁴ 「三浦市」「鎌倉市、逗子市、葉山町」「横浜市」「川崎市」「その他神奈川県内」の計

⁵ 「東京都・埼玉県・千葉県」「その他」の計

【居住地域×横須賀市に住む前の住まい】

- ほとんどの地域で、「生まれてからずっと横須賀市に住んでいる」の割合が最も多い。そのなか、追浜地域では「横浜市」からの転入（29.9%）が約3割で、「生まれてからずっと横須賀に住んでいる」（24.8%）より大きい。
- 追浜地域は、横浜市と隣接しており、市内でも都心や横浜などへのアクセスが良く、人口移動が比較的活発な地域であること、また近年、大規模なマンション開発が行われたことなどが影響していると思われる。

居住地域 × 横須賀市に住む前の住まい



問3 今のお住まいや周辺の環境をどのように感じていますか。(〇は1つ)

- 『暮らしやすい(計)』⁶ (73.8%) は、7割強。
- 『暮らしにくい(計)』⁷ (11.9%) は、約1割。
- 回答傾向は、前回調査(令和2年度実施)と変わらない。

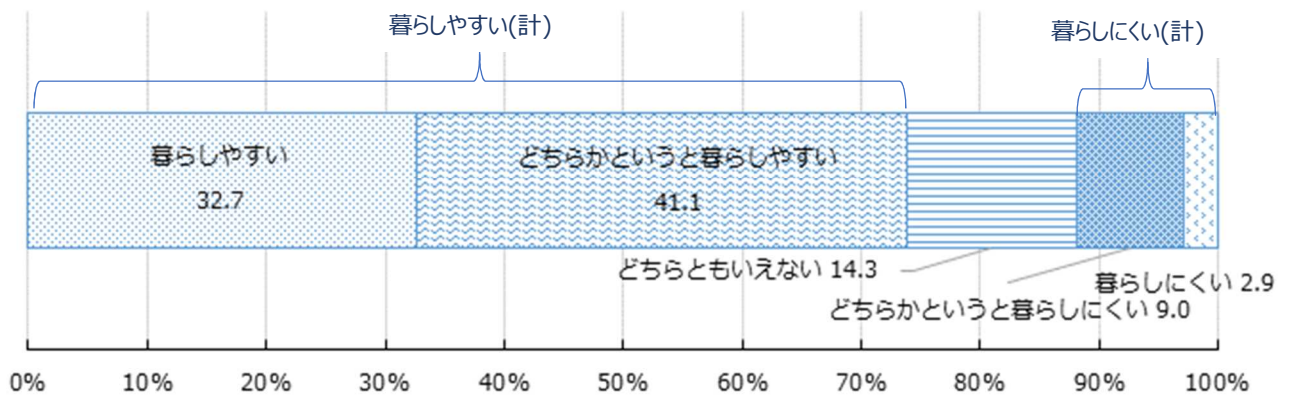
【今回調査】

暮らしやすい(計) 73.8%、どちらともいえない 14.3%、暮らしにくい(計) 11.9%

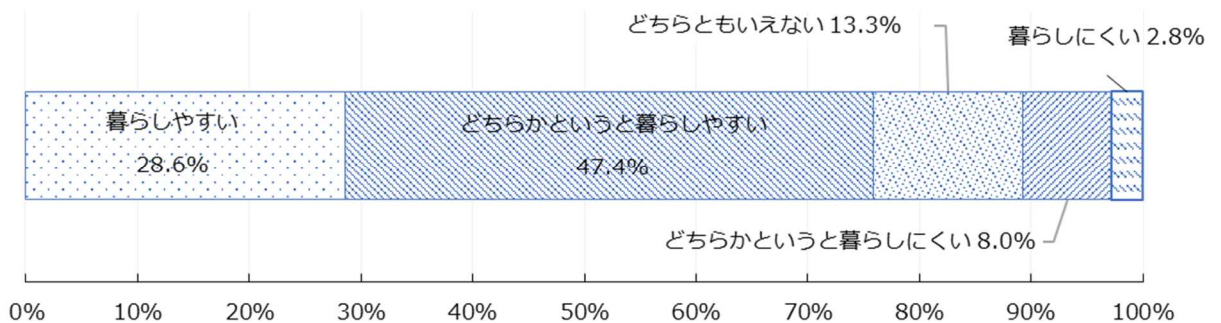
【前回調査(令和2年度実施)】

暮らしやすい(計) 76.0%、どちらともいえない 13.3%、暮らしにくい(計) 10.8%

問3. 暮らしやすさ (N=1455人)



前回調査(令和2年度実施) 暮らしやすさ (N=1589人)

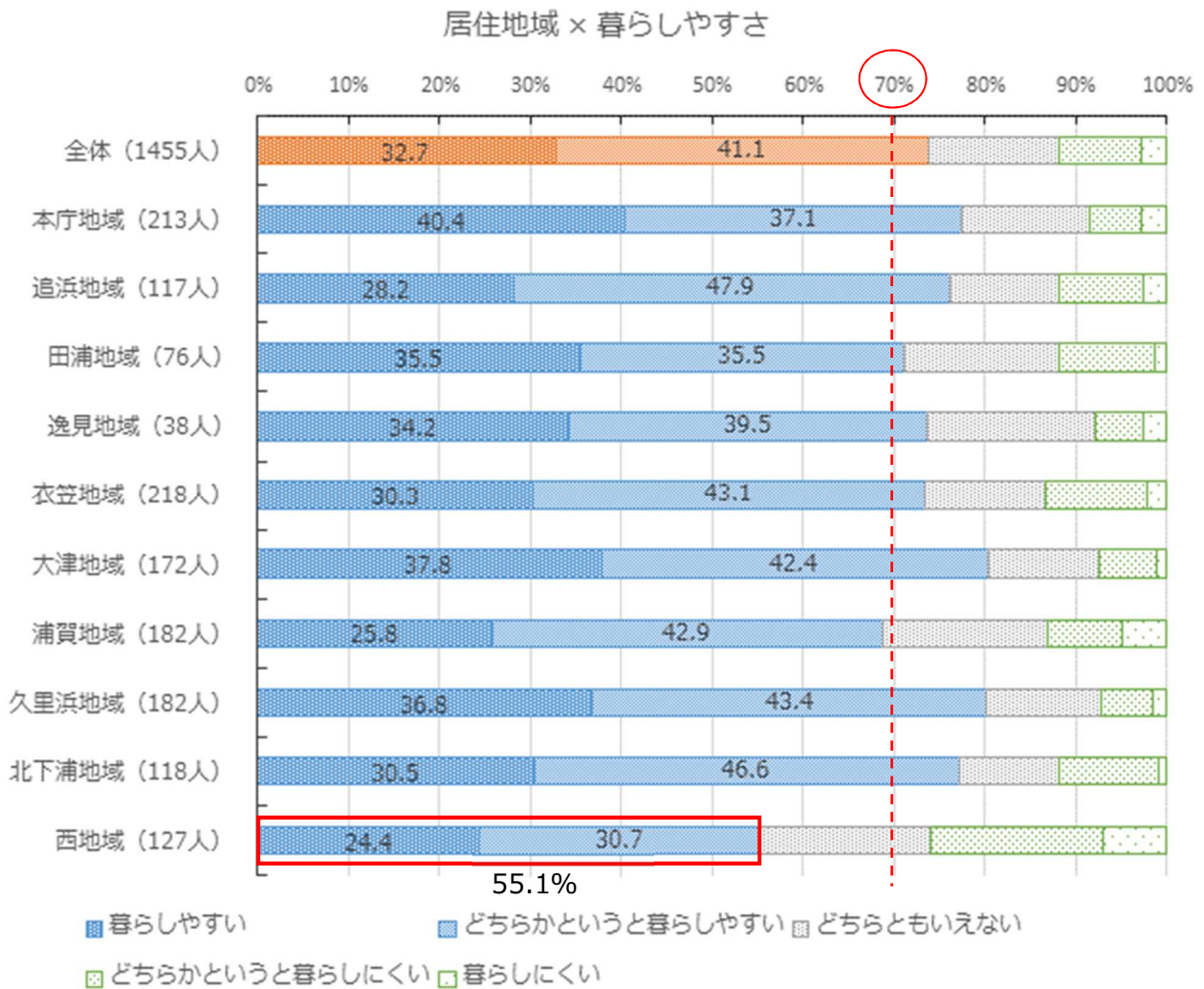


⁶ 「暮らしやすい」「どちらかという暮らしやすい」の計

⁷ 「どちらかという暮らしにくい」「暮らしにくい」の計

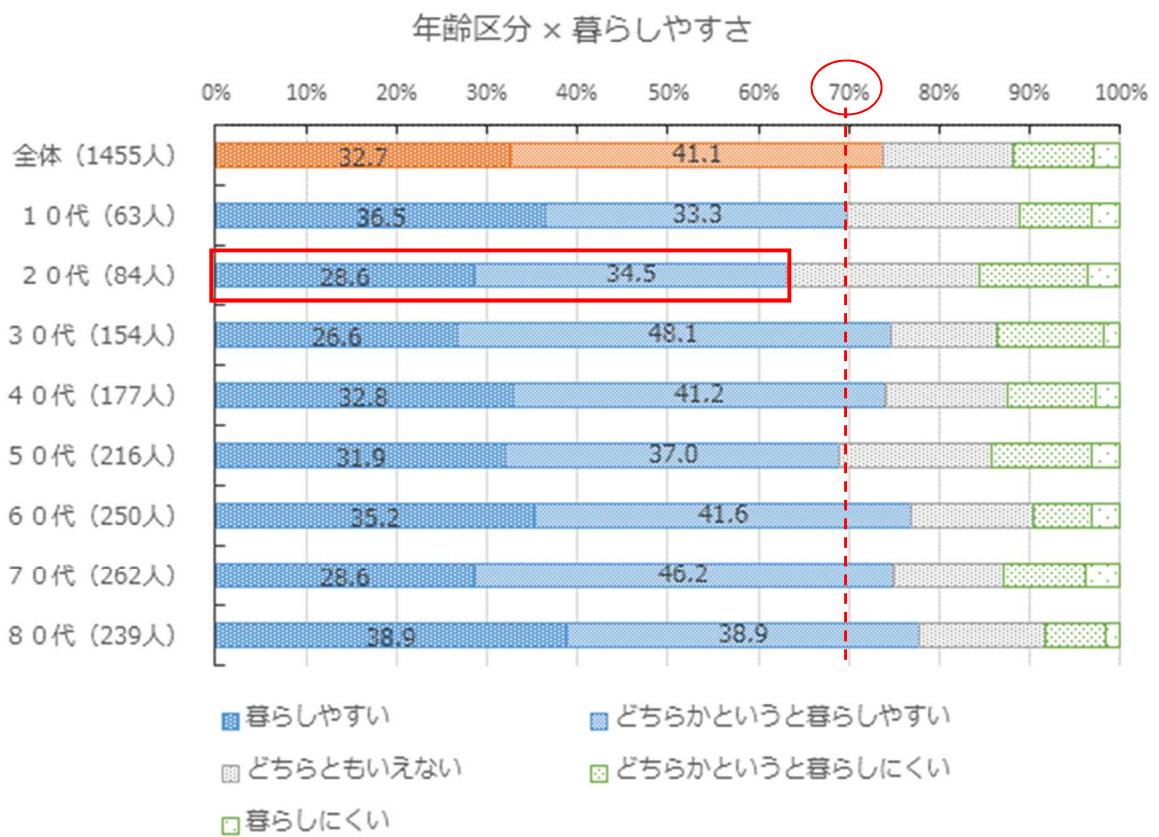
【居住地域×暮らしやすさ】

- ほとんどの地域で、『暮らしやすい（計）』の回答割合が最も大きく、7割前後。
- 特に、大津地域（80.2%）、久里浜地域（80.2%）は、『暮らしやすい（計）』の回答が、約8割と大きい。
- 一方、西地域は『暮らしやすい（計）』が6割に満たない。
最寄りの鉄道駅までの所要時間や、地形の起伏の有無、日常的な買い物のしやすさなどが、地域間の差の要因になっていると考えられる。



【年齢区分×暮らしやすさ】

- ほとんどの年代で、『暮らしやすい（計）』の回答割合が最も多く、7割前後を占めている。
そのなかで、20代（63.1%）は、約6割とやや低い。
- 日々の通勤や通学にかかる移動の負担や、この世代が望む遊びやレジャー、飲食やショッピングが手軽にできる環境ではないと感じていることが、要因となっていると推察される。



問4 あなたは、これからも横須賀市に住み続けたいと思いますか。(〇は1つ)

- 『住み続ける(計)⁸』(78.0%)の回答は、約8割。
- 『転居する(計)⁹』(10.0%)の回答は、1割。
- 回答傾向は、前回調査(令和2年度実施)と変わらない。

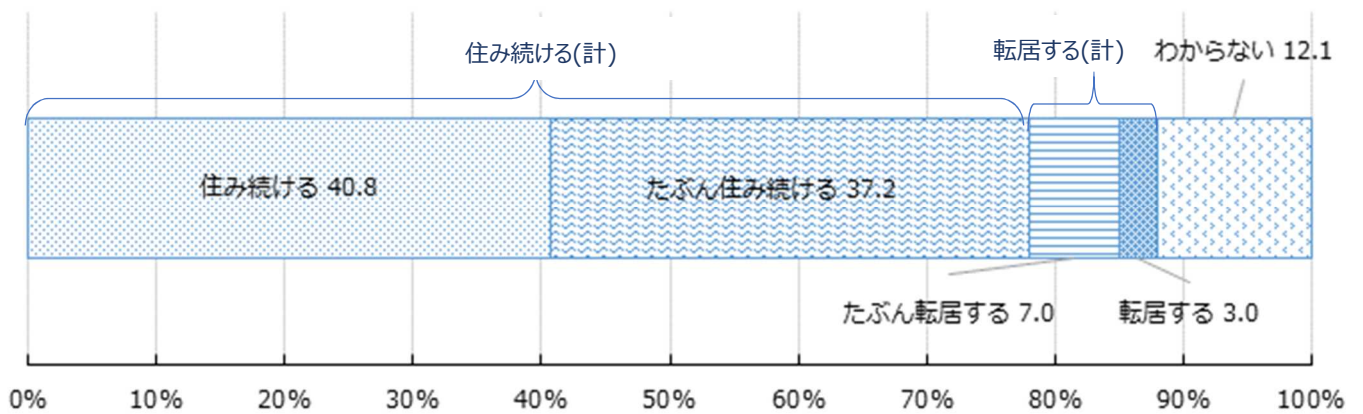
【今回調査】

住み続ける(計) 78.0%、転居する(計) 10.0%、わからない 12.1%

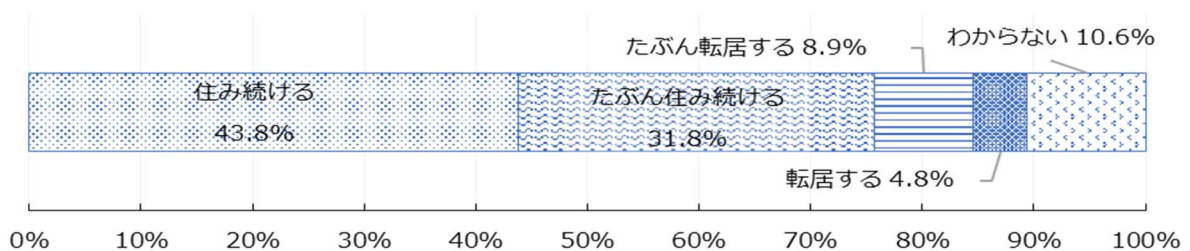
【前回調査(令和2年度実施)】

住み続ける(計) 75.6%、転居する(計) 13.7%、わからない 10.6%

問4. 定住意向 (N=1410人)



前回調査(令和2年度実施) 定住意向 (N=1526人)



⁸ 「住み続ける」「たぶん住み続ける」の計

⁹ 「たぶん転居する」「転居する」の計

【年齢区分×定住意向】

- 年齢が高くなるにつれて、定住意向が強くなり、40代以上では、7割以上が『住み続ける（計）』を選択している。
- 30代以下では、『住み続ける（計）』が7割に満たず、特に20代では、5割を下回る。
- 10代～30代は、進学・就職・結婚・出産・子育てなど、ライフステージが大きく変化する時期であり、それら節目に伴い転居することを想定していると推察される。
- また、前回調査と比較すると、10代～30代の定住意向は高くなっており、『住み続ける（計）』が、10代で23.3ポイント増、20代で3.9ポイント増、30代で6.4ポイント増。一方で、『転居する（計）』は、10代で17.9ポイント減、20代で11.1ポイント減、30代で6.6ポイント減。

コロナ禍でのテレワークの普及により、居住地に関わらない就労や学習環境が整ったことが、この世代の定住意向の高まりにつながったのではないかとと思われる。

【今回調査】

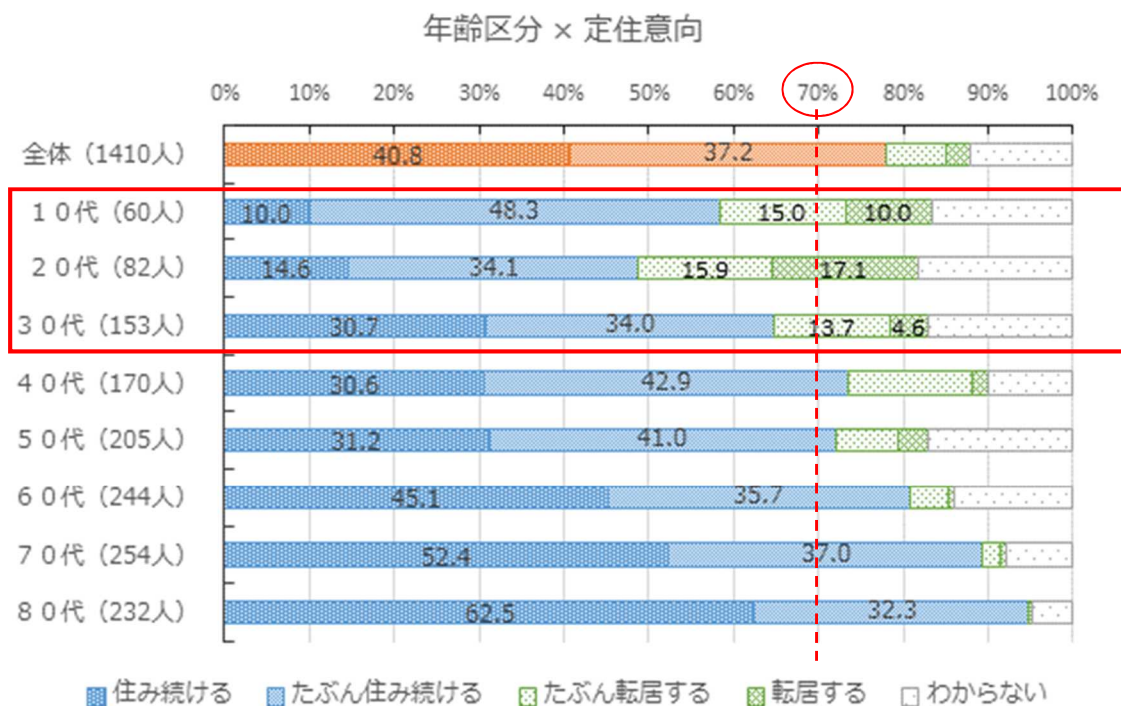
住み続ける（計） 10代：58.3%、20代：48.7% 30代：64.7%

転居する（計） 10代：25.0%、20代：33.0% 30代：18.3%

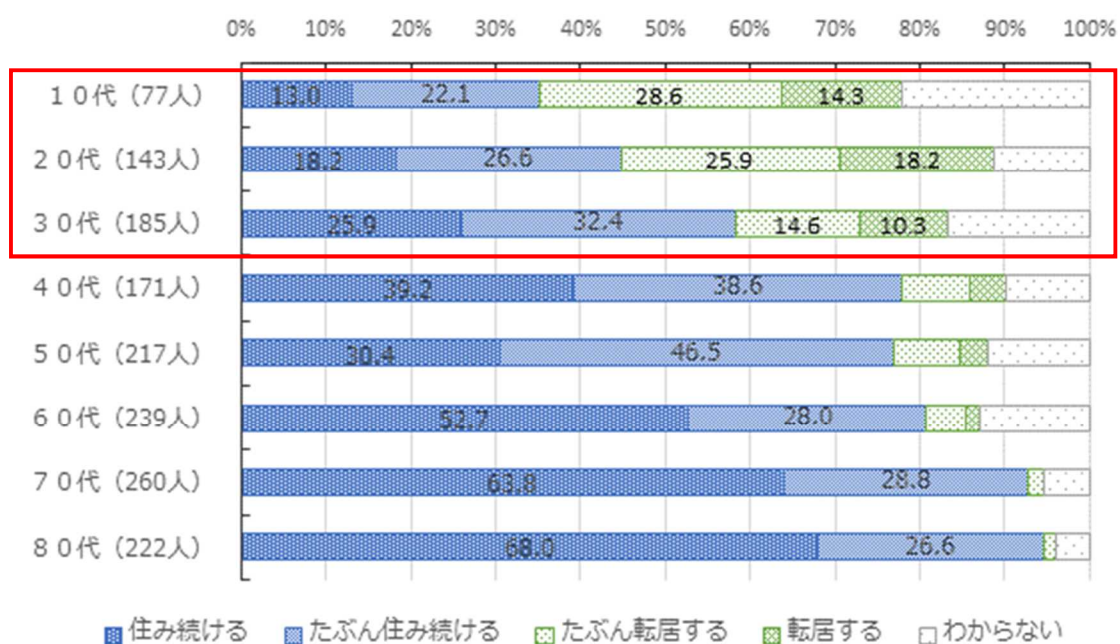
【前回調査（令和2年度実施）】

住み続ける（計） 10代：35.1%、20代：44.8% 30代：58.3%

転居する（計） 10代：42.9%、20代：44.1% 30代：24.9%

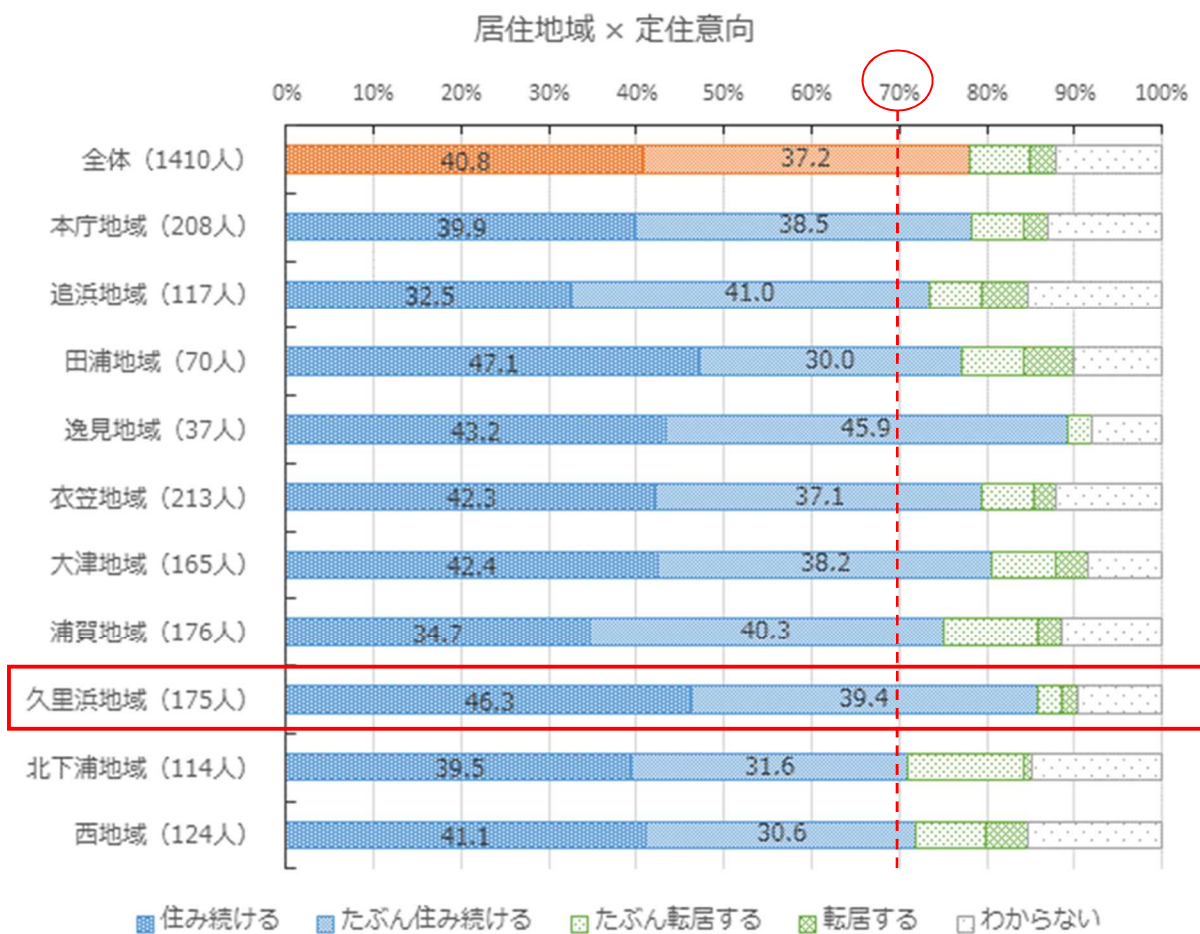


前回調査（令和2年度実施）年齢区分×定住意向

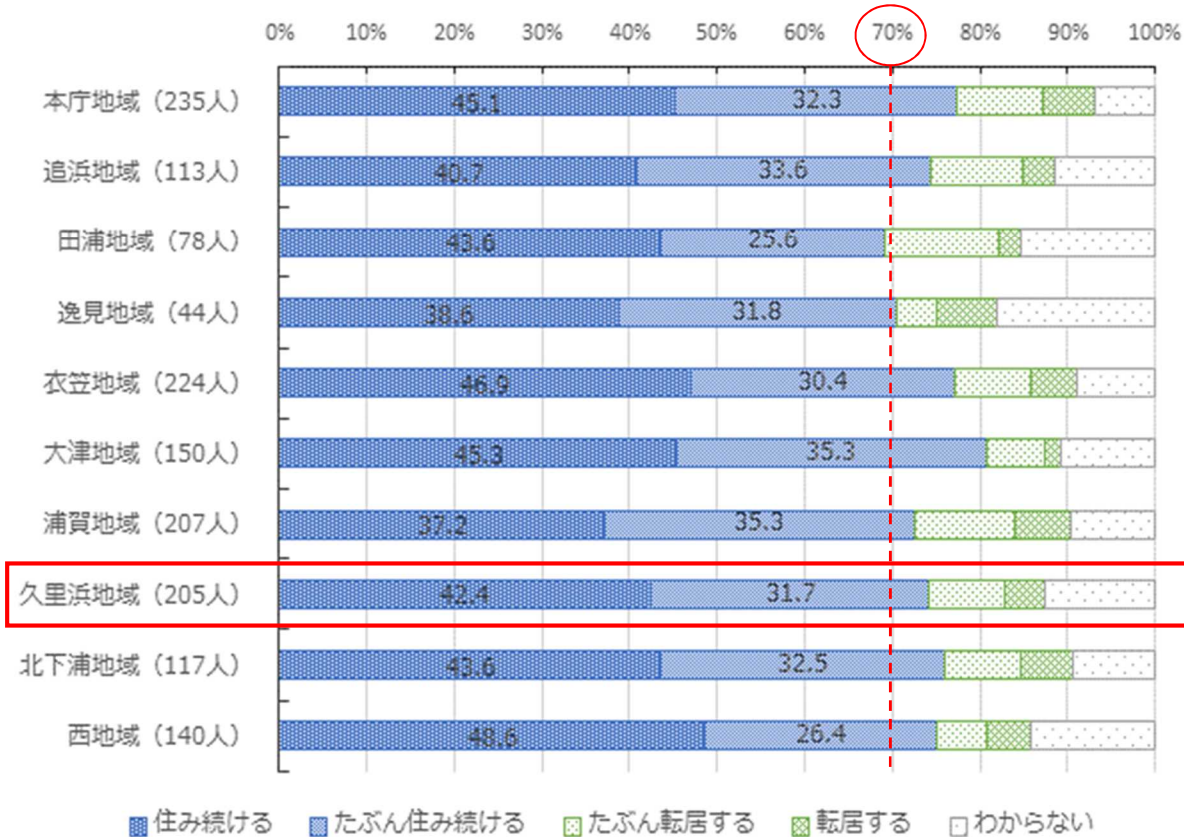


【居住地域×定住意向】

- 全ての地域で『住み続ける（計）』が7割を超えている。特に、久里浜地域は、前回調査から、『住み続ける（計）』（74.1%→85.7%）が、11.6ポイント増え、定住意向が高まっている。
- 京急とJRの2路線利用可能なことに加え、比較的平坦であること、さらに横浜F・マリノススポーツパークのオープンや新市立病院建設といったまちの動きへの期待が影響しているのではないかと思われる。



前回調査（令和2年度実施）居住地域×定住意向



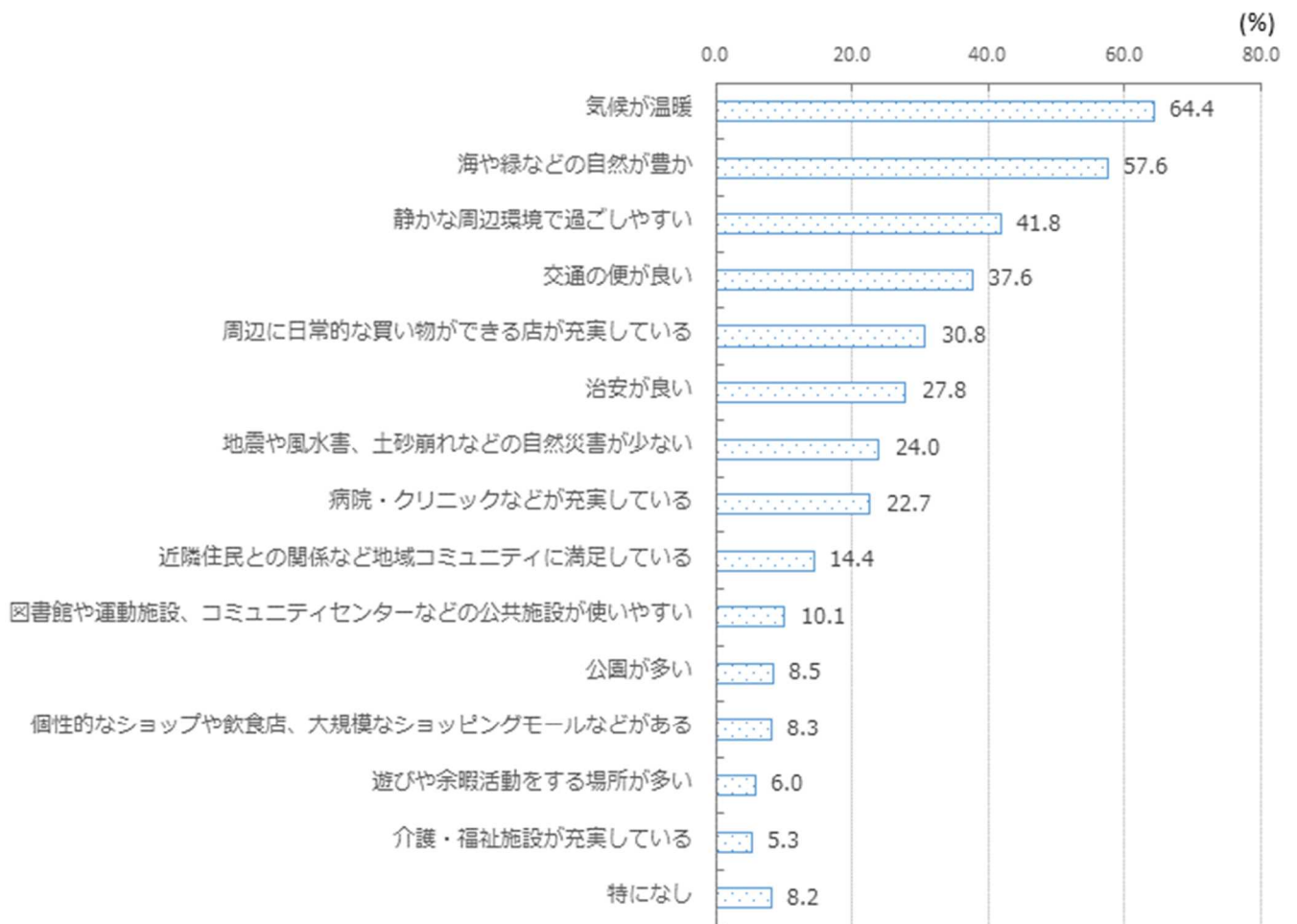
【問4で、「1、2」を選んだ方に】

問4-1 横須賀市に「住み続ける」「たぶん住み続ける」を選んだ理由として、①～③の分野ごとにそれぞれ当てはまるものを選んでください。

分野① 生活環境

- 「気候が温暖」(64.4%)が最も多く、6割強。次いで、「海や緑などの自然が豊か」(57.6%)、「静かな周辺環境で過ごしやすい」(41.8%)となっている。

問4-1. 定住意向理由①生活環境(複数回答)(N=1092)



【年齢区分×定住意向（生活環境）】

- 年齢による回答傾向に大きな差異はなく、「気候が温暖」「海や緑などの自然が豊か」が上位理由となっており、年齢を重ねるごとに、その割合は高くなる。
- どの年代も、横須賀の温暖な気候、豊かな自然といった恵まれた環境が、定住理由の上位に選ばれている。これらを大切に維持していくことが、今後も定住につながると思われる。

	10～20代 (75人)	%	30～40代 (224人)	%	50～60代 (344人)	%	70～80代 (441人)	%
1位	静かな周辺環境で過ごしやすい	41.3	海や緑などの自然が豊か	57.1	気候が温暖	69.5	気候が温暖	74.8
2位	周辺に日常的な買い物ができる店が充実している	38.7	気候が温暖	48.2	海や緑などの自然が豊か	61.0	海や緑などの自然が豊か	58.5
3位	海や緑などの自然が豊か	36.0	静かな周辺環境で過ごしやすい	39.3	静かな周辺環境で過ごしやすい	40.4	静かな周辺環境で過ごしやすい	44.4
4位	交通の便が良い	28.0	交通の便が良い	33.9	交通の便が良い	37.5	交通の便が良い	41.5
5位	気候が温暖	25.3	周辺に日常的な買い物ができる店が充実している	29.5	周辺に日常的な買い物ができる店が充実している	36.6	治安が良い	36.3

【居住地域×定住意向（生活環境）】

- すべての居住地域で、理由の上位に「気候が温暖」「海や緑などの自然が豊か」「静かな周辺環境で過ごしやすい」といった自然環境の良さに関することが選ばれている。
- さらに、ほとんどの地域で、「交通の便が良い」が選ばれているが、西地域では選ばれていない。鉄道空白地域である西地域では、中心市街地や近隣市町とつながる交通手段が、バスや乗用車などに頼らざるを得ないことが影響していると思われる。

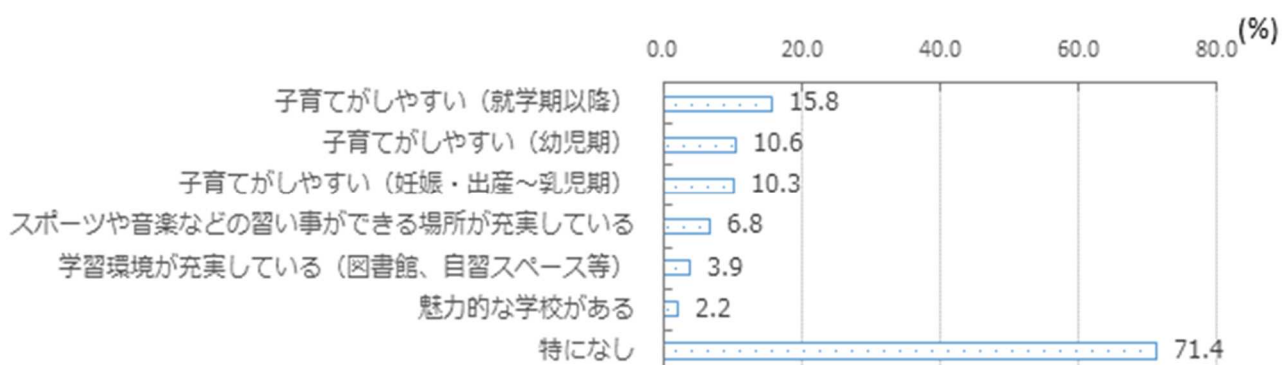
	本庁地域（161人）	%	追浜地域（85人）	%	田浦地域（54人）	%	逸見地域（33人）	%	衣笠地域（169人）	%
1位	気候が温暖	57.8	海や緑などの自然が豊か	56.5	気候が温暖	53.7	気候が温暖	63.6	気候が温暖	63.9
2位	海や緑などの自然が豊か	55.9	静かな周辺環境で過ごしやすい	51.8	静かな周辺環境で過ごしやすい	53.7	海や緑などの自然が豊か	60.6	海や緑などの自然が豊か	40.2
3位	交通の便が良い	50.9	気候が温暖	50.6	海や緑などの自然が豊か	48.1	交通の便が良い	57.6	周辺に日常的な買い物ができる店が充実している	35.5
4位	周辺に日常的な買い物ができる店が充実している	42.2	交通の便が良い	34.1	交通の便が良い	48.1	静かな周辺環境で過ごしやすい	36.4	静かな周辺環境で過ごしやすい	34.9
5位	静かな周辺環境で過ごしやすい	34.8	治安が良い	30.6	治安が良い	35.2	周辺に日常的な買い物ができる店が充実している	33.3	交通の便が良い	31.4

	大津地域（133人）	%	浦賀地域（131人）	%	久里浜地域（149人）	%	北下浦地域（81人）	%	西地域（88人）	%
1位	気候が温暖	73.7	気候が温暖	74.0	気候が温暖	67.1	気候が温暖	66.7	海や緑などの自然が豊か	64.8
2位	海や緑などの自然が豊か	64.7	海や緑などの自然が豊か	67.9	海や緑などの自然が豊か	59.7	海や緑などの自然が豊か	61.7	気候が温暖	60.2
3位	交通の便が良い	46.6	静かな周辺環境で過ごしやすい	45.0	交通の便が良い	46.3	静かな周辺環境で過ごしやすい	51.9	静かな周辺環境で過ごしやすい	50.0
4位	静かな周辺環境で過ごしやすい	42.9	治安が良い	31.3	周辺に日常的な買い物ができる店が充実している	39.6	交通の便が良い	30.9	治安が良い	31.8
5位	周辺に日常的な買い物ができる店が充実している	32.3	交通の便が良い	26.0	静かな周辺環境で過ごしやすい	34.9	治安が良い	30.9	地震や風水害、土砂崩れなどの自然災害が少ない	23.9

分野② 子育て・教育

- 定住意向に「子育て・教育」が与える影響は、「特になし」が7割以上で、最も多い。
- 今回のアンケートでは、定住の主な理由に、「子育て・教育」分野の項目が大きく影響しない結果となった。
- しかし、その中でも、子育ての中心世代である30～40代や、現在子どもがいる家庭においては、「子育てのしやすさ」を重視している傾向がみられ、子育て世代の定住には大切な要素であると考えられる。

問4-1. 定住意向理由②子育て・教育（複数回答）（N=874人）

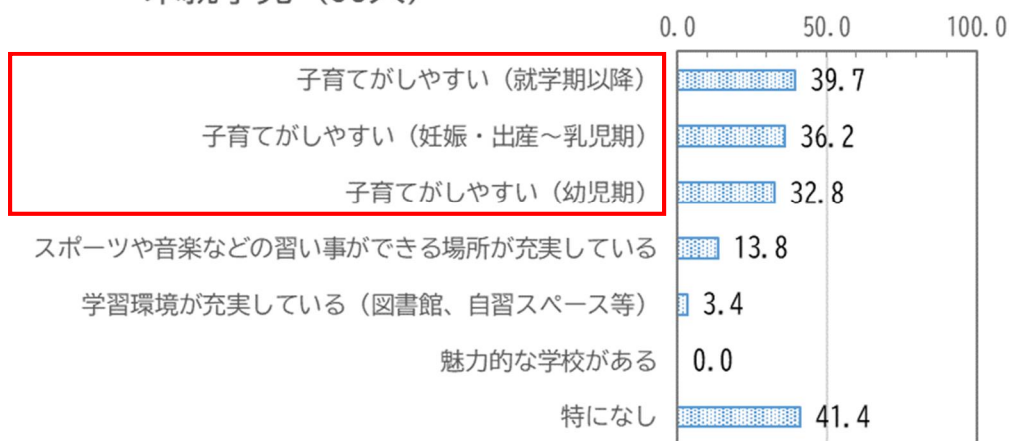


【年齢区分×定住意向（子育て・教育）】

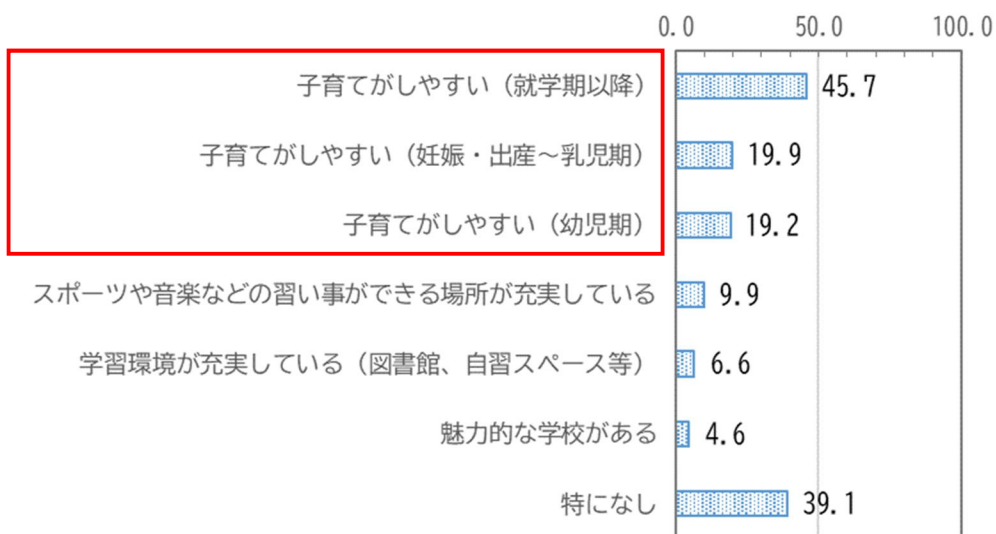
	10～20代 (70人)	%	30～40代 (217人)	%	50～60代 (298人)	%	70～80代 (283人)	%
1位	特になし	70.0	特になし	64.1	特になし	69.5	特になし	79.2
2位	魅力的な学校がある	8.6	子育てがしやすい(就学期以降)	24.9	子育てがしやすい(就学期以降)	18.1	子育てがしやすい(幼児期)	9.5
3位	学習環境が充実している(図書館、自習スペース等)	8.6	子育てがしやすい(妊娠・出産～乳児期)	12.9	子育てがしやすい(幼児期)	13.4	子育てがしやすい(就学期以降)	8.8
4位	スポーツや音楽などの習い事ができる場所が充実している	8.6	子育てがしやすい(幼児期)	11.1	子育てがしやすい(妊娠・出産～乳児期)	13.1	スポーツや音楽などの習い事ができる場所が充実している	6.4
5位	子育てがしやすい(妊娠・出産～乳児期)	7.1	スポーツや音楽などの習い事ができる場所が充実している	6.9	スポーツや音楽などの習い事ができる場所が充実している	6.7	子育てがしやすい(妊娠・出産～乳児期)	6.0

【子どもがいる家庭×定住意向（子育て・教育）】

未就学児（58人）



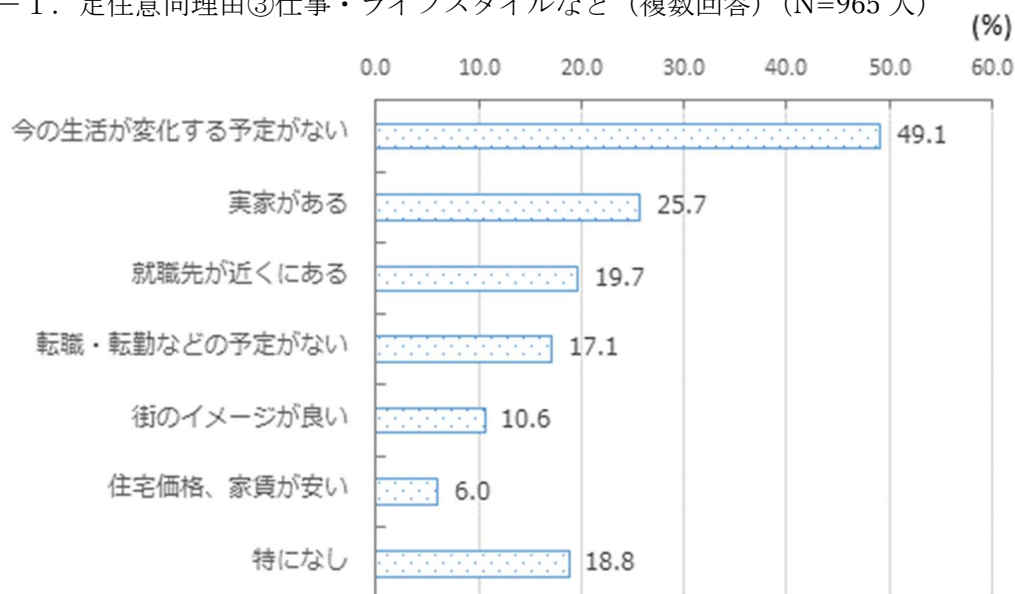
小学生・中学生・高校生（151人）



分野③ 仕事・ライフスタイルなど

- 上位の理由は、「今の生活が変化する予定がない」(49.1%)、「実家がある」(25.7%)、「就職先が近くにある」(19.7%)の順。
- 年代別でみると、どの年代も「今の生活が変化する予定がない」との回答が多いが、30～40代では、3人に1人が「就職先が近くにある」を選んでおり、通勤の負担を考えた居住地選択の傾向が強くみられる。

問4-1. 定住意向理由③仕事・ライフスタイルなど（複数回答）(N=965人)



【年齢区分×定住意向（仕事・ライフスタイルなど）】

	10～20代(71人)	%	30～40代(220人)	%	50～60代(317人)	%	70～80代(349人)	%
1位	実家がある	43.7	実家がある	49.5	今の生活が変化する予定がない	53.0	今の生活が変化する予定がない	54.4
2位	今の生活が変化する予定がない	22.5	今の生活が変化する予定がない	43.2	実家がある	26.5	特になし	33.2
3位	就職先が近くにある	21.1	就職先が近くにある	36.8	就職先が近くにある	24.0	街のイメージが良い	10.6
4位	特になし	19.7	転職・転勤などの予定がない	28.2	転職・転勤などの予定がない	21.8	実家がある	6.6
5位	街のイメージが良い	18.3	住宅価格、家賃が安い	7.7	特になし	11.0	転職・転勤などの予定がない	6.3

参考 10～40 代の定住意向（自由記述から抜粋）

10～20 代の定住意向

【生活環境】

- 都心に近く、交通利便性が良いため
- 海や山など自然環境が豊かなため
- 住んでいる人の人柄が良いから

【仕事・ライフスタイル】

- 仕事の都合
- 生まれ故郷であること、自立するまで親元で生活するため
- 引っ越す理由がないため

30～40 代の定住意向

【生活環境】

- 横須賀が好きだから
- 住み心地が良いから
- 横浜や東京方面への行きやすさ。交通が便利のため
- ショッピングモールが車で近い距離にあるのも魅力的
- 都会という感じではなく、ほどよい自然環境が大好き

【子育て・教育】

- 子育てがしやすい環境と感じている（公園がたくさんあり、医療費が無料なところなど）

【仕事・ライフスタイル】

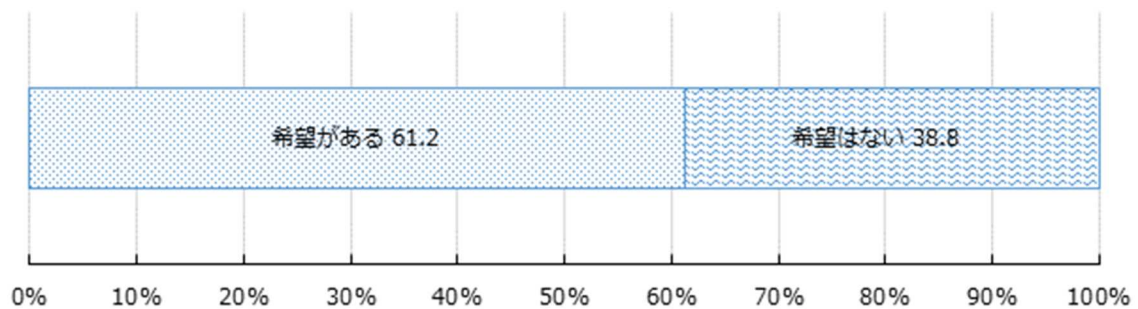
- 自分の実家、夫の実家に近いから
- 「持家があるから」と「両親の近くにいたいから」
- 生まれ育った場所なので、理由がない限り他市へ転居しない。愛着がある
- 親の介護や、実家があるため
- ずっと横須賀で生まれ育ったので今さら違う市や県外へ行こうとは思えない
- 夫婦の実家が家業をしており、共に家業で働いているから
- 勤務地が近く転勤がなければ横須賀に住み続ける
- 家を購入したので横浜から横須賀にきたが、手放す予定がないからずっと住み続ける
- 今までから変化をしたくないという理由が大きい

【問4で、「3、4」を選んだ方に】

問4-2 仮に引っ越すとしたら、どこを希望されますか。(〇は1つ)

- 引っ越し先の希望がある(61.2%)は、約6割。
- 希望先は、神奈川県内(57.1%)が最も多く、6割程度を占める。
- 引っ越しの希望先に、「横浜市」を選択した割合(36.9%)は、全体のおおよそ4割。

問4-2. 引っ越し先の希望 (N=134人)



引っ越し先の希望	(件)	(%)
神奈川県	48	57.1
東京都	9	10.7
その他	27	32.1
計	84	100



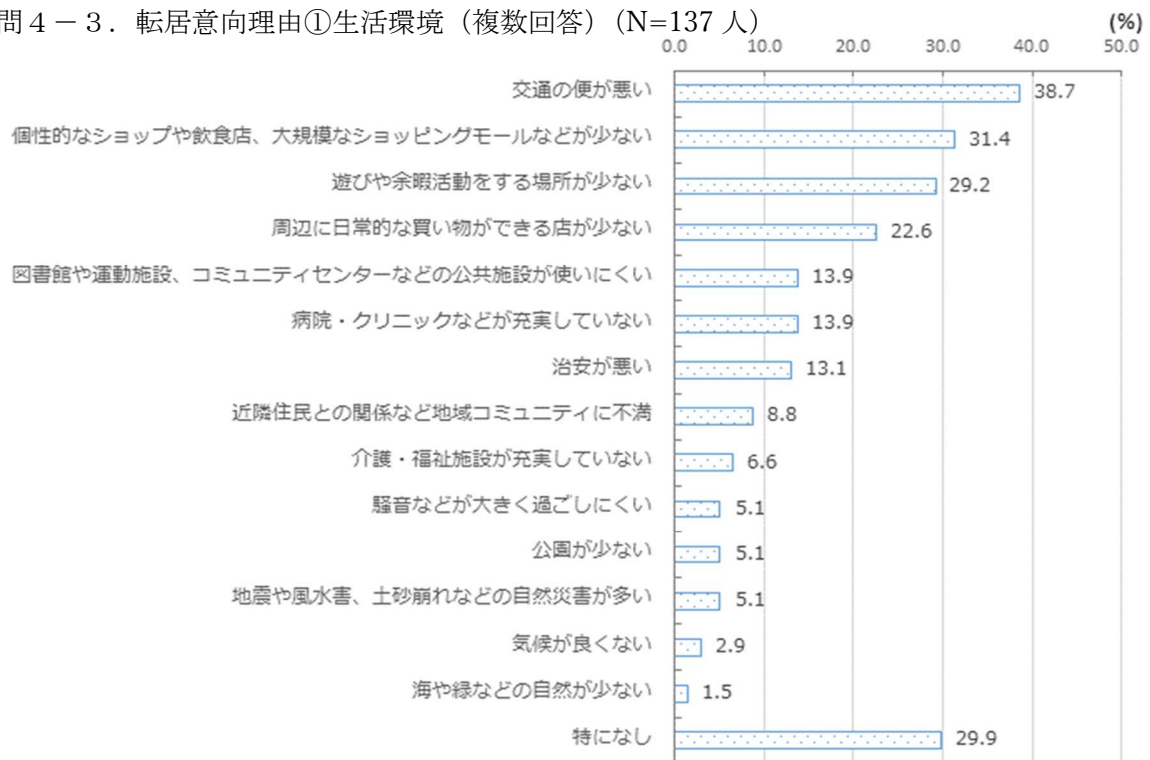
引っ越し先の希望のうち、
横浜市を選択割合は、約4割。

問4-3 横須賀市から「転居する」「たぶん転居する」を選んだ理由として、①～③の分野ごとにそれぞれ当てはまるものを選んでください。

分野① 生活環境

- 転居の上位理由は、「交通の便が悪い」(38.7%)、「個性的なショップや飲食店、大規模なショッピングモールなどが少ない」(31.4%)、「特になし」(29.9%)の順。
- 年代別でも、10～40代の転居意向は、交通の便の悪さ、遊び場や個性的なショップの少なさの割合が高い。

問4-3. 転居意向理由①生活環境（複数回答）(N=137人)



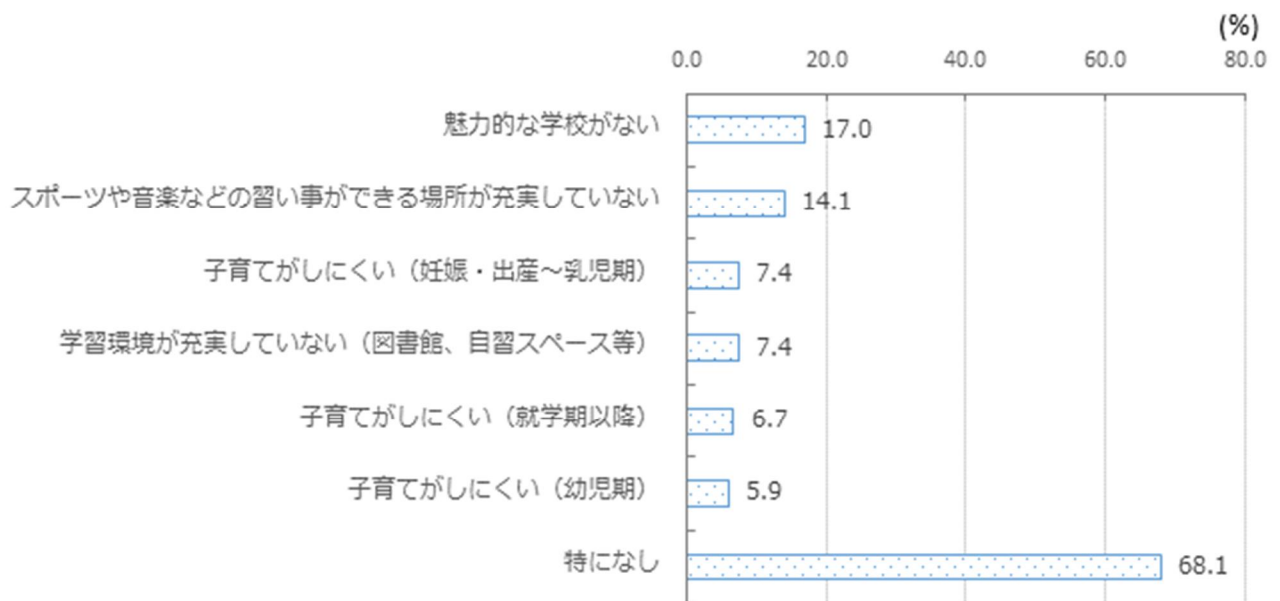
【年齢区分×転居意向（生活環境）】

	10～20代(41人)	%	30～40代(55人)	%	50～60代(33人)	%	70～80代(8人)	%
1位	交通の便が悪い	41.5	交通の便が悪い	40.0	交通の便が悪い	33.3	交通の便が悪い	37.5
2位	遊びや余暇活動をする場所が少ない	39.0	個性的なショップや飲食店、大規模なショッピングモールなどが少ない	32.7	個性的なショップや飲食店、大規模なショッピングモールなどが少ない	33.3	周辺に日常的な買い物ができる店が少ない	37.5
3位	個性的なショップや飲食店、大規模なショッピングモールなどが少ない	31.7	特になし	32.7	特になし	30.3	特になし	37.5
4位	特になし	24.4	遊びや余暇活動をする場所が少ない	29.1	周辺に日常的な買い物ができる店が少ない	27.3	地震や風水害、土砂崩れなどの自然災害が多い	25.0
5位	周辺に日常的な買い物ができる店が少ない	14.6	周辺に日常的な買い物ができる店が少ない	23.6	病院・クリニックなどが充実していない	27.3	個性的なショップや飲食店、大規模なショッピングモールなどが少ない	12.5

分野② 子育て・教育

- 上位理由は、「特になし」(68.1%)、「魅力的な学校がない」(17.0%)、「スポーツや音楽などの習い事ができる場所が充実していない」(14.1%)の順。
- 子育ての中心世代である30～40代や、現在子どもがいる家庭でも、「魅力的な学校がない」が主な理由となっているが、「特になし」も一定数いる。

問4-3. 転居意向理由②子育て・教育（複数回答）（N=135人）

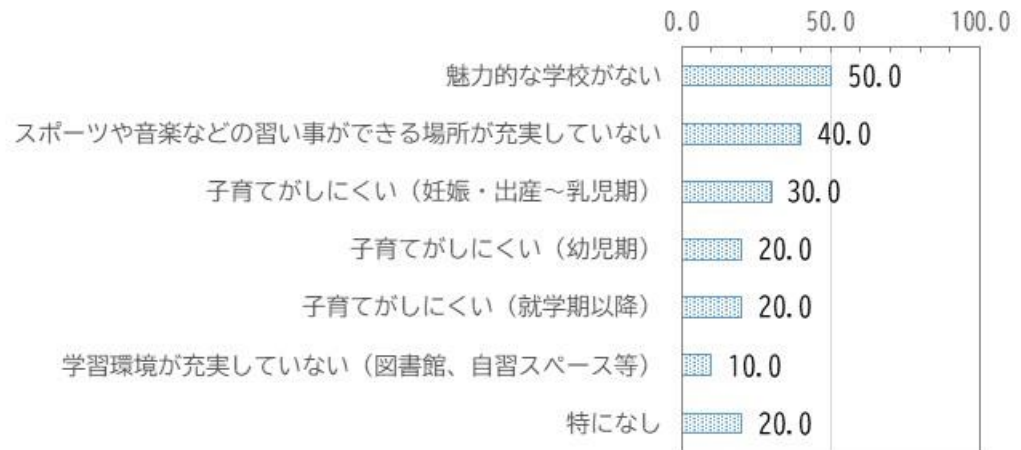


【年齢区分×転居意向（子育て・教育）】

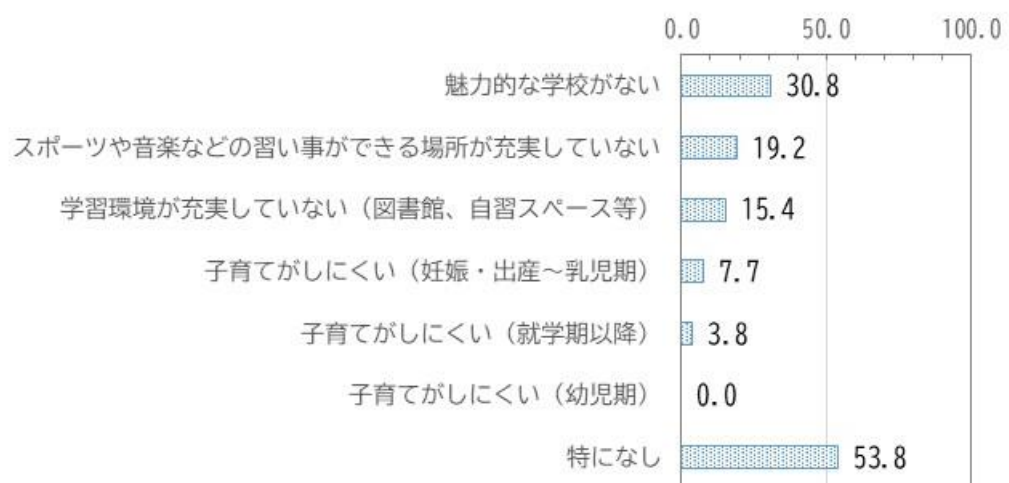
	10～20代(41人)	%	30～40代(54人)	%	50～60代(32人)	%	70～80代(8人)	%
1位	特になし	68.3	特になし	64.8	特になし	68.8	特になし	87.5
2位	魅力的な学校がない	17.1	魅力的な学校がない	22.2	スポーツや音楽などの習い事ができる場所が充実していない	18.8	スポーツや音楽などの習い事ができる場所が充実していない	12.5
3位	学習環境が充実していない(図書館、自習スペース等)	7.3	スポーツや音楽などの習い事ができる場所が充実していない	16.7	魅力的な学校がない	12.5	子育てがしにくい(妊娠・出産～乳児期)	0.0
4位	スポーツや音楽などの習い事ができる場所が充実していない	7.3	子育てがしにくい(就学期以降)	11.1	学習環境が充実していない(図書館、自習スペース等)	9.4	子育てがしにくい(幼児期)	0.0
5位	子育てがしにくい(妊娠・出産～乳児期)	7.3	子育てがしにくい(妊娠・出産～乳児期)	9.3	子育てがしにくい(幼児期)	9.4	子育てがしにくい(就学期以降)	0.0

【子どもがいる家庭×定住意向（子育て・教育）】

未就学児（10人）



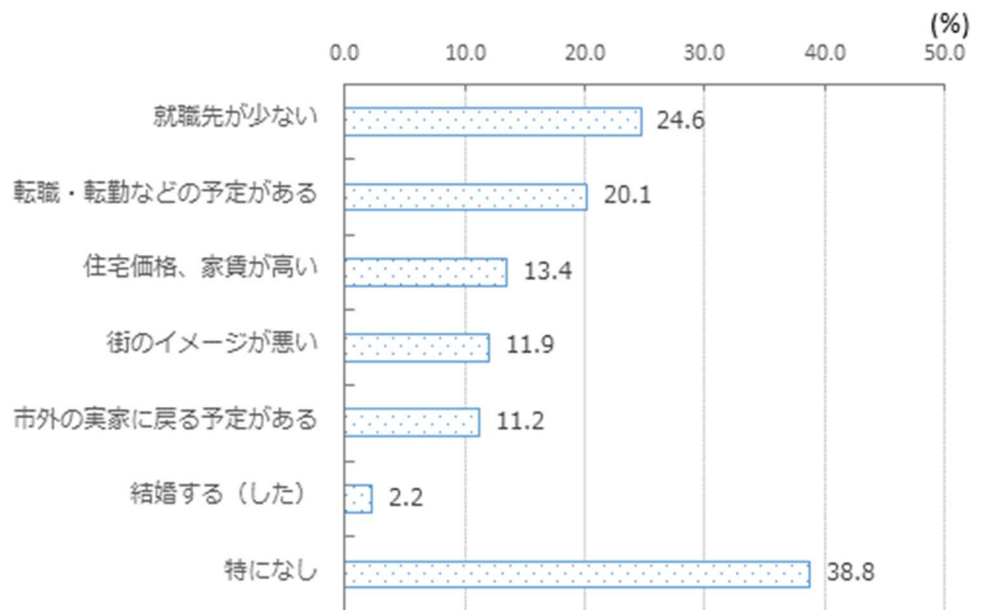
小学生・中学生・高校生（26人）



分野③ 仕事・ライフスタイルなど

- 上位理由は、「特になし」(38.8%)、「就職先が少ない」(24.6%)、「転職・転勤などの予定がある」(20.1%)の順。
- 年代別でみると、10～40代の転居意向は、転職・転勤、就職先の少なさなど、仕事の都合が主な理由となっており、社会の担い手となる世代にとって、「仕事」が重視されていることがわかる。

問4-3. 転居意向理由③仕事・ライフスタイルなど(複数回答)(N=134人)



【年齢区分×転居意向(仕事・ライフスタイルなど)】

	10～20代(41人)	%	30～40代(53人)	%	50～60代(33人)	%	70～80代(7人)	%
1位	特になし	39.0	特になし	35.8	特になし	36.4	特になし	71.4
2位	転職・転勤などの予定がある	29.3	就職先が少ない	26.4	就職先が少ない	27.3	街のイメージが悪い	28.6
3位	就職先が少ない	22.0	転職・転勤などの予定がある	20.8	街のイメージが悪い	21.2	就職先が少ない	14.3
4位	市外の実家に戻る予定がある	14.6	住宅価格、家賃が高い	17.0	転職・転勤などの予定がある	12.1	住宅価格、家賃が高い	14.3
5位	住宅価格、家賃が高い	9.8	市外の実家に戻る予定がある	9.4	市外の実家に戻る予定がある	12.1	転職・転勤などの予定がある	0.0
6位	街のイメージが悪い	7.3	街のイメージが悪い	7.5	住宅価格、家賃が高い	12.1	市外の実家に戻る予定がある	0.0

参考 10～40 代の転居意向（自由記述から抜粋）

10～20 代の転居意向

【生活環境】

- ・ 超大型ショッピングモールがないため
- ・ 他の市にもありがちな店ばかりで、横須賀市特有の店が少ないため
- ・ 海が近い

【子育て・教育】

- ・ 今までに、何回か引っ越ししたが、やや子育てがしづらいため
- ・ 子育てに、県外に住む両親の力がほしいため
- ・ 子どもを自然のある場所で育てたいから

【仕事・ライフスタイル】

- ・ 職場（就職先）から遠すぎるから
- ・ 東京に進学するため
- ・ 学校を卒業後、転勤があるから
- ・ 給料が安い

30～40 代の転居意向

【生活環境】

- ・ 障害者福祉が充実していない
- ・ コミュニティセンターの有料化などスポーツ、文化活動での交流の機会が減った。市外の人だけでなく、住み続ける人のことも考えて欲しい
- ・ 田舎なのに物価が高い
- ・ 交通の便が悪い、坂が多くて老後が不安、車がないと生活が不便
- ・ 公共施設のパーキングが充実していない。有料ばかり
- ・ ショッピングも決して充実しているとは言えないから
- ・ 交通渋滞が酷い、道路工事が進まないから
- ・ 暴走族が多く、治安が悪い。安心して生活できない
- ・ 青少年の家が市税対策なのか減らされている

【子育て・教育】

- ・ 子どもの将来を考えた時に、東京、千葉、埼玉の方が、学校数が豊富なため

【仕事・ライフスタイル】

- ・ 通勤時間が長い
- ・ 街に魅力がない、行政に活気がない、未来に希望が持てないから
- ・ このままだとシニア世代が住む市になると思う。はっきり言って魅力がない

Ⅱ. 近所の方々や地域とのつき合いについて

問5 あなたは、近所の方々と普段どのようなつき合い方をしていますか。(〇は1つ)

- 「道で会えば挨拶ぐらいする」(51.6%)、「たまに立ち話をする」(26.0%)といった『顔見知りの関係¹⁰』(77.6%)が、約8割。
- 「一緒に買い物に行ったり、気の合った人と親しくしている」(4.8%)、「困ったとき、相談したり助け合ったりする」(6.7%)といった『親しい関係¹¹』(11.5%)は、1割程度。
- 「顔もよく知らない」(10.9%)も、約1割。
- 回答傾向は、前回調査(令和2年度実施)と変わらない。

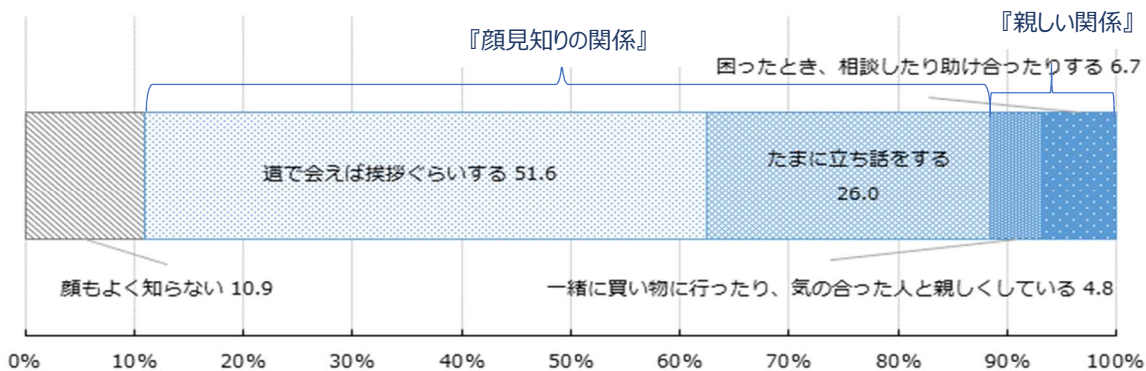
【今回調査】

顔もよく知らない 10.9%、『顔見知りの関係』 77.6%、『親しい関係』 11.5%

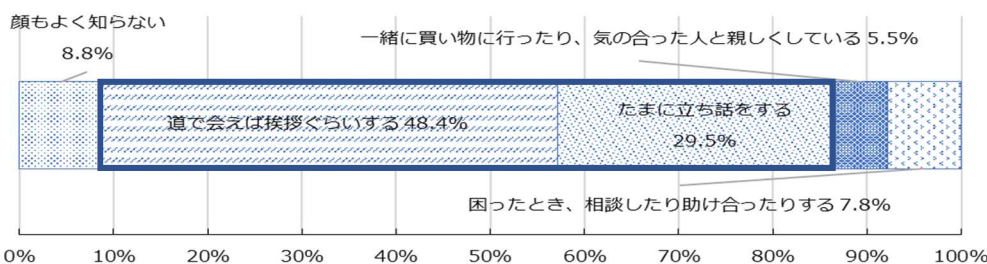
【前回調査(令和2年度実施)】

顔もよく知らない 8.8%、『顔見知りの関係』 77.9%、『親しい関係』 13.3%

問5. 近所とのつき合い方 (N=1387人)



前回調査(令和2年度実施) 隣近所とのつき合い方 (N=1571人)

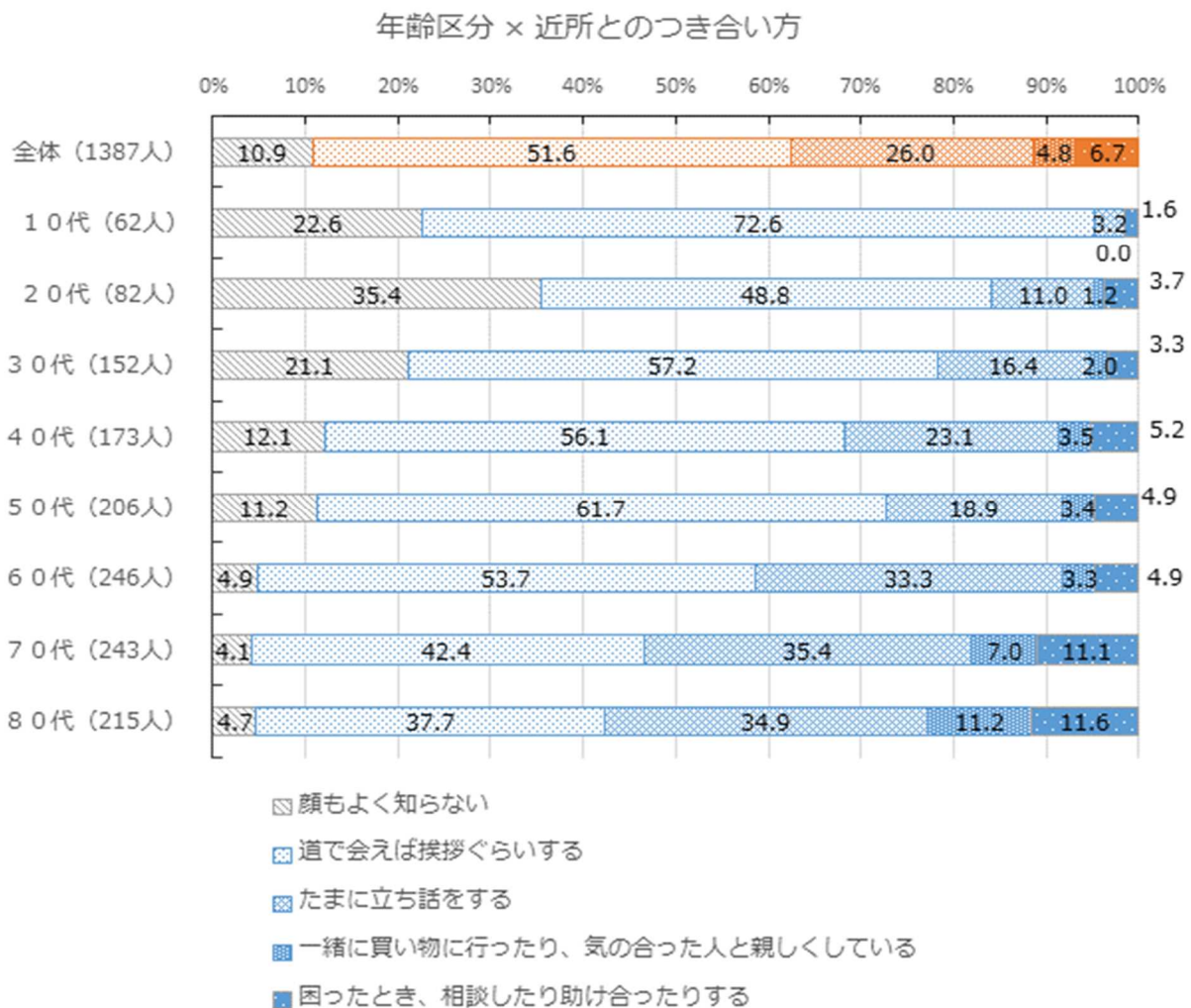


¹⁰ 「道で会えば挨拶ぐらいする」「たまに立ち話をする」の計

¹¹ 「一緒に買い物に行ったり、気の合った人と親しくしている」「困ったとき、相談したり助け合ったりする」の計

【年齢区分×近所とのつき合い方】

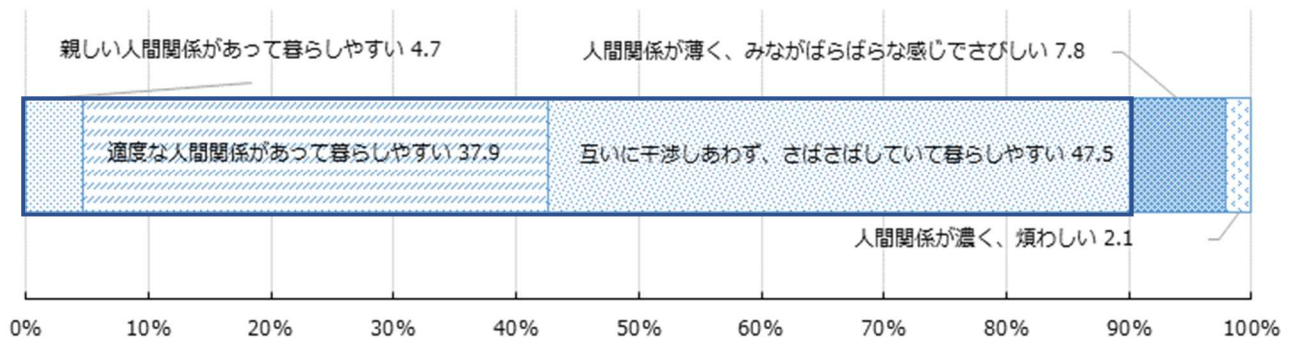
- どの年代も、「道で会えば挨拶ぐらいする」の割合が最も大きい。
- 次いで、
10代～30代は、「顔もよく知らない」の割合が大きく、
40代～80代は、「たまに立ち話をする」の割合が大きい。
- 70代～80代では、『親しい関係』を築いている割合が2割前後となり、他年代より高い。高齢になるほど、日ごろから近所の人たちと互いに助け合う関係性を築いていることがうかがえる。



問6 あなたは、近所の方々とのつき合いをどのように感じていますか。(〇は1つ)

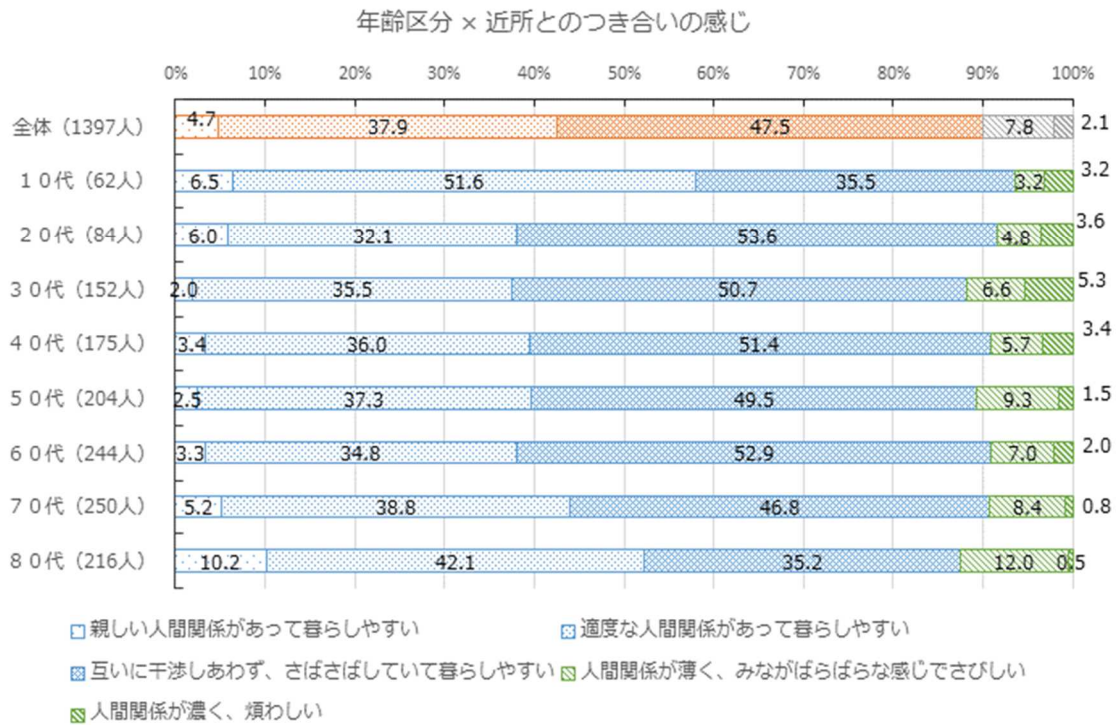
- 「互いに干渉しあわず、さばさばして暮らしやすい」(47.5%)、「適度な人間関係があって暮らしやすい」(37.9%)、「親しい人間関係があって暮らしやすい」(4.7%)
といった、近所の方々との人間関係に不満がなく、暮らしやすいとの回答が、9割。
- 「人間関係が薄く、みながばらばらな感じでさびしい」(7.8%)、「人間関係が濃く、煩わしい」(2.1%)
といった、近所の方々とのつき合いに満足していないと感じている回答が、1割。
- 近所とのつき合い方に濃淡はあるものの、大部分は、暮らしやすい近所つき合いをしていることがうかがえる。

問6. 近所とのつき合いの感じ方 (N=1397人)



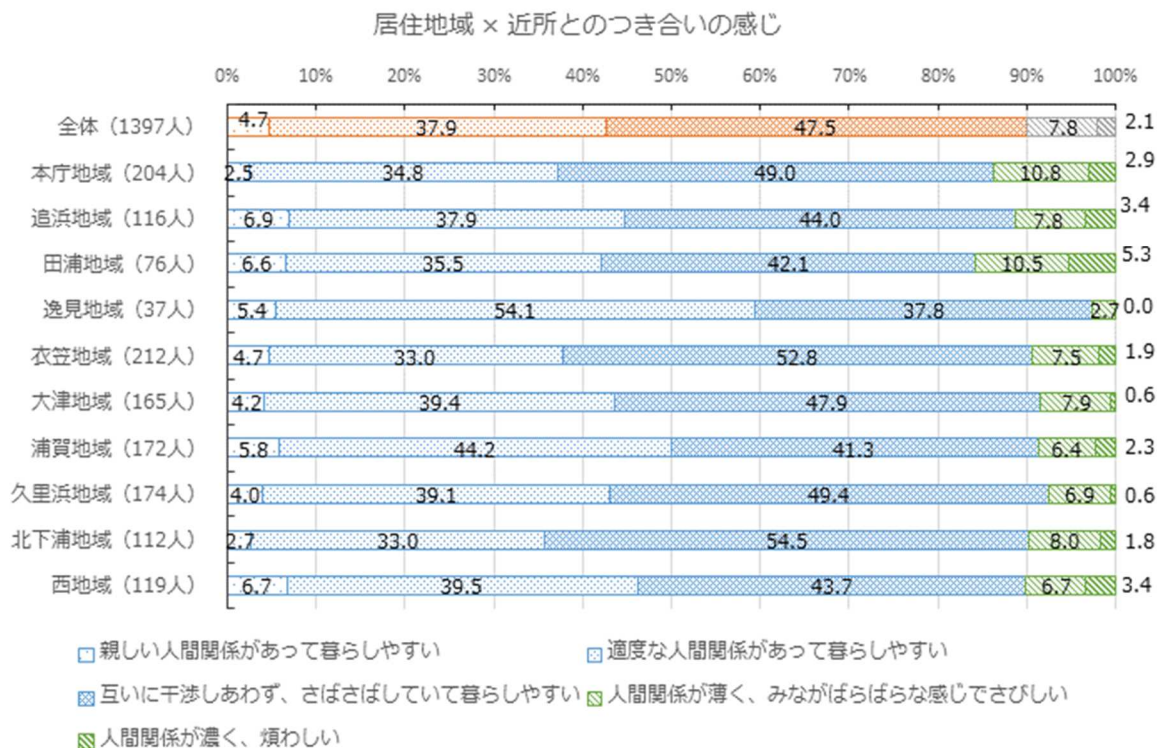
【年齢区分×近所との付き合いの感じ】

- どの年代も、「適度な人間関係があって暮らしやすい」「互いに干渉しあわず、さばさばして暮らしやすい」を選択している割合が大きい。



【居住地域×近所との付き合いの感じ】

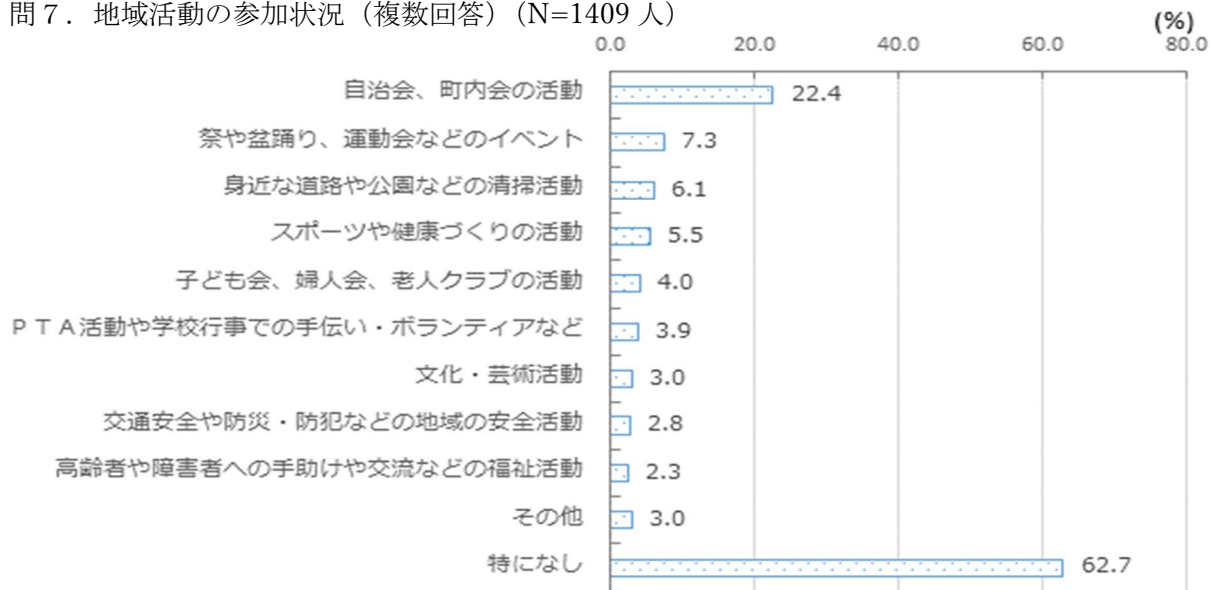
- どの地域も、「適度な人間関係があって暮らしやすい」「互いに干渉しあわず、さばさばして暮らしやすい」を選択している割合が大きい。



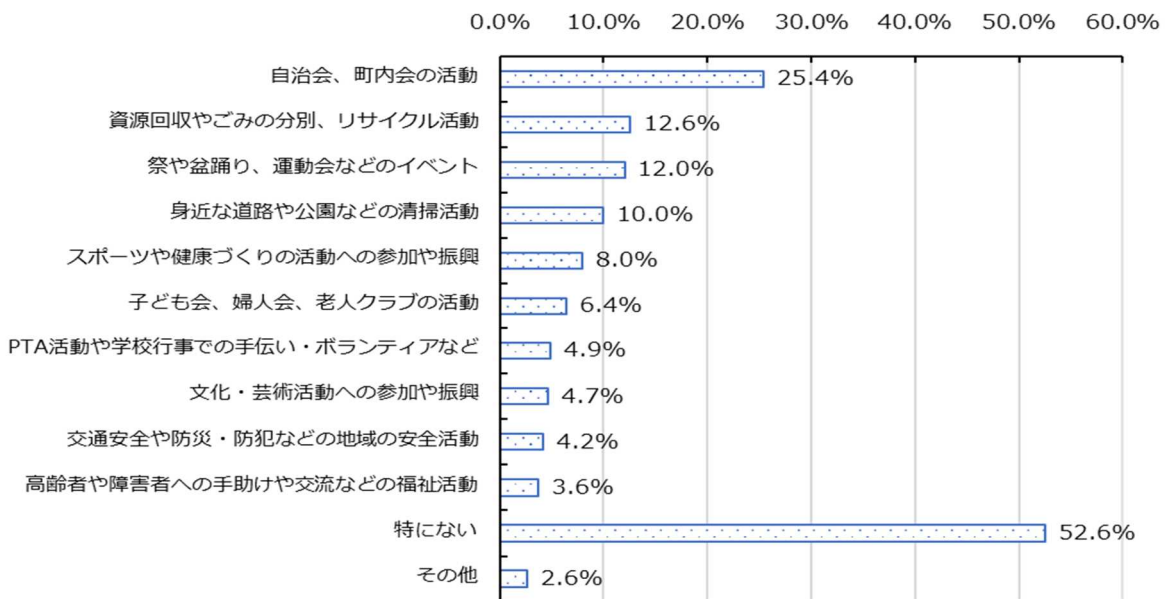
問7 あなたは、現在、地域でどのような活動に参加していますか。(〇はいくつでも)

- 参加している活動の上位は、「自治会、町内会の活動」(22.4%)で約2割。それ以外の地域活動への参加は、1割に満たない。
- 一方で、「特になし」は、6割を超えている。
- 前回調査と比べると、地域での活動を特にしていない割合が、10.1ポイント増加している。コロナ禍で、地域活動そのものが制限されたり、人と会って話す機会が減り、対面でのコミュニケーションが減少したりした影響を受けていると思われる。このまま、地域への関心の低下、地域コミュニティを支える人材不足の加速化につながらないような取り組みや支援が必要である。

問7. 地域活動の参加状況 (複数回答) (N=1409人)



前回調査 (令和2年度実施) 地域活動の参加状況 (N=1564人)



【年齢区分×地域活動の参加状況】

- どの年代も「特になし」が最も多く、特に20代は9割近い。
- 参加している地域活動では、「自治会、町内会の活動」が多く、最も関わりがあるのは、70代で約3割。地域活動を高齢者が支える現状がうかがえる。

	自治会、町内会の活動	子ども会、婦人会、老人クラブの活動	高齢者や障害者への手助けや交流などの福祉活動	身近な道路や公園などの清掃活動	文化・芸術活動	スポーツや健康づくりの活動	祭や盆踊り、運動会などのイベント	P T A活動や学校行事での手伝い・ボランティアなど	交通安全や防災・防犯などの地域の安全活動	その他	特になし
全体 (1409人)	22.4	4.0	2.3	6.1	3.0	5.5	7.3	3.9	2.8	3.0	62.7
10代 (63人)	9.5	0.0	3.2	3.2	3.2	3.2	15.9	6.3	3.2	3.2	66.7
20代 (84人)	3.6	1.2	0.0	3.6	0.0	2.4	4.8	1.2	0.0	0.0	86.9
30代 (151人)	17.2	6.0	2.0	4.6	0.7	3.3	7.9	4.6	1.3	3.3	67.5
40代 (176人)	23.3	4.0	0.6	3.4	0.6	4.5	6.8	10.8	1.1	2.3	63.6
50代 (214人)	25.2	2.3	1.4	2.8	2.3	3.7	7.9	3.3	1.9	1.4	66.4
60代 (245人)	24.1	0.4	4.1	6.5	4.1	4.9	3.3	2.0	2.4	4.5	63.3
70代 (253人)	30.8	5.9	3.6	9.9	4.0	9.9	8.7	3.2	4.0	3.6	51.8
80代 (214人)	22.4	8.9	2.3	9.8	5.6	6.5	7.9	1.9	6.1	3.7	56.5

【地域区分×地域活動の参加状況】

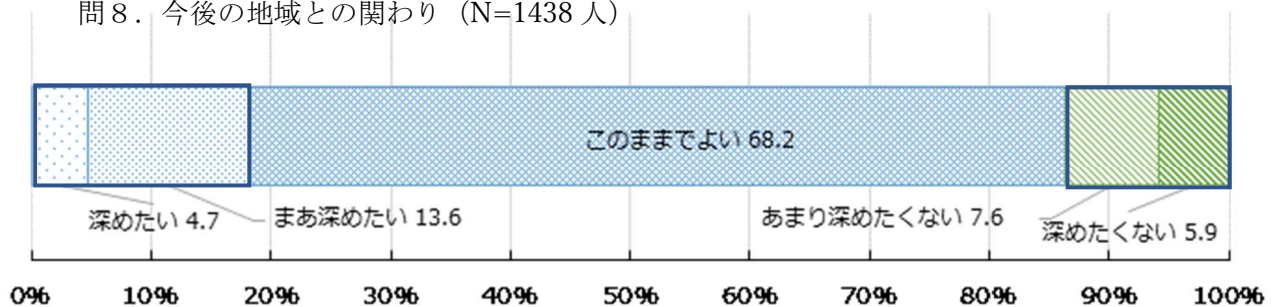
- 地域ごとにばらつきが見られるものの、どの地域も「特になし」が最も多い。
- 一方、どの地域も地域活動で参加率が高いのは、「自治会、町内会の活動」である。

	自治会、町内会の活動	子ども会、婦人会、老人クラブの活動	高齢者や障害者への手助けや交流などの福祉活動	身近な道路や公園などの清掃活動	文化・芸術活動	スポーツや健康づくりの活動	祭や盆踊り、運動会などのイベント	P T A活動や学校行事での手伝い・ボランティアなど	交通安全や防災・防犯などの地域の安全活動	その他	特になし
全体 (1409人)	22.4	4.0	2.3	6.1	3.0	5.5	7.3	3.9	2.8	3.0	62.7
本庁地域 (209人)	15.8	4.8	1.9	5.3	2.9	2.9	5.7	3.3	2.4	1.9	69.9
追浜地域 (111人)	18.9	3.6	1.8	8.1	3.6	7.2	9.9	4.5	5.4	4.5	63.1
田浦地域 (77人)	37.7	9.1	3.9	10.4	2.6	10.4	10.4	5.2	2.6	3.9	44.2
逸見地域 (36人)	27.8	0.0	0.0	2.8	5.6	8.3	11.1	13.9	0.0	2.8	55.6
衣笠地域 (208人)	18.3	1.4	1.0	2.4	1.9	3.8	3.8	2.9	1.4	1.9	70.7
大津地域 (170人)	28.8	6.5	4.1	11.2	2.9	7.1	6.5	3.5	4.1	2.9	59.4
浦賀地域 (178人)	27.5	4.5	3.4	6.2	4.5	6.7	9.6	3.4	1.7	1.7	53.9
久里浜地域 (176人)	20.5	3.4	2.8	6.3	4.5	5.1	9.7	2.8	4.0	2.8	65.9
北下浦地域 (113人)	15.9	1.8	2.7	5.3	0.0	3.5	4.4	4.4	2.7	3.5	68.1
西地域 (122人)	26.2	4.1	0.8	4.1	1.6	4.9	7.4	4.9	2.5	6.6	59.0

問8 あなたは、今後、地域との関わりをより深めたいと思っていますか。あなたのお気持ちに最も近いものを選んでください。(〇は1つ)

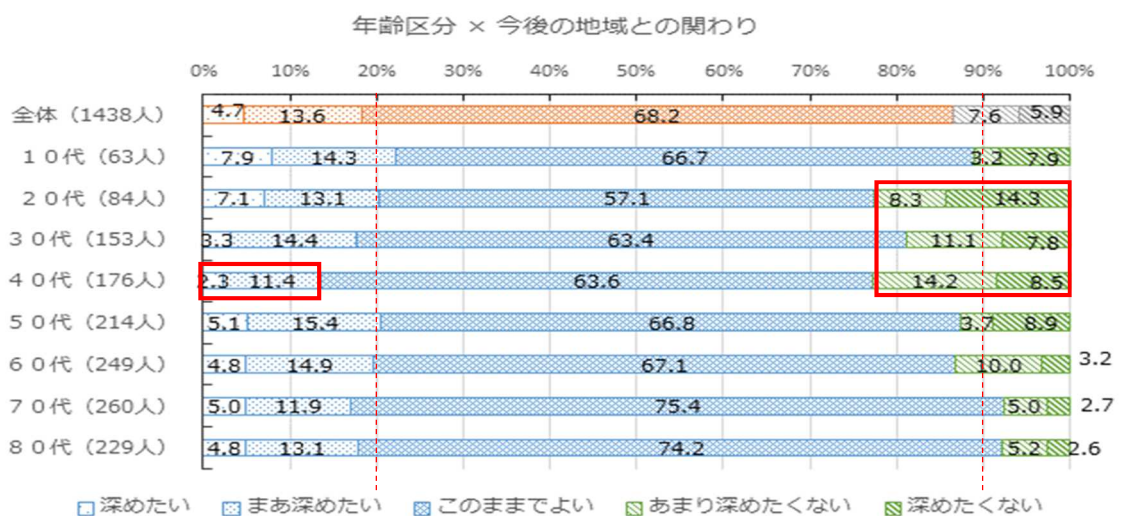
- 「このままでよい」(68.2%)が、約7割と最も大きい。
- 『関係性を深めたい(計)¹²』(18.3%)は、約2割。
一方、『関係性を深めたくない(計)¹³』(13.5%)は、約1割。

問8. 今後の地域との関わり (N=1438人)



【年齢区分×今後の地域との関わり】

- どの年代も、「このままでよい」が最も多い。
- ほとんどの年代で、『関係性を深めたい(計)』は、2割前後だが、40代では、1割強(13.7%)と、さらに低い。
- また、『関係性を深めたくない(計)』は、1割前後が多いなか、20代~40代では、2割前後と、やや高い。
- この年代は、仕事や子育てなどを通じて、すでに複数の所属コミュニティに関わりがあり、さらに、日々の生活に追われ時間的余裕がなく、地域との関わりを積極的に求めていることが推察される。



¹² 「深めたい」「まあ深めたい」の計

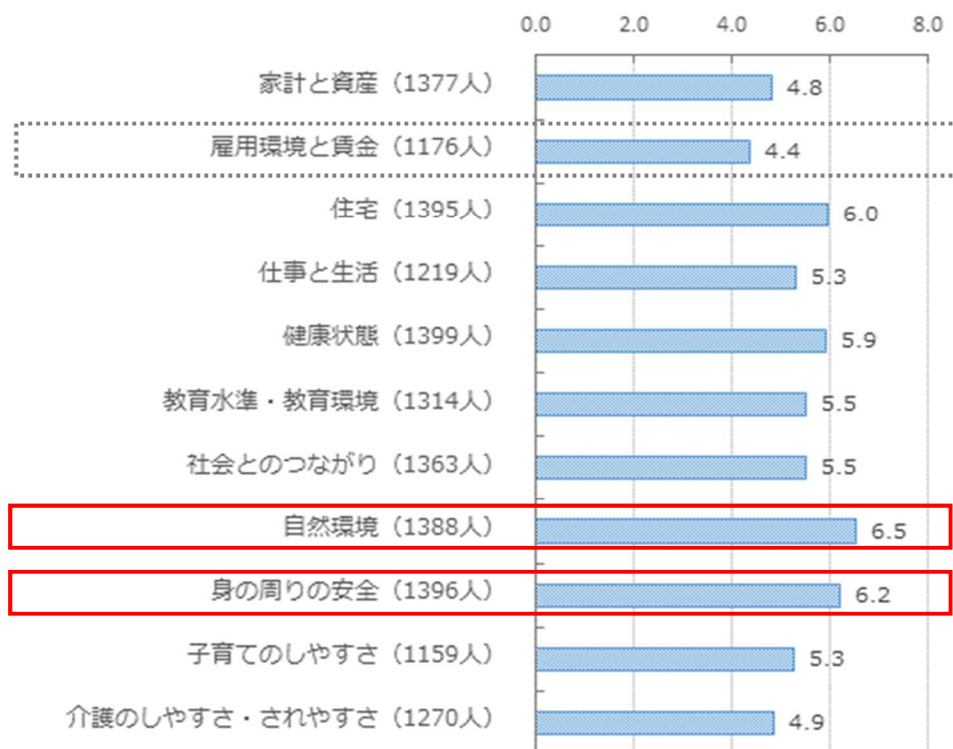
¹³ 「あまり深めたくない」「深めたくない」の計

Ⅲ. 生活意識について

問9 あなたは、以下の、生活に関するさまざまな分野における**満足の度合い**について、「非常に満足している」を10点、「全く満足していない」を0点とすると、何点くらいになるとお考えですか。(〇はそれぞれ1つ)

- 満足度が高い分野は、「自然環境」(10点満点中平均 6.5)、「身の周りの安全」(6.2)。
- 一方、「雇用環境と賃金」(4.4)は、満足度がやや低い。
- 前回調査と比べると、全体的に満足度が下がっている。コロナ禍において、感染リスクによる健康状態の不安の高まりや、日頃の感染対策、さらには登園・登校自粛などによる育児負担の増加、労働環境の急激な変化、社会とのつながりの希薄化など、コロナによる社会への様々な影響が大きいと思われる。これに加えて、昨今の物価高による家計圧迫などが追い打ちをかけていると推察される。

問9. 分野別主観満足度

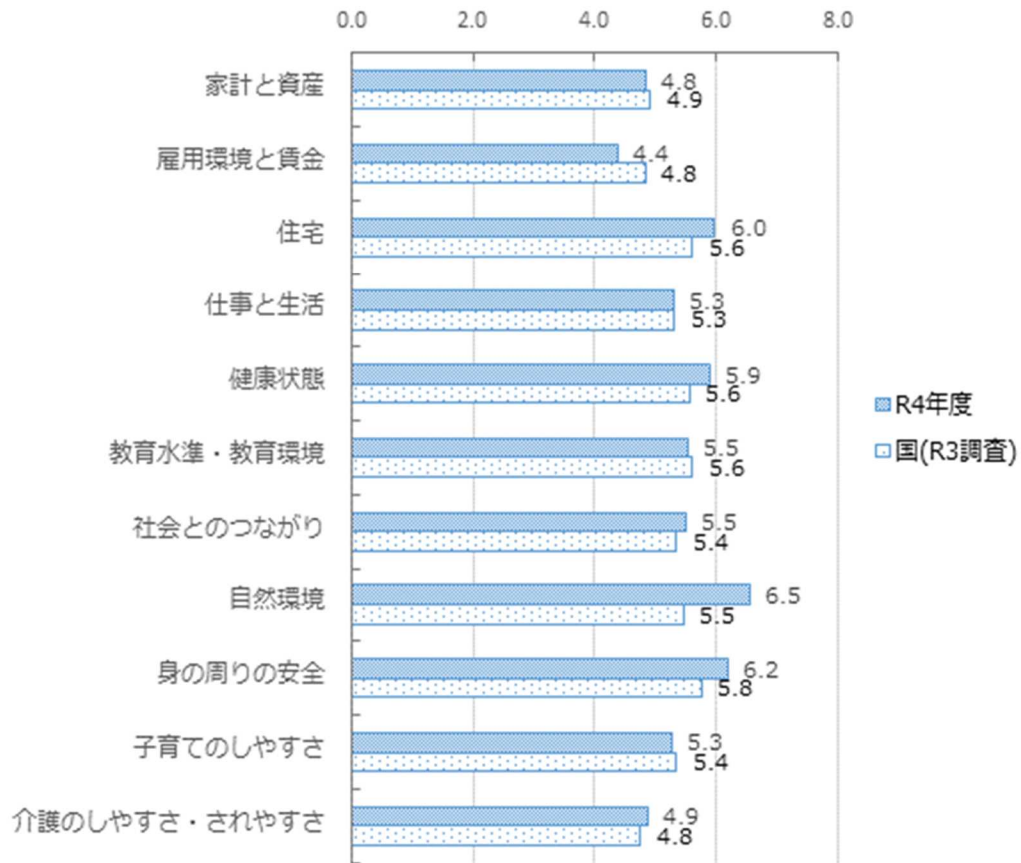


【分野別主観満足度 (R4年度とR2年度のポイント差)】

	家計と資産	雇用環境と賃金	住宅	仕事と生活	健康状態	教育水準・教育環境	社会とのつながり	自然環境	身の周りの安全	子育てのしやすさ	介護のしやすさ・されやすさ
R4年度	4.8	4.4	6.0	5.3	5.9	5.5	5.5	6.5	6.2	5.3	4.9
R2年度	5.1	4.8	6.4	5.6	6.3	6.0	5.7	6.8	6.5	5.7	5.2
ポイント差	▲ 0.3	▲ 0.4	▲ 0.4	▲ 0.3	▲ 0.4	▲ 0.4	▲ 0.2	▲ 0.3	▲ 0.3	▲ 0.5	▲ 0.3

【参考】分野別主観満足度（R4年度と国調査(R3)¹⁴の比較）

- 調査方法やサンプル数などが異なり、単純に比較することはできないが、類似の内閣府の調査と比べると、「住宅」や「身の周りの安全」など6分野で満足度が高く、特に「自然環境」は、1.1ポイント高い。



【R4年度と国調査(R3)のポイント差】

	家計と資産	雇用環境と賃金	住宅	仕事と生活	健康状態	教育水準・教育環境	社会とのつながり	自然環境	身の周りの安全	子育てのしやすさ	介護のしやすさ・されやすさ
R4年度	4.8	4.4	6.0	5.3	5.9	5.5	5.5	6.5	6.2	5.3	4.9
国(R3調査)	4.9	4.8	5.6	5.3	5.6	5.6	5.4	5.5	5.8	5.4	4.8
ポイント差	▲ 0.1	▲ 0.5	0.4	▲ 0.0	0.3	▲ 0.1	0.2	1.1	0.4	▲ 0.1	0.1

¹⁴ 内閣府「満足度・生活の質に関する調査報告書 2021」参考資料

【年齢区分×分野別主観満足度】

- 年代別でみると、どの年代でも「自然環境」「身の周りの安全」は高く、一方、働き盛りの30代～40代で「雇用環境と賃金」が低い。
- 「自然環境」の満足度の高さについては、横須賀が東京湾と相模湾に面し、三方を海に囲まれており、「海がすぐそこにある」生活が送れること、豊かな自然が残っていることなどが要因になっていると思われる。
- 一方、「雇用環境と賃金」は、コロナ禍による外食産業やサービス業などを中心とした雇用や所得状況の悪化や物価高が大きく影響していると思われる。

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
家計と資産	6.0	4.9	4.3	4.6	4.7	5.8	5.7	5.7
雇用環境と賃金	5.0	4.5	4.1	4.2	4.5	4.6	4.3	4.2
住宅	7.0	6.1	5.9	5.7	5.6	5.9	5.9	6.4
仕事と生活	6.3	5.5	5.2	5.2	5.1	5.6	5.2	5.0
健康状態	7.4	6.6	6.3	5.8	5.7	5.8	5.7	5.7
教育水準・教育環境	6.7	6.0	5.6	5.3	5.3	5.5	5.4	5.4
社会とのつながり	6.3	5.7	5.8	5.5	5.3	5.5	5.3	5.4
自然環境	6.9	6.5	6.6	6.4	6.3	6.5	6.6	6.7
身の周りの安全	6.6	6.3	6.0	6.1	6.1	6.1	6.3	6.3
子育てのしやすさ	5.8	5.2	4.9	5.1	5.2	5.4	5.4	5.6
介護のしやすさ・されやすさ	5.8	4.9	4.6	4.5	4.5	5.0	4.9	5.4

※10点満点中、平均6.0以上を黄色、4.3以下を灰色に着色。

【「雇用と賃金」の満足度（年代、性別、有職・有職以外）】

- 全体的に、満足度が低い「雇用環境と賃金」だが、有職者は、年齢が上がるにつれて、男女ともに満足度があがる傾向。
- 一方、有職者以外は、男性の満足度が低い。

	20代		30代		40代		50代		60代	
	有職	有職以外	有職	有職以外	有職	有職以外	有職	有職以外	有職	有職以外
男性	4.0	5.7	3.6	3.8	4.6	0.0	4.9	1.3	4.9	3.7
(n)	(22人)	(12人)	(47人)	(4人)	(55人)	(0人)	(74人)	(6人)	(82人)	(32人)
女性	4.4	4.7	4.2	4.6	4.2	3.0	4.6	3.5	4.8	4.5
(n)	(35人)	(14人)	(83人)	(13人)	(86人)	(26人)	(91人)	(33人)	(69人)	(47人)

※有職者は、自営業主・家族従業者、経営者、正社員、パート・アルバイトなど

※有職者以外は、主婦・主夫、学生、無職

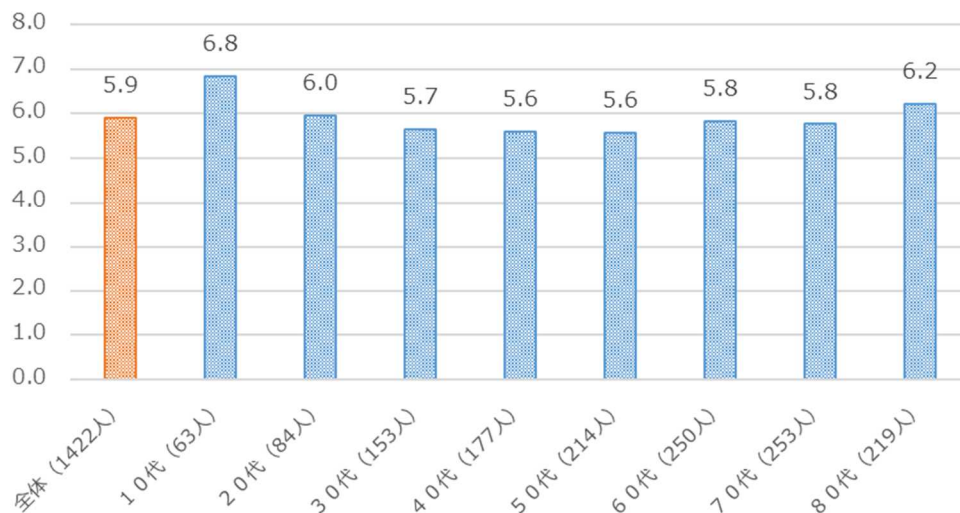
問10 あなたは、全体として現在の生活にどの程度満足していますか。「非常に満足している」を10点、「全く満足していない」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。(〇は1つ)

- 「生活全体の満足度」は、5.9ポイント。前回調査と比較すると、0.3ポイント低下。コロナ対策や止まらない物価高のなか、健康面や収入・雇用面など、生活全般において、先行きの見えない不安感が影響していると推察される。
- しかし、前問(問9)同様に単純比較はできないが、類似の内閣府の調査結果よりは、0.2ポイント高い。
- 年代別でみると、30代~50代で他の年代よりも低くなっている。この年代は、仕事や子どもを通じた社会とのつながりが多い世代である。コロナによる雇用不安や住宅時間が増えたことによる家事や育児負担の増加、対面コミュニケーション不足などがその要因と考えられる。さらに、物価高が大きく影響を受けているものと推察される。

問10. 生活全体の満足度

生活全体の満足度			
R4年度 (1422人) : 5.9			
R2年度 (1591人)	6.2	国(R3調査)	5.7
ポイント差	▲ 0.3	ポイント差	0.2

【年齢区分×生活全体の満足度】



問 1 1 問 1 0 でお伺いした「現在の生活全体の満足度」を判断する際に、重視した事項は何ですか。第 1 位から第 3 位の順に、それぞれ 1 つずつ選んで、番号をお書きください。

- 「生活全体の満足度」を判断する要因として「家計と資産」「健康状態」「住宅」の満足度が大きく影響していることがわかる。
- 前回調査と比較しても、直接的に生活基盤の安定に関わる分野の充実が、生活全体の満足度の大きな要因となっている。

問 11. 生活全体の満足度を判断する際の重視事項 (%)

	第 1 位	第 2 位	第 3 位
家計と資産	23.2	12.5	9.9
健康状態	19.9	18.5	15.8
住宅	13.6	14.9	14.0
仕事と生活	10.6	10.8	9.5
自然環境	10.1	10.3	10.3
雇用環境と賃金	7.4	10.3	6.3
身の周りの安全	5.8	10.3	15.6
社会とのつながり	3.5	5.4	7.8
介護のしやすさ・されやすさ	2.5	2.9	6.3
子育てのしやすさ	2.2	2.5	2.5
教育水準・教育環境	1.3	1.6	2.1

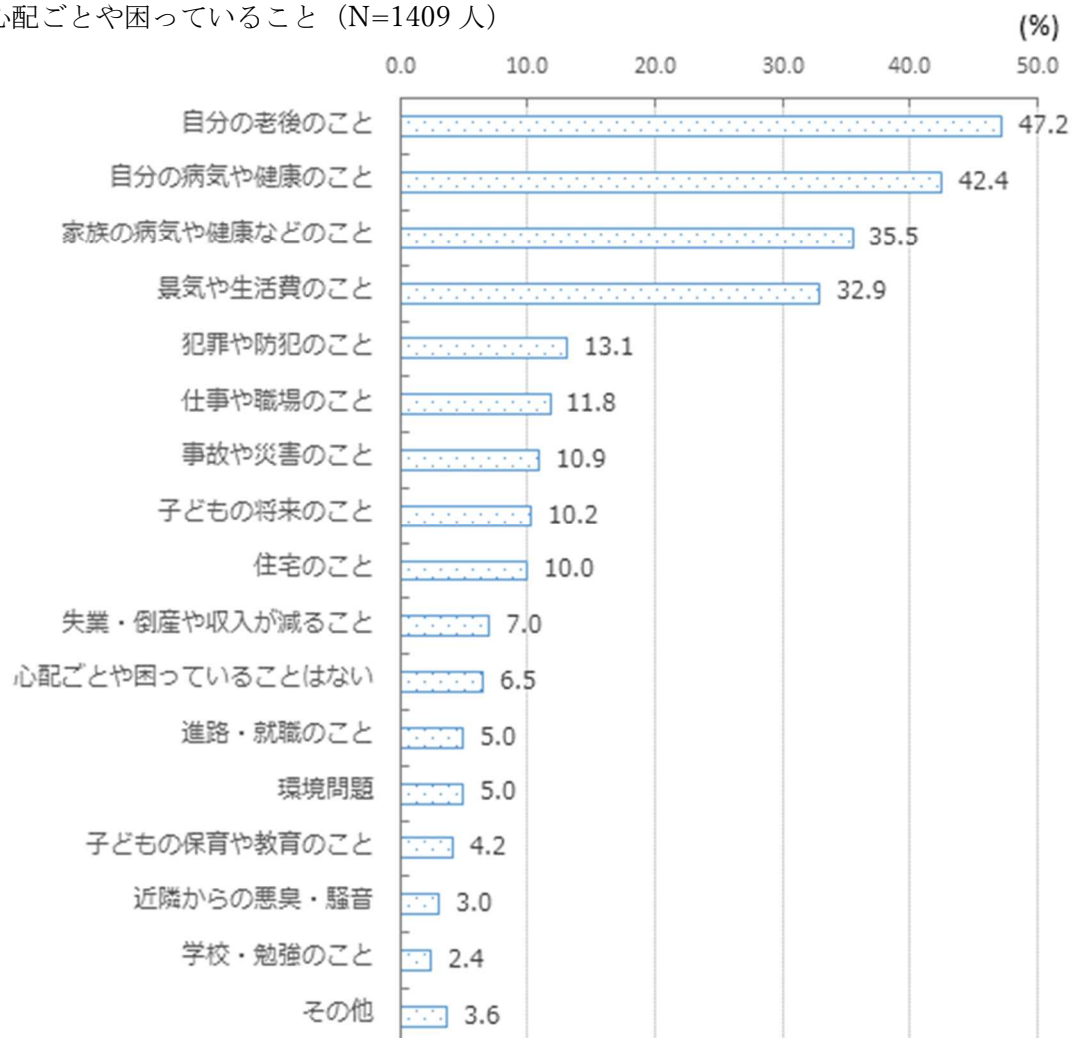
前回調査（令和 2 年度実施） (%)

	第1位	第2位	第3位
家計と資産	28.5	13.1	10.5
健康状態	21.8	19.2	14.7
住宅	12.1	15.9	13.3
仕事と生活	10.8	10.1	10.4
自然環境	6.8	7.6	10.0
雇用環境と賃金	6.5	11.4	6.7
身の周りの安全	5.1	6.8	13.1
社会とのつながり	3.3	8.0	9.1
子育てのしやすさ	2.4	3.4	3.5
介護のしやすさ・されやすさ	1.8	3.2	6.7
教育水準・教育環境	0.8	1.4	2.0

問 1 2 あなたは、近頃、ご自分やご家族の生活のことで心配ごとや困っていることがありますか。(〇は3つまで)

- 「自分の老後のこと」(47.2%) が最も多く、5割近い。次いで、「自分の病気や健康のこと」(42.4%)、「家族の病気や健康などのこと」(35.5%) となっている。
- これから迎える「自分の老後」に、急速に変化する社会状況のなか、先行きを見通せない不透明感から特に健康や金銭面で漠然と不安を抱えていることが推察される。
- 「病気や健康のこと」は、肉体的なことだけでなく、経済的にも影響することが多い。不確かな要素が多いうえ、当人だけでなく、家族に与える負担も大きいことが不安の上位の理由ではないかと思われる。

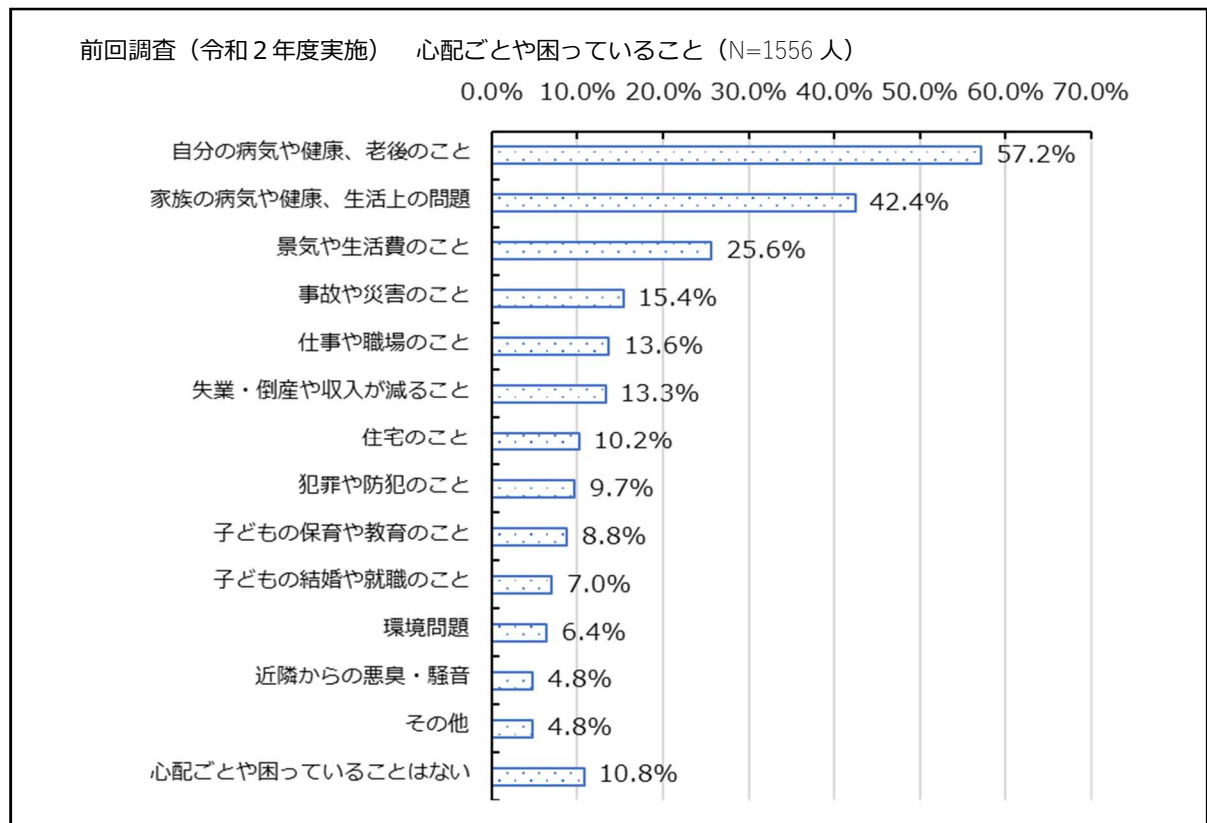
問 12. 心配ごとや困っていること (N=1409 人)



【年齢区分×心配ごとや困っていること】

- 全ての年代で、「景気や生活費」に不安を抱えており、特に、30代でその傾向が強い。
- 「自分の老後」に対する不安は、40代～60代における一番の心配ごと。
- 40代から自分の健康の不安が強くなり、60代から一層、その傾向は強まる。

	10代 (63人)	%	20代 (84人)	%	30代 (149人)	%	40代 (167人)	%	50代 (211人)	%	60代 (247人)	%	70代 (253人)	%	80代 (225人)	%
1位	進路・就職のこと	58.7	仕事や職場のこと	35.7	景気や生活費のこと	45.6	自分の老後のこと	40.7	自分の老後のこと	57.8	自分の老後のこと	56.7	自分の病気や健康のこと	59.3	自分の病気や健康のこと	71.6
2位	学校・勉強のこと	36.5	景気や生活費のこと	28.6	自分の老後のこと	33.6	景気や生活費のこと	37.7	家族の病気や健康などのこと	43.6	自分の病気や健康のこと	44.5	自分の老後のこと	55.7	自分の老後のこと	50.2
3位	心配ごとや困っていることはない	15.9	自分の老後のこと	26.2	家族の病気や健康などのこと	31.5	家族の病気や健康などのこと	28.7	景気や生活費のこと	37.9	景気や生活費のこと	36.4	家族の病気や健康などのこと	41.5	家族の病気や健康などのこと	44.0
4位	景気や生活費のこと	12.7	家族の病気や健康などのこと	23.8	仕事や職場のこと	24.2	自分の病気や健康のこと	28.1	自分の病気や健康のこと	37.0	家族の病気や健康などのこと	32.0	景気や生活費のこと	27.7	景気や生活費のこと	24.4
5位	犯罪や防犯のこと	12.7	進路・就職のこと	17.9	子どもの将来のこと	22.8	子どもの将来のこと	26.3	仕事や職場のこと	19.4	住宅のこと	15.0	犯罪や防犯のこと	16.2	犯罪や防犯のこと	19.1

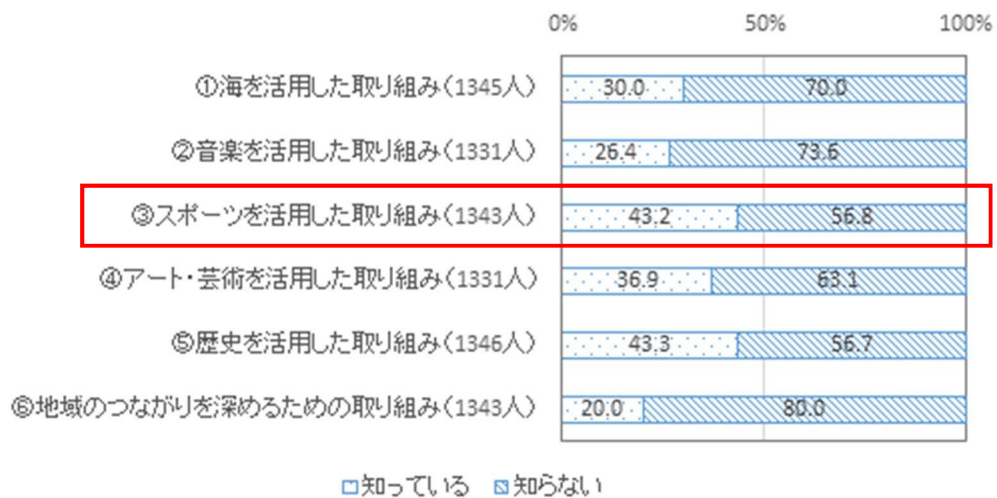


IV. 横須賀市の主な取り組みについて

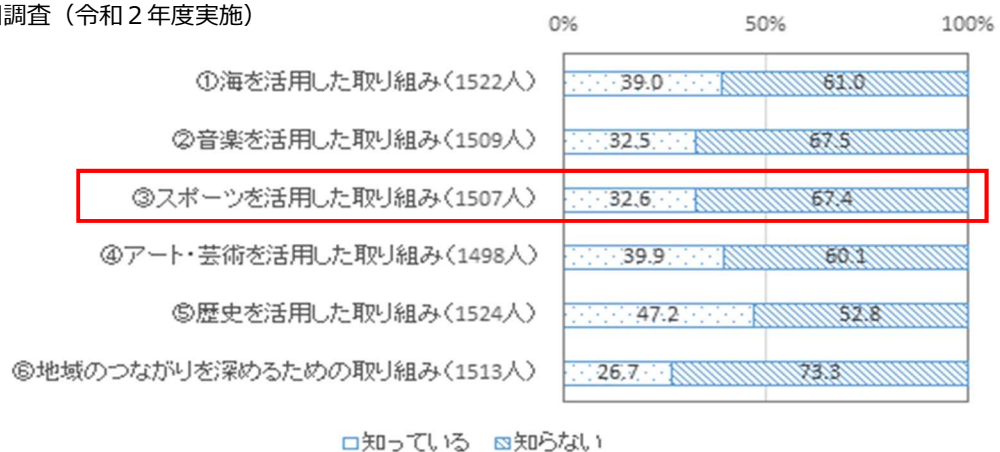
問 13 あなたは、横須賀市の次のような取り組みについて知っていますか。(〇はそれぞれ1つ)

- 「スポーツを活用した取り組み」と「歴史を活用した取り組み」の認知度が高く、4割を超えている。
- 前回調査と比較すると「スポーツを活用した取り組み」の認知度が10.6ポイント上昇。横浜F・マリノスの練習拠点を整備したことや、全日本レベルのBMX大会が開催されたことなどが、認知度向上に影響していると思われる。
- 年代別では、分野ごとの認知度に大きな違いはない。
- 地域別でみると、久里浜で「スポーツを活用した取り組み」、大津で「アート・芸術を活用した取り組み」、浦賀で「歴史を活用した取り組み」の認知度が、それぞれ約5割となっている。各々、横浜F・マリノス、浦賀レンガドッグの活用、1万メートルプロムナードの壁面アートなどが、地域に浸透し、認知度向上につながっていると推察される。

問 13 取り組みの認知度



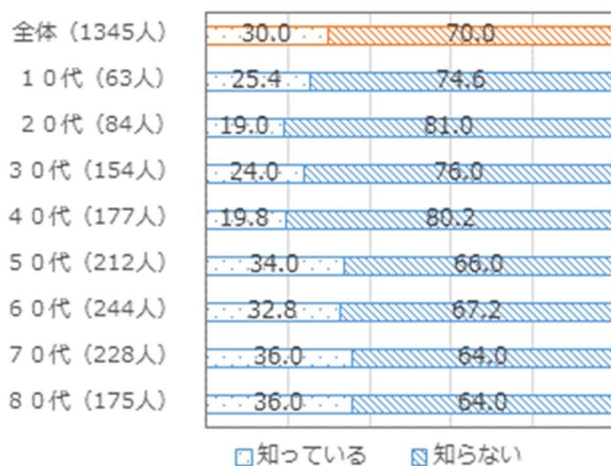
前回調査 (令和2年度実施)



【年齢区分×取り組みの認知度】

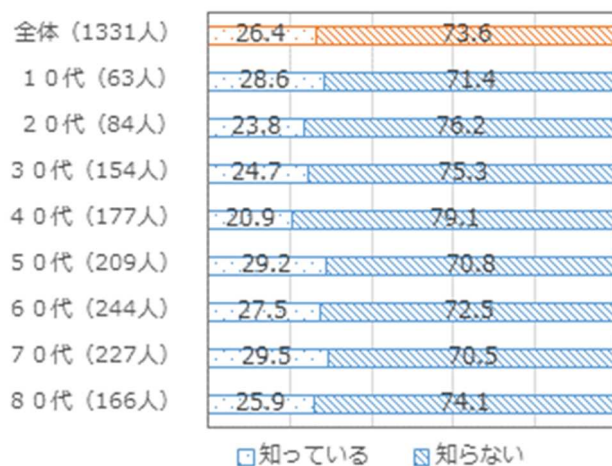
①海を活用した取り組み

0% 20% 40% 60% 80% 100%



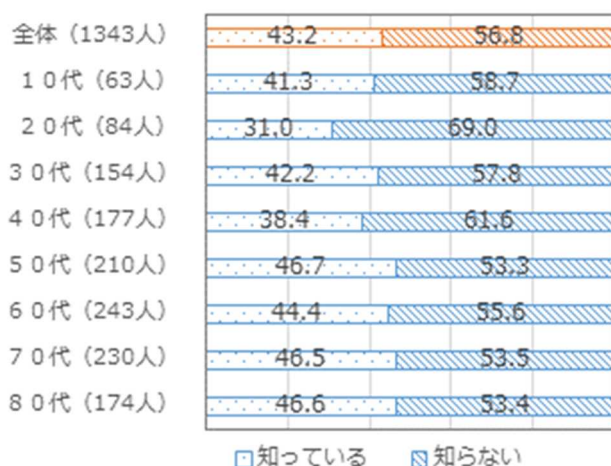
②音楽を活用した取り組み

0% 20% 40% 60% 80% 100%



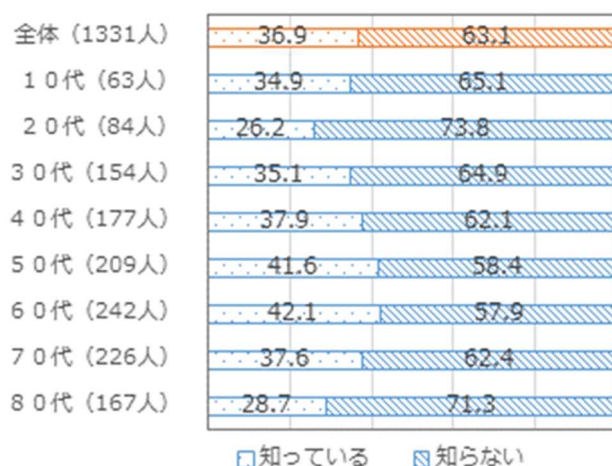
③スポーツを活用した取り組み

0% 20% 40% 60% 80% 100%



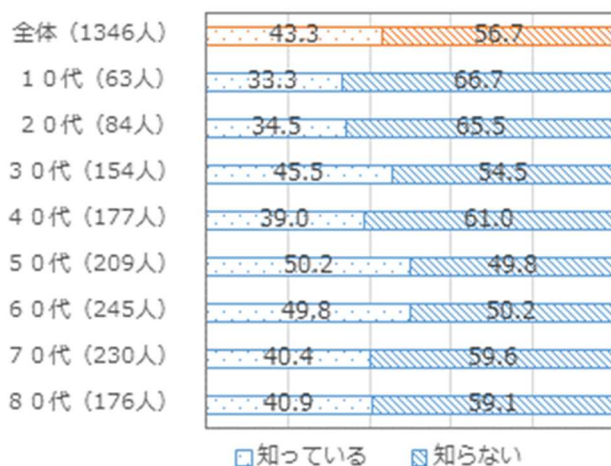
④アート・芸術を活用した取り組み

0% 20% 40% 60% 80% 100%



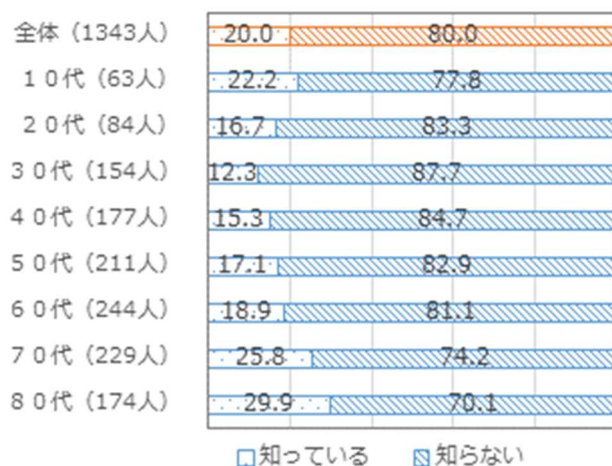
⑤歴史を活用した取り組み

0% 20% 40% 60% 80% 100%



⑥地域のつながりを深めるための取り組み

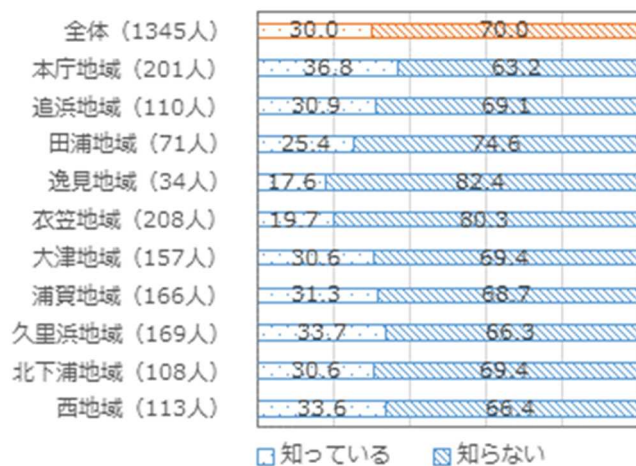
0% 20% 40% 60% 80% 100%



【居住地域×取り組みの認知度】

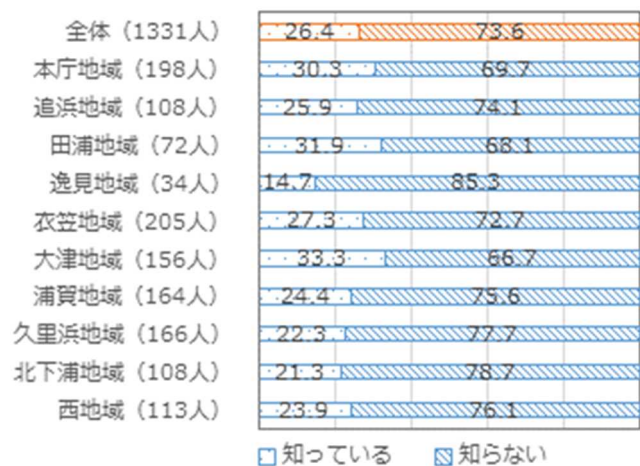
①海を活用した取り組み

0% 20% 40% 60% 80% 100%



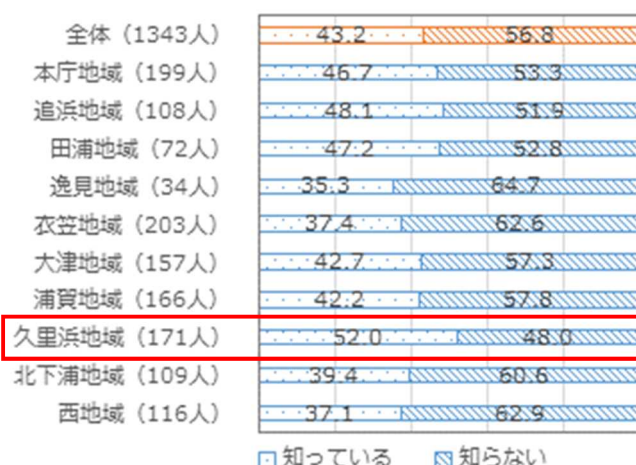
②音楽を活用した取り組み

0% 20% 40% 60% 80% 100%



③スポーツを活用した取り組み

0% 20% 40% 60% 80% 100%



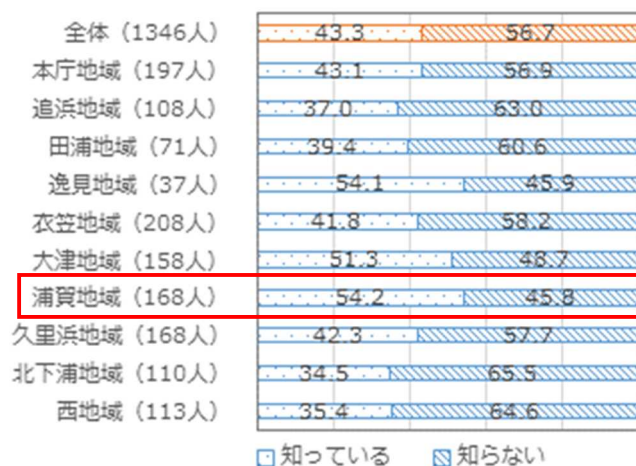
④アート・芸術を活用した取り組み

0% 20% 40% 60% 80% 100%



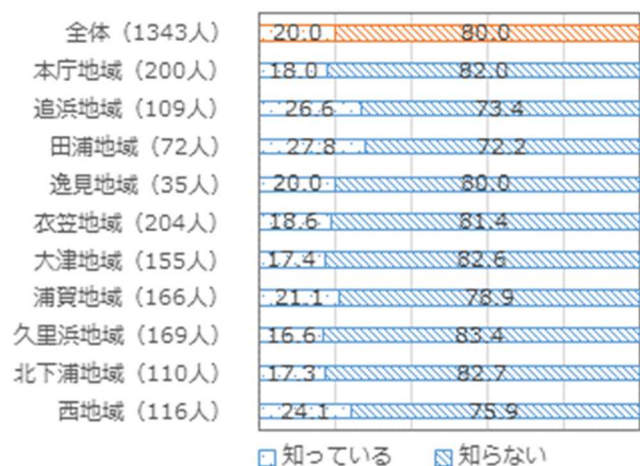
⑤歴史を活用した取り組み

0% 20% 40% 60% 80% 100%



⑥地域のつながりを深めるための取り組み

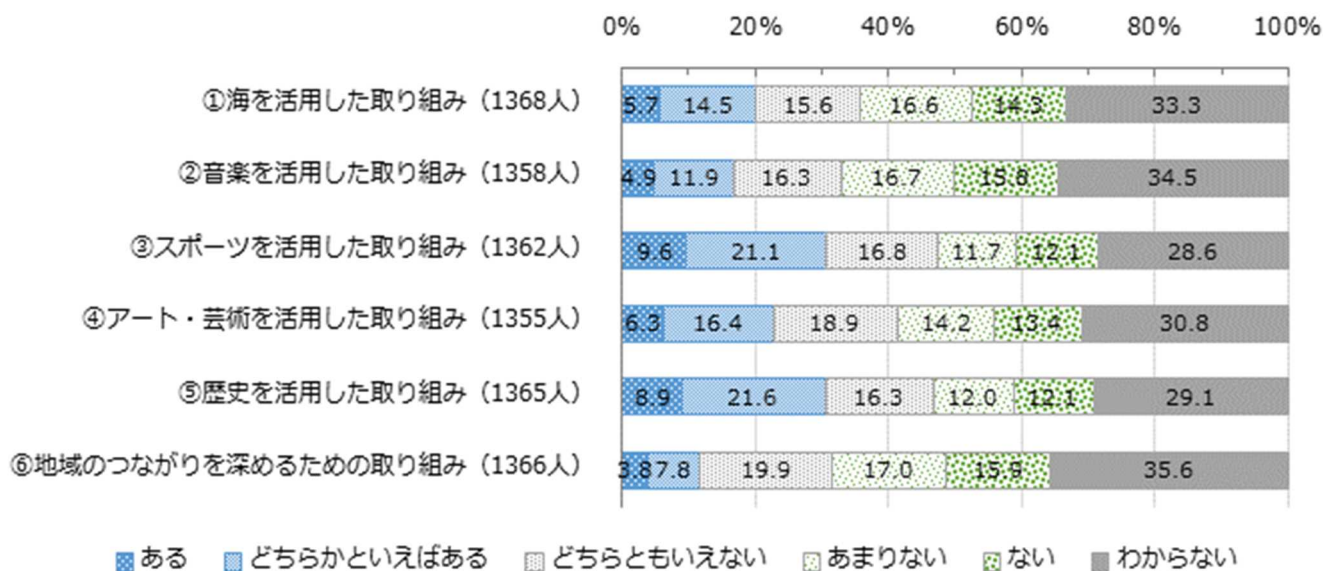
0% 20% 40% 60% 80% 100%



問 1 4 今の横須賀市で、次の取り組みが進んでいる実感はありますか。
(〇はそれぞれ1つ)

- どの取り組みについても、「わからない」が、3割前後。
- 前回（令和2年度）、前々回（平成30年度）調査と比較すると、平成30年度と令和2年度の実感の変化が大きい。令和2年度と今回は、「わからない」がやや増えているものの、実感の変化は緩やか。
- 令和2年（2020年）から続く、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、開催を予定していた取り組みの延期や中止を余儀なくされたことが、ここ数年間の実感の変化に影響を与えていると推察される。また、市民の関心事が、日々の暮らしや身近な人の健康を守るかにあったことも影響しているものと思われる。
- そのなか「スポーツを活用した取り組み」は、前回調査から「実感がある（計）¹⁵」が10.0ポイント伸びている。ウインドサーフィンワールドカップの3年ぶりの開催や、横浜F・マリノスの練習場の練習拠点の完成、BMXの全日本レベルの大会開催などが、取り組みが進んでいる実感につながっているのではないかとと思われる。

問 14 進んでいる実感のある取り組み

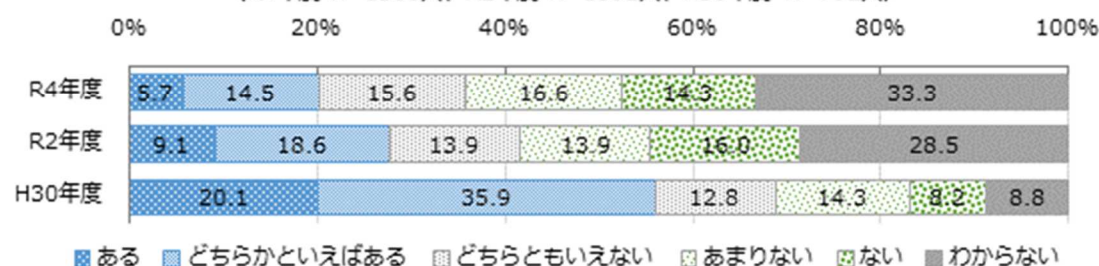


¹⁵ 「ある」「どちらかといえばある」の計

【経年比較】

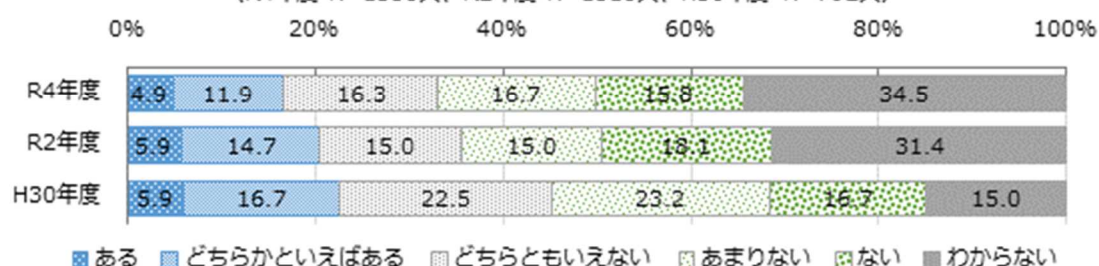
①海を活用した取り組み

(R4年度 N=1368人、R2年度 N=1592人、H30年度 N=792人)



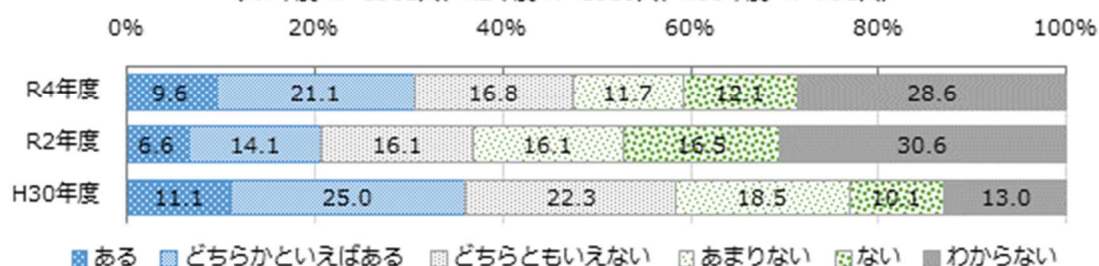
②音楽を活用した取り組み

(R4年度 N=1358人、R2年度 N=1518人、H30年度 N=792人)



③スポーツを活用した取り組み

(R4年度 N=1362人、R2年度 N=1518人、H30年度 N=791人)



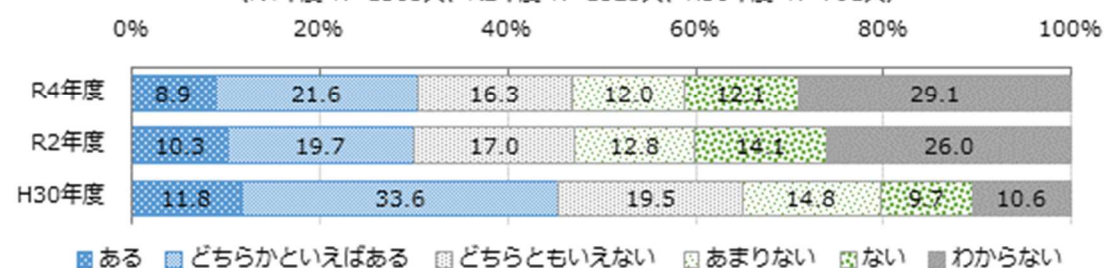
④アート・芸術を活用した取り組み

(R4年度 N=1355人、R2年度 N=1517人、H30年度 N=790人)



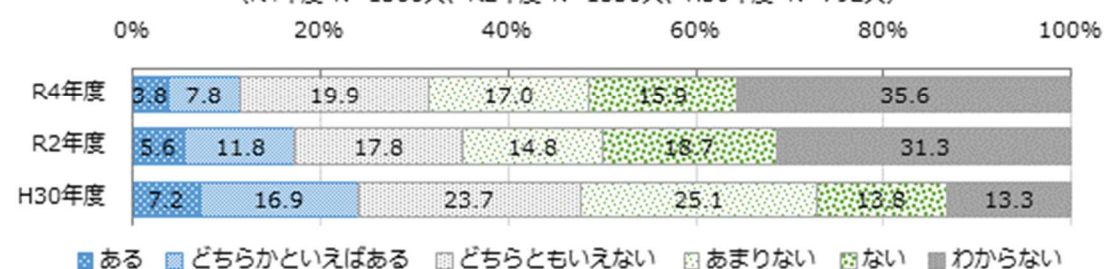
⑤歴史を活用した取り組み

(R4年度 N=1365人、R2年度 N=1525人、H30年度 N=791人)



⑥地域のつながりを深めるための取り組み

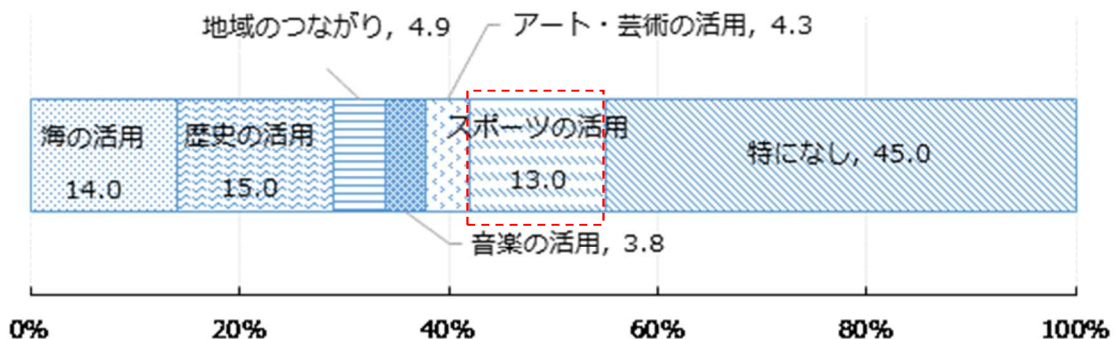
(R4年度 N=1366人、R2年度 N=1530人、H30年度 N=792人)



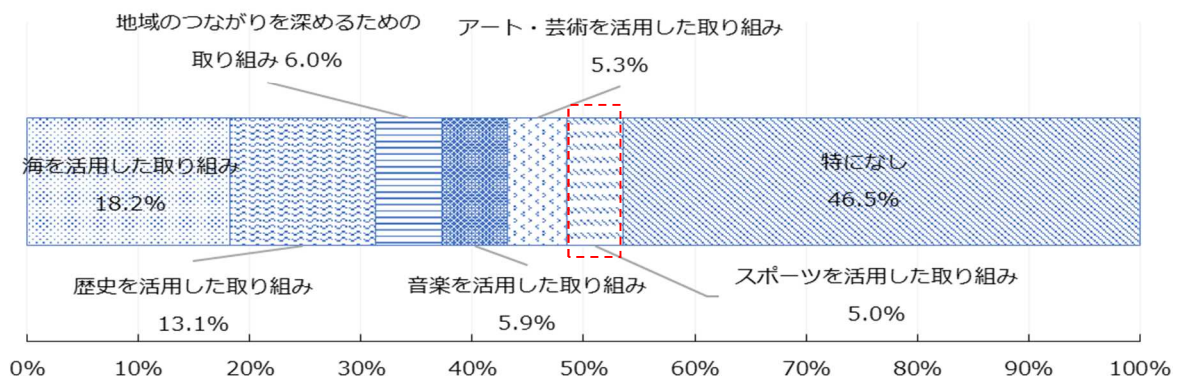
問 15 次の取り組みの中で、横須賀全体に、良い影響を与えていると感じるものを選んでください。(〇は1つ) また、その理由もお答えください。

- 良い影響を与えている取り組みとして、「歴史を活用した取り組み」(15.0%)、「海を活用した取り組み」(14.0%)の順で高い割合となった。その一方で、「特になし」(45.0%)は4割を超えた。
- 前回調査と比較すると、「スポーツを活用した取り組み」は、8.0ポイント上昇。良い影響があると感じる理由として、横浜F・マリノスの練習場の練習拠点の完成やサッカー教室などの連携によるまちの盛り上がり、BMXの全日本レベルの大会開催や、横浜DeNAベイスターズファームでの試合開催による集客力向上といった回答が目立った。
- 「特になし」の理由としては、「取り組みを知らない」といった回答が多かった。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、開催を予定していた取り組みの延期や中止を余儀なくされたことが、ここ数年間の実感の変化に影響を与えていると推察される。また、「自分自身のことで精一杯で他の事を考える余裕が無い」といった回答も見られ、コロナや物価高への対応など日々の生活に不安や負担が増している現状が垣間見える。

問 15. 良い影響を与えていると感じる取り組み (N=1342人)



前回調査 (令和2年度実施) 横須賀全体に、良い影響を与えていると感じる取り組み (N=1454人)



【横須賀全体に良い影響を与えていると感じる理由（主な理由）】

①海を活用した取り組み（116件）

- ・ 東京湾、相模湾の魅力的な海岸風景や道路風景が、横須賀の1番の財産だと思う。
- ・ よこすかポートマーケットを始め、海を身近に活かしている部分が市民として誇らしい。また、釣り施設もあり、趣味が充実できる。
- ・ 猿島や綺麗な海でのアクティビティをアピールすることで、東京方面からの観光客が増えているように感じる。
- ・ ウインドサーフィンの大会が開かれて、海外から多くの参加者が集まってくる。競技を通して交流出来る事は、素晴らしい。長く続くことを願う。
- ・ 海を活用した取り組みは、観光客の誘致につながると思う。横須賀に足を運んでくれた人が、良さに気づいて住んでくれたら嬉しい。
- ・ 横須賀はやっぱり海の街だと思うので、いつまでもきれいでいてほしい。海がきれいだと、生活環境も良くなると思う。
- ・ フェリー運行（軍港巡り）で、乗客船がたくさんいるのを見かける。猿島も同様に、乗客を見かけ、海は良い影響を与えていると感じる。
- ・ ウインドサーフィン大会において、世界的にも認知されつつあると思う。
- ・ 横須賀の海は、東京湾と相模湾は違う表情なので、それぞれの良さをアピールできるような観光地にできると思う。
- ・ フェリーが通るようになり、これを機に他の客船も来ると利便性が上がりそう。
- ・ 浦賀レンガドックの活用や猿島でのイベント、軍港めぐりなどのPR（横須賀のイメージアップ）につながっていると思う。
- ・ サーフィンのワールドカップが行われていて、いいなと思う。
- ・ 北九州市とのフェリーが運行したことは、観光面での良い影響があったと思う。
- ・ 海は、横須賀にとっては必要不可欠なものであり、それを全面に出していけたら知名度も上がると思う。
- ・ 温暖な気候と青い海と緑に囲まれた環境と便利な生活環境は、首都圏のどこよりも恵まれた環境だと思う。
- ・ 横須賀は海に囲まれたとても恵まれた環境なので、その環境を生かした取り組みは横須賀全体に良い影響を与えらると思う。

②音楽を活用した取り組み（33件）

- ・ ジャズの街としてライブなど市内・市外からを問わず参加できるイベントがたくさんあると感じる。
- ・ モアーズの近くにピアノを置いてあり、弾いている様子がみられる。また、ジャズの雰囲気も良いと思う。
- ・ よみいさんとのコラボなど、他の市ではやっていない試みを進めていて素晴らしい。

- ・ 美術館等でのコンサートが行なわれ、芸術に触れる機会が増えていると感じる。
- ・ 落ち込んでいる生活が、活気ある演奏により、多少は良くなると感じる。
- ・ ジャズのイベント等、音楽は人を繋げると思うから良いなと思う。

③スポーツを活用した取り組み（124件）

- ・ 横浜F・マリノスの練習場ができて、地域活性化につながることを期待している。
- ・ スポーツ選手を目指す子ども達には経験の場が広がり、地元サポーターが増えて地域のつながりが深まり新しい文化が芽吹くと思う。
- ・ BMXパークのオープンで集客効果があり、話題にもなると思う。
- ・ マリノスのグラウンドを久里浜に作ってくださり有り難い。サッカーやスポーツの繁栄に役に立つと思う。地域の方々との交流や施設の中の食堂等を地域の方に開放して下さると更に嬉しい。
- ・ プロ野球・プロサッカーの拠点ができたことは、良い影響を与えると思う。
- ・ 通勤途中などにフラッグやポスターがあるので、久里浜の商店街が明るく活気があるように見える。
- ・ 久里浜の横浜F・マリノス練習施設の完成で、駅前がマリノスで盛り上りを感じる。
- ・ 子どもたちと野球のイベントに参加した時、大人も子どもも楽しく、有意義な時間を過ごせた。
- ・ 横須賀には球場やサッカー場などの施設が多くて、ファンの人がたくさん来るようになってきていると感じる。
- ・ アーバンスポーツに力を入れるなど、他地域と違う目線を持っていると感じる。
- ・ コロナ禍になり、なかなか行われませんが、スポーツイベントを通しての地域を超えた交流がよかった。
- ・ BMXの大会があったりして、興味を持って始める子もいるから。
- ・ ベイスターズの2軍練習場やグラウンド整備建設で多くのファンが来ているので活気があるように見える。
- ・ 野球やサッカーファンが横須賀に来て、活気が出ると思う。
- ・ 最近、横浜F・マリノスの練習場ができ、久里浜がマリノス一色になっていて、スポーツを活用した町づくりをされていると思ったから。
- ・ 横浜F・マリノスが来てくれるので、これからが楽しみ。
- ・ マリノスの練習場ができたことにより、盛り上がりそう。
- ・ ベイスターズ、マリノス、BMX等の取り組みが子どもにも良い影響を与えていると思われる。
- ・ BMXの大会を横須賀で開催したのはかなり良かったと思う。アーバンスポーツを多世代に広める機会になったのと同時に、この大会を通して横須賀に初めて足を踏み入れた人がいたと考えると観光面でも影響があったと思う。
- ・ マリノススポーツパークが出来て、子ども達に現役スポーツ選手との交流や見学がで

きるようになってきている気がする。実際に選手を見たりできることは子どもにとっては大きな事で、夢に繋がると思う。

- ・ 海という自然に近い場所(うみかぜ公園)でのダブルダッチや BMX などの取り組みは、地域住民や訪問者含めて、遊ぶ場など限られてきた世の中で子ども達にとってとても良い環境であると想ったから。

④アート・芸術を活用した取り組み (39 件)

- ・ 横須賀美術館の特別展など、有効活用していると思う。
- ・ 平成町の壁画がかわいらしい。
- ・ スカジャン展に行き、市外の人をたくさん見かけたため。
- ・ スカジャン展のような横須賀ならではのアート、芸術を取り組んでくれたのは良かったと思う。
- ・ 芸術は人に対し新しい刺激を与え、人生をより良くするものだと思うから。
- ・ 壁にさまざまな絵が最近書かれており、明るくて良いと思う。
- ・ 壁などにカラフルな絵が書かれていてすごいな、楽しいなと思いながら通っている。
- ・ 海岸沿いにアート制作したり、横須賀美術館に目を引くアートを設置したりしていることは知っている。横須賀の魅力を外に伝えるという点で良い取り組みだと思う。
- ・ 海沿いのアートが、他の街にはない横須賀だけのもの、と感じる。

⑤歴史を活用した取り組み (132 件)

- ・ 大河ドラマ「鎌倉殿の13人」を契機にゆかりのある三浦一族の掘り起し。これを一過性のものとせず歴史・文化の更なる深耕を進めてもらいたい。
- ・ 今まであまり人が来なかった場所にも訪れる人が増えたと思う。ただ、立て札など朽ちたままになっているところもあるので、場所によって差があると思う。
- ・ 大河ドラマの影響で衣笠商店街はもり上がっていると思う。
- ・ 浦賀で史跡巡りをやっている事は知っている。浦賀駅の周辺の休日の人出が多くなっていると感じている。
- ・ 浦賀ドックの活用で人が集まるようになったと感じる。
- ・ 大河ドラマの影響もあり、街が活気づいているように見えた。
- ・ 浦賀ドックのイベントがよかった。市外から遊びに来た人もたくさんいた。
- ・ 浦賀ドックの跡地の活用や猿島の観光など横須賀らしさをアピールできていると思う。
- ・ 歴史遺構を活用して新しい観光資源を発掘していく取り組みは、とても良いと思う。
- ・ 歴史で誰でも知っていると思われる「浦賀」なのに、観光地としてもったいない思っていた。イベントやツアーにいらっしゃる方をみて、盛り上がりを持続すると思いたいと思う。
- ・ 浦賀ドックでのイベントなどで市民が催し物をしたり、市外の方の観光のきっかけにもなっていたりしていると思うため。

- ・ 偉人や史跡をクローズアップしたり、浦賀ドックでイベントをしたり、年齢問わず認知度が上がっているように思うから。
- ・ 軍港巡り、猿島や産業遺構の活用など、横須賀ならではの特色を発揮していると感じている。
- ・ 美術館における鎌倉時代の仏像の展示や横須賀の近代遺産の観光コースへの取り組みなど積極的な取り組みが感じられる。
- ・ 砲台跡のツアーや軍港めぐりを目当てに市外県外からの観光客が訪れているため。

⑥地域のつながりを深めるための取り組み（32件）

- ・ つながりを深めれば、自然災害が起きたときなども助け合いやすい。
- ・ 地域の人たちと協力し、地域の人たちが取り組みによって楽しんでいるから。
- ・ 周りの方とコミュニケーションをとれる良い機会を与えてくださっている。
- ・ コロナ禍のなかで、近隣や地域のつながりがなくなってきたことから、この取り組みが大切だと思う。
- ・ 災害が起きた時に、互いに助け合える関係は大切だと思うから。

⑦特になし（160件）

- ・ 地域の魅力や特性よりも、子育てや介護に力を入れてほしいため。
- ・ 高齢化が進んで人口が減少している現状対策を考えてもらいたい。もっと子育て世代が住みたくするような支援を優先して、お年寄り子どもが共存して暮らせる街になってほしい。
- ・ 全体に良い影響を与えているレベルにはない。ごくごく一部の人にだけ影響はあるのかもしれない。
- ・ ポスターを見ることはあるが、全く実感がない。
- ・ 現在自分自身の事で精一杯で他の事を考える余裕が無い。
- ・ 取り組みを知っているのは市の職員だけで、普通の市民は横須賀が何をしているのかまったく知らない。
- ・ 取り組み自体を知らない。
- ・ 生活と子どもの事で時間やその他の事を考える感じがでない。
- ・ 横須賀市の取り組みについて、良く分からない点が多いから。
- ・ 関心がない。
- ・ 横須賀に住んで久しいが取り組みが及ぼす影響がまったく見えてこない。以前と変化を感じない。発信が足りないというよりも実生活に影響が及んでいないのだと思う。
- ・ まんべんなくやっているのは素晴らしいが、どれかに特化してアピールしないとどれを推しているのか良くわからない。

問 1 6 以下は、この数年に横須賀市が重点的に取り組んできた（および今後取り組んでいく）主な事業です。このうち、あなたが**知っているもの**はどれですか。①～⑨の分野ごとにそれぞれあてはまるものを選んでください。

分野① 子育て

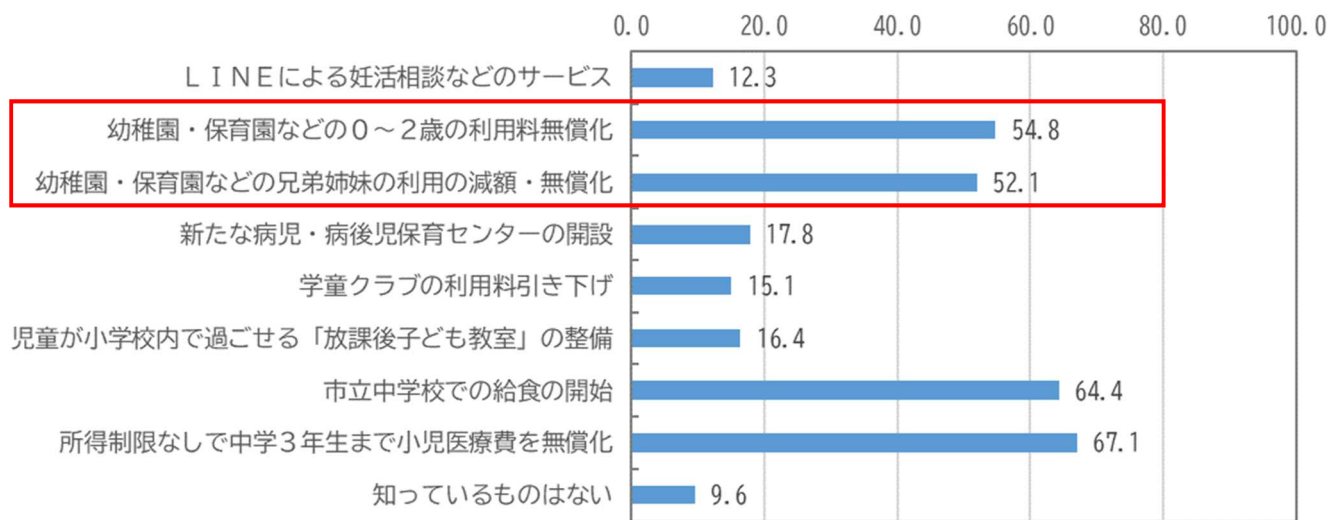
- 認知度が高い取り組みは、「市立中学校での給食の開始」（46.7%）、「所得制限なしで中学3年生まで小児医療費を無償化」（31.3%）の順で高い割合となった。その一方で、「知っているものはない」（39.7%）は、4割近い。
- 乳幼児の子育て中心世代である30代前後¹⁶で、「幼稚園・保育園などの0～2歳の利用料無償化」や「幼稚園・保育園などの兄弟姉妹の利用の減額・無償化」の認知度が2割強。特に、未就学児の子どもがいる世帯では、5割を超えて知られている。
- 子育てで支援を必要としている人が、知らなかったということがないように、更に認知度向上の工夫が必要だと思われる。

【年齢区分×取り組みの認知度】

	全体 (1367人)	10代 (63人)	20代 (83人)	30代 (153人)	40代 (176人)	50代 (211人)	60代 (249人)	70代 (240人)	80代 (184人)
LINEによる妊活相談などのサービス	6.2	4.8	4.8	13.7	7.4	4.7	6.0	3.8	5.4
幼稚園・保育園などの0～2歳の利用料無償化	13.5	4.8	13.3	26.1	21.6	10.0	13.7	9.6	7.6
幼稚園・保育園などの兄弟姉妹の利用の減額・無償化	12.8	12.7	14.5	25.5	21.6	8.1	12.4	6.3	7.6
新たな病児・病後児保育センターの開設	7.3	3.2	3.6	8.5	6.8	7.1	5.6	7.5	12.5
学童クラブの利用料引き下げ	3.7	4.8	1.2	5.9	7.4	3.3	3.6	1.3	2.7
児童が小学校内で過ごす「放課後子ども教室」の整備	9.3	7.9	8.4	9.2	9.7	8.5	5.6	10.8	14.1
市立中学校での給食の開始	46.7	61.9	34.9	48.4	56.8	48.8	40.6	45.8	44.0
所得制限なしで中学3年生まで小児医療費を無償化	31.3	42.9	19.3	40.5	47.2	28.9	28.9	26.7	22.8
知っているものはない	39.7	25.4	53.0	35.3	31.3	37.0	45.4	40.8	42.9

¹⁶ 横須賀市の第1子出生年数は、25～34歳がボリュームゾーン（横須賀市衛生年報）

【未就学児の子どもがいる世帯（73人）×取り組みの認知度】



分野② 健康・福祉

- 認知度が高い取り組みは、「新しい総合病院のオープン」(55.4%)、「福祉の困りごとを一括相談できる総合窓口「ほっとかん」の開設」(16.9%)の順で高い割合となった。その一方で、「知っているものはない」(31.1%)は、約3割。
- 「各行政センターに身近な困りごとを相談できる窓口を設置」については、70代～80代で約2割。高齢者を中心に認知されていることがうかがえる。令和元年度から始まった「地域生活相談窓口」だが、今年度(令和5年度)に9か所すべての行政センターに配置した。この取り組みをはじめ、各相談窓口が、地域住民の不安解消につながるよう、さらに認知度を上げ、いざと言うときに利用できるように一層の周知が必要であると考ええる。

【年齢区分×取り組みの認知度】

	全体 (1403人)	10代 (63人)	20代 (84人)	30代 (154人)	40代 (177人)	50代 (216人)	60代 (252人)	70代 (265人)	80代 (240人)
市内在住の中学2年生を対象にピロリ菌の検査を実施	10.3	28.6	2.4	10.5	23.2	13.2	5.6	7.2	3.9
福祉の困りごとを一括相談できる総合窓口「ほっとかん」の開設	16.9	11.1	6.0	19.6	17.5	18.9	18.9	18.0	15.5
各行政センターに身近な困りごとを相談できる窓口を設置	12.4	6.3	2.4	13.1	4.5	11.8	12.0	18.0	18.8
福祉の困りごとをLINEで24時間相談できるサービス	6.6	12.7	1.2	8.5	5.6	8.0	4.8	7.6	6.3
障害者などが農業に携われるよう支援する取り組みの推進	2.8	4.8	0.0	1.3	2.8	4.2	2.8	2.4	3.4
終活支援サービス「エンディングプラン・サポート事業」	8.7	0.0	2.4	3.9	4.5	12.7	11.2	12.8	8.7
新しい総合病院のオープン	55.4	15.9	39.8	48.4	50.3	56.1	58.6	70.0	61.4
知っているものはない	31.1	49.2	56.6	37.3	32.8	28.8	28.1	18.4	30.0

分野③ 地域

- 認知度が高い取り組みは、「アーティストや学生などによる空き家の創作・交流拠点としての活用」(22.7%)。一方で、「知っているものはない」(67.2%)は、約7割。
- 年代別でみても、この傾向は変わらないが、50代～80代で「アーティスト村の取り組み」の認知度は比較的高く、4人に1人の割合で知られている。
- また、地域別でみると、実際にアーティスト村の取り組みを行っている田浦地域での認知は4割を超えており、取り組みが地域に根付き始めていることがうかがえる。

【年齢区分×取り組みの認知度】

	全体 (1350人)	10代 (63人)	20代 (84人)	30代 (154人)	40代 (177人)	50代 (216人)	60代 (252人)	70代 (265人)	80代 (240人)
小学校を活用した、子どもから高齢者まで交流できる場の提供	6.6	11.1	3.7	3.3	4.0	4.3	4.5	10.4	12.1
アーティストや学生などによる空き家の創作・交流拠点としての活用	22.7	6.3	12.2	15.8	17.3	26.1	24.4	32.6	25.8
市内27か所の災害監視カメラの映像をリアルタイム配信	9.6	11.1	4.9	12.5	9.8	11.4	10.7	7.8	7.9
知っているものはない	67.2	77.8	81.7	74.3	73.4	62.6	66.5	57.8	62.6

【居住地域×取り組みの認知】

	全体 (1350人)	本庁地域 (198人)	追浜地域 (111人)	田浦地域 (72人)	逸見地域 (37人)
小学校を活用した、子どもから高齢者まで交流できる場の提供	6.6	6.1	18.0	4.2	5.4
アーティストや学生などによる空き家の創作・交流拠点としての活用	22.7	29.8	23.4	41.7	27.0
市内27か所の災害監視カメラの映像をリアルタイム配信	9.6	10.6	9.9	4.2	5.4
知っているものはない	67.2	62.1	62.2	52.8	64.9

	衣笠地域 (202人)	大津地域 (162人)	浦賀地域 (162人)	久里浜地域 (169人)	北下浦地域 (112人)	西地域 (118人)
小学校を活用した、子どもから高齢者まで交流できる場の提供	3.5	7.4	7.4	7.7	4.5	2.5
アーティストや学生などによる空き家の創作・交流拠点としての活用	19.3	27.2	19.1	18.3	17.0	14.4
市内27か所の災害監視カメラの映像をリアルタイム配信	9.9	14.8	8.6	13.0	5.4	5.9
知っているものはない	72.3	58.0	71.6	68.0	75.9	77.1

分野④ まちづくり・整備

- 認知度が高い取り組みは、「浦賀レンガドックの活用と地域全体の活性化」(36.1%)、「追浜駅周辺の再開発」(26.6%)。一方で、「知っているものはない」(35.1%)は、約4割。
- 年代別でも、この傾向は大きく変わらない。
- また、地域別で見ると、追浜地域では「追浜駅周辺の再開発」の認知は8割を超え、「国道357号の八景島～夏島間の延伸」についても4割以上知られており、関心の高さがうかがえる。
- 同様に、本庁地域では「横須賀中央駅周辺の再開発」の認知は4割を超え、久里浜地域では「京急久里浜駅周辺の再開発」の認知は約5割と、他の地域に比べて高い。それぞれの住居地で地元の再開発の動きに、注目していることがわかる。
- 「浦賀レンガドックの活用と地域全体の活性化」は、年代、地域問わず認知度が高く、市民の浦賀に対する意識の高さと、取り組みの周知の成果だと思われる。

【年齢区分×取り組みの認知度】

	全体 (1411人)	10代 (63人)	20代 (84人)	30代 (153人)	40代 (176人)	50代 (214人)	60代 (249人)	70代 (250人)	80代 (213人)
浦賀レンガドックの活用と地域全体の活性化	36.1	15.9	14.3	34.6	35.8	40.2	44.6	39.2	35.2
横浜横須賀道路のスマートインターチェンジ整備	9.6	6.3	14.3	11.1	12.5	13.1	8.8	8.4	4.7
国道357号の八景島～夏島間の延伸	13.0	6.3	6.0	11.1	11.4	14.0	15.3	12.4	17.8
追浜駅周辺の再開発	26.6	17.5	21.4	18.3	18.2	32.2	26.9	30.4	34.3
横須賀中央駅周辺の再開発	24.1	9.5	16.7	24.2	17.0	27.6	22.9	27.6	31.0
京急久里浜駅周辺の再開発	19.1	11.1	14.3	24.2	15.3	21.5	20.1	19.2	19.2
知っているものはない	35.1	60.3	46.4	39.2	36.9	31.3	29.3	31.6	32.4

【居住地域×取り組みの認知】

	全体 (1411人)	本庁地域 (203人)	追浜地域 (116人)	田浦地域 (74人)	逸見地域 (38人)
浦賀レンガドックの活用と 地域全体の活性化	36.1	35.0	26.7	32.4	50.0
横浜横須賀道路のスマート インターチェンジ整備	9.6	8.4	6.0	12.2	2.6
国道357号の八景島～夏 島間の延伸	13.0	12.3	44.0	18.9	7.9
追浜駅周辺の再開発	26.6	25.6	83.6	51.4	34.2
横須賀中央駅周辺の再開発	24.1	41.9	19.0	17.6	23.7
京急久里浜駅周辺の再開発	19.1	12.3	8.6	9.5	2.6
知っているものはない	35.1	32.5	10.3	33.8	34.2

	衣笠地域 (212人)	大津地域 (170人)	浦賀地域 (172人)	久里浜地域 (179人)	北下浦地域 (116人)	西地域 (122人)
浦賀レンガドックの活用と 地域全体の活性化	28.8	45.3	60.5	39.7	18.1	23.8
横浜横須賀道路のスマート インターチェンジ整備	9.4	12.4	9.3	7.3	9.5	17.2
国道357号の八景島～夏 島間の延伸	10.4	9.4	8.1	7.8	6.9	13.1
追浜駅周辺の再開発	16.5	22.4	18.6	16.2	19.8	13.9
横須賀中央駅周辺の再開発	22.6	31.2	20.9	15.1	19.8	18.0
京急久里浜駅周辺の再開発	18.9	18.8	19.2	45.8	23.3	9.0
知っているものはない	46.2	31.2	31.4	28.5	45.7	53.3

分野⑤ 地域経済

- 認知度が高い取り組みは、「ポートマーケットのリニューアル」(69.0%)、「横須賀-北九州間のフェリー就航」(61.6%)。一方で、「知っているものはない」(19.2%)は、約2割。
- 年代別でも、この傾向は大きく変わらないが、10代、20代では、「横須賀-北九州間のフェリー就航」が他の年代に比べて低い。
- 地域別でみると、追浜・田浦・逸見地域では、「JAMSTEC ほか市内外の研究・教育機関、民間企業などとの連携」が、概ね2割に知られている。JAMSTECの本拠地は、横須賀夏島にあり、地元にある世界的な研究施設への関心の高さの表れだと思われる。

【年齢区分×取り組みの認知度】

	全体 (1413人)	10代 (63人)	20代 (84人)	30代 (153人)	40代 (177人)	50代 (215人)	60代 (250人)	70代 (254人)	80代 (208人)
JAMSTECほか市内外の研究・教育機関、民間企業などとの連携	10.7	6.3	4.8	17.0	11.3	13.5	10.0	9.8	8.2
横須賀-北九州間のフェリー就航	61.6	23.8	34.5	58.8	60.5	67.9	68.8	68.5	65.4
物流関連企業などの誘致	4.1	0.0	1.2	5.2	2.3	5.1	2.8	6.3	4.8
事業承継や後継者不在に悩む市内企業の支援	2.9	3.2	0.0	4.6	1.1	4.2	3.2	2.8	2.9
副業人材の活用支援	1.7	3.2	2.4	1.3	1.1	1.9	1.6	1.6	1.9
ポートマーケットのリニューアル	69.0	38.1	50.0	71.9	75.7	79.1	75.6	70.5	58.7
知っているものはない	19.2	57.1	39.3	19.0	14.7	13.0	13.2	15.0	22.6

【居住地域×取り組みの認知】

	全体 (1413人)	本庁地域 (208人)	追浜地域 (114人)	田浦地域 (73人)	逸見地域 (38人)
JAMSTECほか市内外の研究・教育機関、民間企業などとの連携	10.7	9.6	23.7	17.8	21.1
横須賀－北九州間のフェリー就航	61.6	66.8	53.5	64.4	71.1
物流関連企業などの誘致	4.1	1.9	6.1	8.2	0.0
事業承継や後継者不在に悩む市内企業の支援	2.9	3.4	4.4	2.7	2.6
副業人材の活用支援	1.7	1.4	5.3	0.0	0.0
ポートマーケットのリニューアル	69.0	78.4	68.4	69.9	81.6
知っているものはない	19.2	14.4	21.9	21.9	7.9

	衣笠地域 (214人)	大津地域 (168人)	浦賀地域 (173人)	久里浜地域 (178人)	北下浦地域 (116人)	西地域 (122人)
JAMSTECほか市内外の研究・教育機関、民間企業などとの連携	8.4	10.1	10.4	7.3	5.2	8.2
横須賀－北九州間のフェリー就航	58.9	66.7	67.1	65.7	48.3	55.7
物流関連企業などの誘致	5.6	3.6	4.0	4.5	2.6	3.3
事業承継や後継者不在に悩む市内企業の支援	4.7	1.2	4.0	2.2	1.7	0.8
副業人材の活用支援	0.9	0.6	1.2	3.4	1.7	1.6
ポートマーケットのリニューアル	67.8	75.6	68.8	69.1	52.6	59.0
知っているものはない	19.2	16.1	17.3	16.3	31.0	27.0

分野⑥ にぎわい・観光

- 認知度が高い取り組みは、「ソレイユの丘のリニューアル」(50.9%)、「ヴェルニー公園の整備」(50.1%)、「歴史遺産によるにぎわいづくり」(36.6%)。
- どの年代も「ソレイユの丘のリニューアル」や「ヴェルニー公園の整備」については、よく知られており、関心の高さが推察される。「うみかぜ公園内の BMX パークやよこすか海岸通りのウォールアートの整備」については、20代～50代で認知度が高く、特に、30代～40代は5割近い。一方、「歴史遺産によるにぎわいづくり」は、60代～80代でよく知られており、4割近い。
- 地域別でみると、「ソレイユの丘のリニューアル」はどの地域も認知が高いが、特に、ソレイユの丘のある西地域では、8割近くが知っている。また、「ヴェルニー公園の整備」は、本庁・田浦・逸見地域では6割以上が知っており、地元の出来事として、広く意識されていることがわかる。「歴史遺産によるにぎわいづくり」は、地域による程度の差はあるものの、比較的によく知られている。

【年齢区分×取り組みの認知度】

	全体 (1410人)	10代 (63人)	20代 (84人)	30代 (153人)	40代 (177人)	50代 (213人)	60代 (250人)	70代 (253人)	80代 (208人)
音楽やダンスによるにぎわいづくり	17.0	27.0	15.5	24.2	19.2	17.8	17.6	15.4	8.2
サブカルチャーによるにぎわいづくり	16.5	30.2	26.2	32.0	24.9	20.7	12.8	7.5	1.9
歴史遺産によるにぎわいづくり	36.6	20.6	27.4	32.7	33.3	39.0	43.2	38.3	38.9
アートによるにぎわいづくり	18.7	14.3	9.5	27.5	22.0	23.5	19.2	15.0	13.9
うみかぜ公園内の BMX パークやよこすか海岸通りのウォールアートなどの整備	34.6	27.0	36.9	45.1	48.0	41.8	36.4	23.7	21.2
ヴェルニー公園の整備	50.1	33.3	26.2	46.4	49.7	54.9	54.4	55.7	51.0
ソレイユの丘のリニューアル	50.9	28.6	39.3	57.5	53.7	49.3	53.2	56.1	48.6
知っているものはない	19.0	31.7	27.4	12.4	16.4	20.2	16.8	15.8	24.0

【居住地域×取り組みの認知】

	全体 (1410人)	本庁地域 (205人)	追浜地域 (116人)	田浦地域 (72人)	逸見地域 (38人)
音楽やダンスによるにぎわいづくり	17.0	25.4	20.7	18.1	15.8
サブカルチャーによるにぎわいづくり	16.5	22.9	11.2	19.4	18.4
歴史遺産によるにぎわいづくり	36.6	33.7	37.9	31.9	47.4
アートによるにぎわいづくり	18.7	24.9	19.0	25.0	15.8
うみかぜ公園内のBMXパークやよこすか海岸通りのウォールアートなどの整備	34.6	48.8	24.1	34.7	23.7
ヴェルニー公園の整備	50.1	62.9	51.7	66.7	81.6
ソレイユの丘のリニューアル	50.9	48.3	41.4	48.6	39.5
知っているものはない	19.0	17.1	22.4	20.8	10.5

	衣笠地域 (215人)	大津地域 (166人)	浦賀地域 (172人)	久里浜地域 (176人)	北下浦地域 (117人)	西地域 (124人)
音楽やダンスによるにぎわいづくり	13.5	20.5	16.9	11.9	13.7	12.1
サブカルチャーによるにぎわいづくり	16.3	20.5	14.0	15.3	13.7	12.9
歴史遺産によるにぎわいづくり	32.1	41.0	53.5	40.3	22.2	27.4
アートによるにぎわいづくり	13.5	24.7	19.2	16.5	12.0	16.1
うみかぜ公園内のBMXパークやよこすか海岸通りのウォールアートなどの整備	30.7	51.8	40.1	30.1	19.7	22.6
ヴェルニー公園の整備	46.5	59.0	50.0	42.0	35.0	28.2
ソレイユの丘のリニューアル	47.0	52.4	47.7	50.6	54.7	76.6
知っているものはない	25.1	15.7	16.9	22.7	19.7	10.5

分野⑦ スポーツ

- 認知度が高い取り組みは、「横浜F・マリノス練習場のオープン」(49.1%)、「横浜DeNAベイスターズファーム施設のオープン」(42.1%)。一方、「知っているものはない」(30.4%)は、約3割。
- 「横浜F・マリノス練習場のオープン」や「横浜DeNAベイスターズファーム施設のオープン」は、どの年代でもよく知られており、地元のプロスポーツチームへの関心の高さやインパクトの大きさがうかがえる。一方、「マリンスポーツによるまちづくり」については、30代~60代で、比較的よく知られている。
- また、「eスポーツの推進」は、10代~30代の若い世代を中心に知られている。
- 地域別でも、「横浜F・マリノス練習場のオープン」や「横浜DeNAベイスターズファーム施設のオープン」は、どの地域でも認知度が高い。特に、横浜DeNAベイスターズファームがある追浜では、施設オープンについて、約8割が知っており、プロスポーツチームとの連携も、約3割知られている。同様に、横浜F・マリノス練習場がある久里浜では、施設オープンを約8割が知っている。また、ウインドサーフィンワールドカップのある津久井浜海岸を有する北下浦地域では、「マリンスポーツによるまちづくり」が4割以上知られており、ワールドカップの継続開催を通じて、地域に根付いてきていることが推察される。

【年齢区分×取り組みの認知度】

	全体 (1390人)	10代 (63人)	20代 (83人)	30代 (153人)	40代 (175人)	50代 (210人)	60代 (248人)	70代 (247人)	80代 (203人)
横浜DeNAベイスターズファーム施設のオープン	42.1	30.2	32.5	34.0	40.6	49.0	45.2	40.9	48.3
横浜F・マリノス練習場のオープン	49.1	33.3	33.7	54.2	54.3	55.2	50.0	47.0	47.3
DeNAやF・マリノスなどプロスポーツチームとの連携	17.6	17.5	18.1	20.9	16.6	17.6	18.5	15.4	16.7
マリンスポーツによるまちづくり	26.3	22.2	14.5	26.8	28.0	36.2	29.4	24.7	19.2
アーバンスポーツの推進	14.9	6.3	9.6	19.6	24.0	20.0	16.9	10.1	6.9
eスポーツの推進	13.7	27.0	18.1	23.5	16.6	18.6	11.3	5.7	6.4
知っているものはない	30.4	31.7	45.8	26.1	27.4	24.3	27.4	35.6	32.0

【居住地域×取り組みの認知】

	全体 (1390人)	本庁地域 (203人)	追浜地域 (116人)	田浦地域 (71人)	逸見地域 (38人)
横浜DeNAベイスターズ ファーム施設のオープン	42.1	40.9	75.0	57.7	50.0
横浜F・マリノス練習場の オープン	49.1	43.3	47.4	45.1	47.4
DeNAやF・マリノスな どプロスポーツチームとの 連携	17.6	17.2	31.9	32.4	7.9
マリンスポーツによるまち づくり	26.3	25.6	20.7	25.4	23.7
アーバンスポーツの推進	14.9	17.7	16.4	22.5	13.2
eスポーツの推進	13.7	17.2	11.2	14.1	26.3
知っているものはない	30.4	37.9	14.7	31.0	28.9

	衣笠地域 (209人)	大津地域 (165人)	浦賀地域 (171人)	久里浜地域 (173人)	北下浦地域 (116人)	西地域 (120人)
横浜DeNAベイスターズ ファーム施設のオープン	30.6	42.4	39.2	42.2	31.9	35.0
横浜F・マリノス練習場の オープン	40.7	52.1	50.3	76.3	50.0	32.5
DeNAやF・マリノスな どプロスポーツチームとの 連携	11.5	13.9	20.5	20.2	11.2	11.7
マリンスポーツによるまち づくり	19.1	27.9	25.7	30.6	42.2	25.0
アーバンスポーツの推進	15.3	20.0	12.9	12.7	7.8	10.8
eスポーツの推進	11.5	20.0	14.6	12.7	5.2	10.8
知っているものはない	40.2	29.7	30.4	16.2	28.4	37.5

分野⑧ 環境

- 認知度が高い取り組みは、「市内の脱炭素化の取り組み」(12.0%)。一方、「知っているものはない」(79.2%)は、約8割。
- 年代別でも、この傾向は変わらず、他の分野と比較しても、認知度は低い。
- 2050年度までに、二酸化炭素排出量実質ゼロを目指していくには、市民や地域一体となって脱炭素の取り組みを進めていかなければならない。まずは、環境に関わることを「自分ごと」として考えて取り組んでもらうための啓発や支援が必要である。そのためには、横須賀市自身の充実した取り組みと、より一層の発信が必要だと考えられる。

【年齢区分×取り組みの認知度】

	全体 (1350人)	10代 (62人)	20代 (83人)	30代 (150人)	40代 (172人)	50代 (207人)	60代 (242人)	70代 (238人)	80代 (189人)
市内の脱炭素化の取り組み	12.0	1.6	6.0	10.7	8.1	13.5	14.5	15.5	13.8
市役所の脱炭素化の取り組み	9.7	4.8	7.2	6.0	5.8	10.6	7.0	13.9	16.4
海中の藻類による二酸化炭素の吸収を増やす取り組みの推進	6.5	4.8	1.2	3.3	4.7	6.3	4.5	10.9	11.1
知っているものはない	79.2	91.9	86.7	85.3	88.4	79.7	78.9	68.9	70.4

分野⑨ 行政サービス

- 認知度が高い取り組みは、「コンビニでの住民票などの交付や市税などの納付の受付開始」(53.4%)。一方、「知っているものはない」(43.4%)は、約4割。
- 年代別でも、この傾向は変わらない。毎日のことではない、必要に応じて行う暮らしの手続きだからこそ、便利に利用していただくため、更なる周知が必要だと思われる。

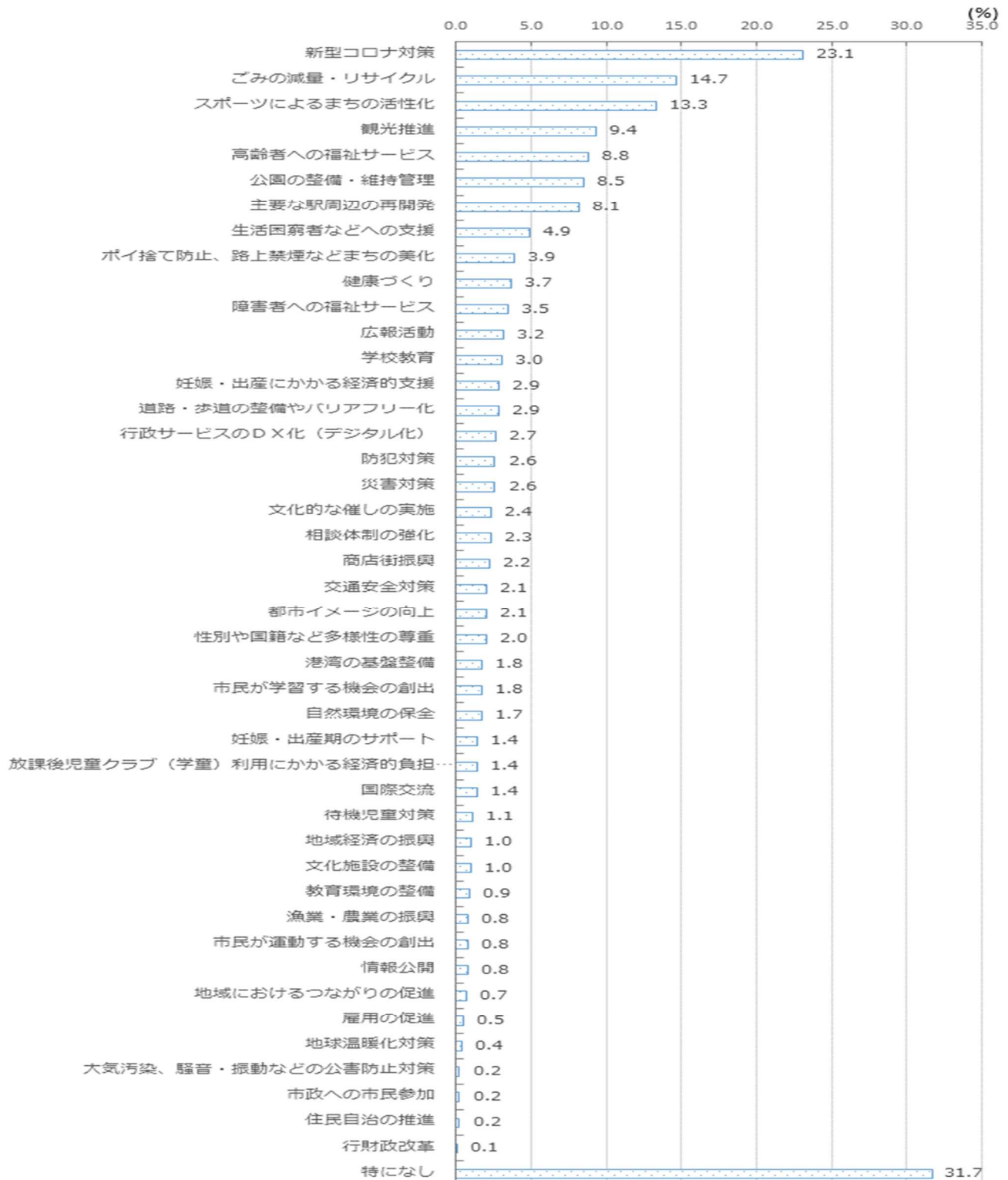
【年齢区分×取り組みの認知度】

	全体 (1379人)	10代 (62人)	20代 (84人)	30代 (153人)	40代 (176人)	50代 (211人)	60代 (243人)	70代 (244人)	80代 (198人)
コンビニでの住民票などの交付や市税などの納付の受付開始	53.4	22.6	44.0	56.2	55.7	52.6	53.5	60.2	54.5
住民票などの証明書交付手数料のSuica、PASMOでの支払い導入	12.4	8.1	14.3	13.7	8.5	12.3	7.8	14.8	18.7
引越し手続等オンライン作成・予約し窓口記入が不要なサービスの導入	5.8	1.6	3.6	11.1	4.5	8.1	4.9	5.3	4.5
知っているものはない	43.4	72.6	52.4	39.9	42.6	43.1	43.2	36.9	42.4

問 17 以下の横須賀市の取り組みのうち、あなたが十分に行われていると思うものはどれですか。あてはまるものを選んでください。(〇は3つまで)

- 上位は、「新型コロナ対策」(23.1%)、「ごみの減量・リサイクル」(14.7%)、「スポーツによるまちの活性化」(13.3%)。一方、「特になし」(31.7%)は約3割。

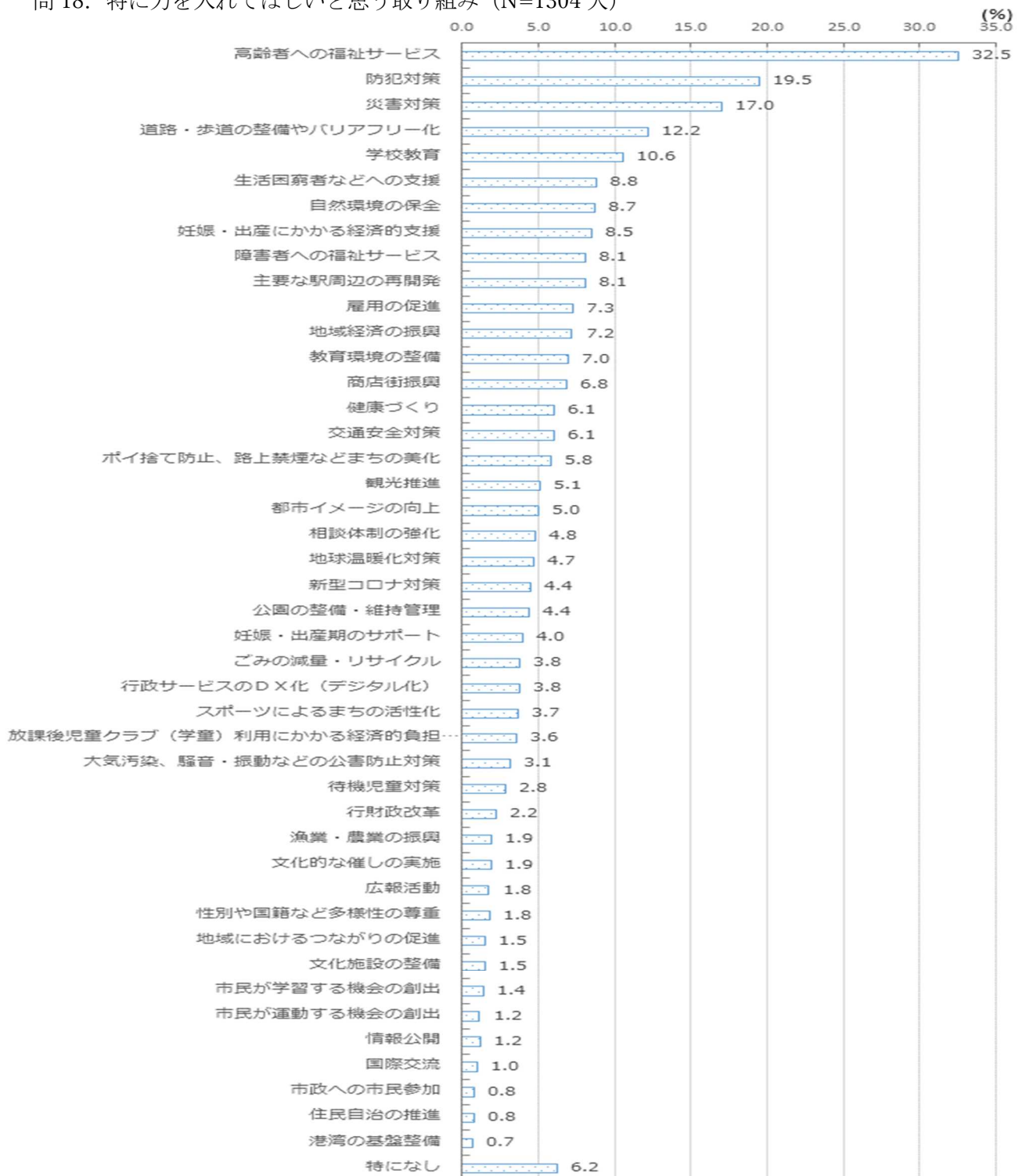
問 17. 十分に行われていると思う取り組み (N=1314 人)



問 18 以下の横須賀市の取り組みのうち、あなたが**特に力を入れてほしいと思うもの**はどれですか。あてはまるものを選んでください。(〇は3つまで)

- 上位は、「高齢者への福祉サービス」(32.5%)、「防犯対策」(19.5%)、「災害対策」(17.0%)といった、暮らしの安全や安心につながる取り組みが並んだ。

問 18. 特に力を入れてほしいと思う取り組み (N=1304 人)



【年齢区分×特に力を入れてほしいと思う取り組み】

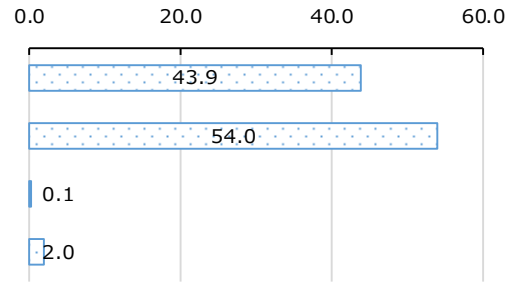
- 若い世代は子育て・教育支援、高齢者は高齢者福祉と、特に力を入れてほしいと思う取り組みは異なる。
- 全ての年代共通で望んでいるのは、防犯対策と災害対策。

	10代 (63人)	%	20代 (81人)	%	30代 (148人)	%	40代 (164人)	%	50代 (198人)	%	60代 (230人)	%	70代 (224人)	%	80代 (190人)	%
1位	学校教育	20.6	妊娠・出産にかかる経済的支援	24.7	妊娠・出産にかかる経済的支援	25.0	防犯対策	22.0	高齢者への福祉サービス	35.4	高齢者への福祉サービス	40.9	高齢者への福祉サービス	48.2	高齢者への福祉サービス	58.9
2位	防犯対策	17.5	防犯対策	18.5	学校教育	19.6	災害対策	22.0	防犯対策	20.7	防犯対策	18.3	防犯対策	19.6	防犯対策	23.2
3位	観光推進	15.9	災害対策	14.8	災害対策	15.5	学校教育	20.7	災害対策	20.7	災害対策	16.5	道路・歩道の整備やバリアフリー化	15.2	災害対策	15.8
4位	災害対策	14.3	妊娠・出産期のサポート	12.3	教育環境の整備	14.9	教育環境の整備	16.5	雇用の促進	15.2	道路・歩道の整備やバリアフリー化	13.0	災害対策	14.3	道路・歩道の整備やバリアフリー化	14.7
5位	主要な駅周辺の再開発	14.3	特になし	12.3	防犯対策	13.5	高齢者への福祉サービス	12.8	道路・歩道の整備やバリアフリー化	11.6	生活困窮者などへの支援	11.3	障害者への福祉サービス	10.3	生活困窮者などへの支援	11.6
	—		—		—		—		—		—		自然環境の保全	10.3	—	

3. 基本的な属性

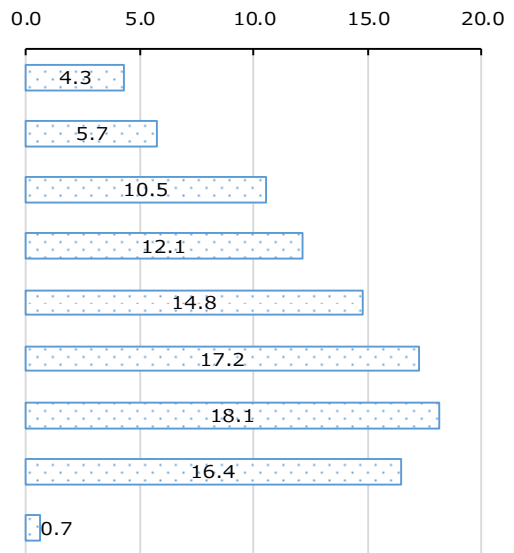
(1) 性別 (F1)

	件数 (人)	構成比 (%)
男性	641	43.9
女性	789	54.0
その他	2	0.1
無回答	29	2.0
全体	1461	100.0



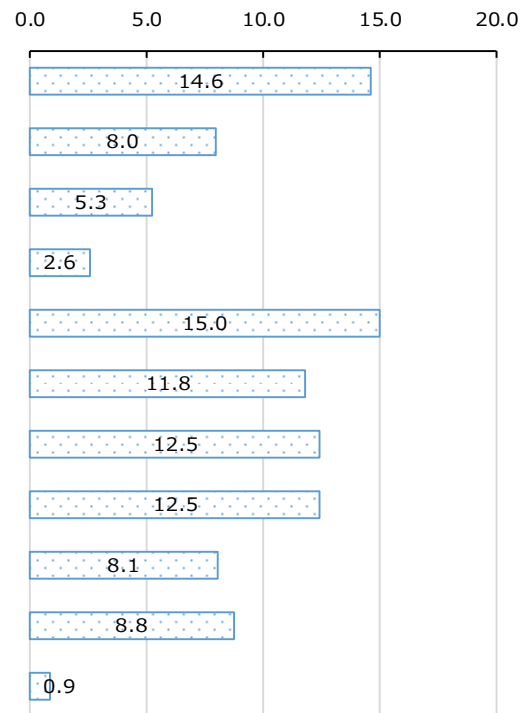
(2) 年齢 (F2)

	件数 (人)	構成比 (%)
15～19歳	63	4.3
20～29歳	84	5.7
30～39歳	154	10.5
40～49歳	177	12.1
50～59歳	216	14.8
60～69歳	252	17.2
70～79歳	265	18.1
80～89歳	240	16.4
無回答	10	0.7
全体	1461	100.0



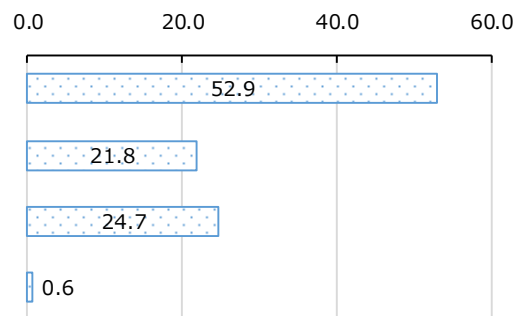
(3) 居住地域 (F3)

	件数 (人)	構成比 (%)
本庁地域	214	14.6
追浜地域	117	8.0
田浦地域	77	5.3
逸見地域	38	2.6
衣笠地域	219	15.0
大津地域	173	11.8
浦賀地域	182	12.5
久里浜地域	182	12.5
北下浦地域	118	8.1
西地域	128	8.8
無回答	13	0.9
全体	1461	100.0



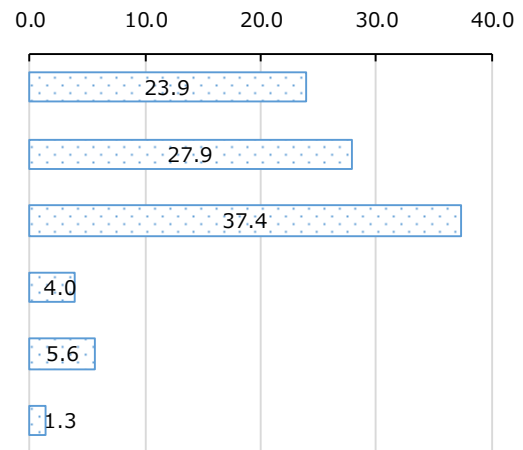
(4) 結婚の有無 (F4)

	件数 (人)	構成比 (%)
結婚している	773	52.9
結婚していた	318	21.8
結婚したことはない	361	24.7
無回答	9	0.6
全体	1461	100.0



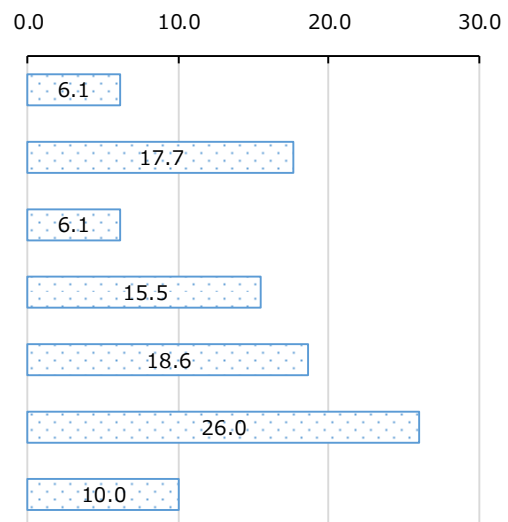
(5) 世帯構成 (F5)

	件数 (人)	構成比 (%)
一人暮らし	349	23.9
夫婦のみ	407	27.9
親と子 (2世代)	546	37.4
祖父母と親と子 (3世代)	58	4.0
その他	82	5.6
無回答	19	1.3
全体	1461	100.0



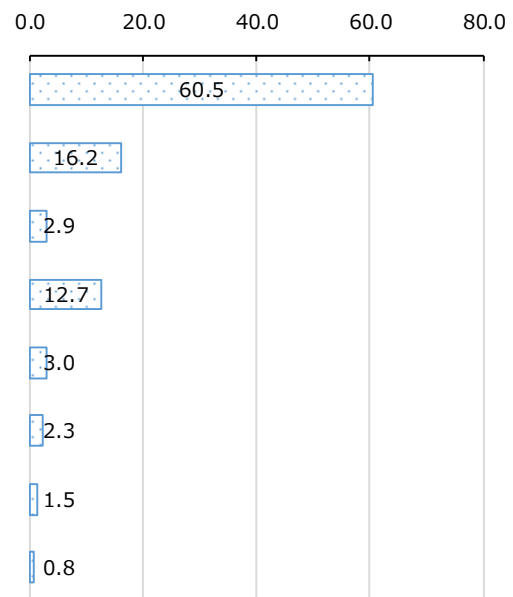
(6) 同居状況 (複数回答) (F6)

	件数 (人)	構成比 (%)
未就学児	74	6.1
小学生・中学生・高校生	214	17.7
短大生・専門学校生・大学生・大学院生	74	6.1
65～74歳の方	188	15.5
75歳以上の方	226	18.6
選択肢にあてはまるものはない	315	26.0
無回答	121	10.0
全体	1212	



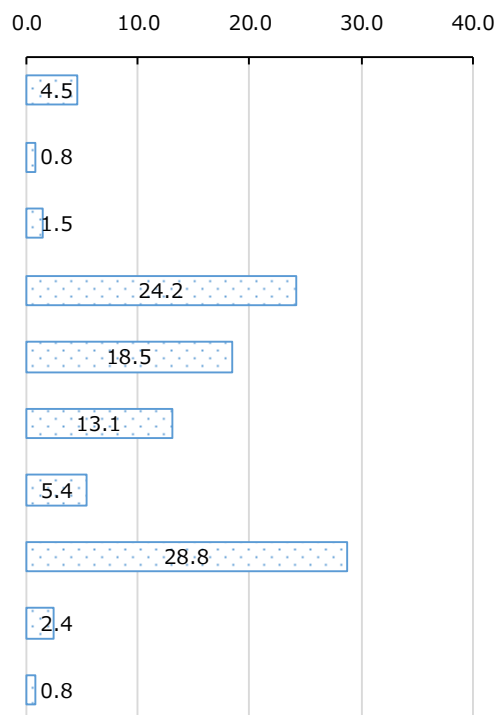
(7) 住宅形態 (F7)

	件数 (人)	構成比 (%)
持ち家 (一戸建)	884	60.5
持ち家 (マンションなどの集合住宅)	236	16.2
賃貸住宅 (一戸建)	43	2.9
賃貸住宅 (マンション・アパートなどの一般的な民間の集合住宅)	186	12.7
市営住宅や県営住宅などの公営住宅	44	3.0
社宅・寮・公務員住宅	34	2.3
その他	22	1.5
無回答	12	0.8
全体	1461	100.0



(8) 職業 (F8)

	件数 (人)	構成比 (%)
自営業主	66	4.5
自営業の手伝い (家族従業者)	11	0.8
会社などの経営者・役員	22	1.5
正社員・正職員	354	24.2
パート・アルバイト・嘱託職員・派遣社員 (正社員・正職員以外)	270	18.5
主婦・主夫 (家業専業)	191	13.1
学生	79	5.4
無職	421	28.8
その他	35	2.4
無回答	12	0.8
全体	1461	100.0



4. 調査票

「横須賀市民アンケート」ご協力のお願い

横須賀市では、「横須賀再興プラン（2022～2025）」に基づき、市が持つ地域の魅力や特性を生かして、将来に向けて希望や期待の持てるまちの実現を目指しています。

今回お送りしたアンケートは、市民の皆さまの生活意識や横須賀市の取り組みに対する実感をお伺いし、今後の取り組みの参考にさせていただくために実施するものです。

本調査の趣旨にご理解を賜り、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和5年（2023年）2月

横須賀市長

上地克明

回答目安時間 10～15分程度

皆さんの声をお聞かせください！

○調査について

- ・調査は、無記名で実施します。
- ・また、調査票はランダムに封入しているため、回答者が特定されることは一切ありません。
- ・調査票は、住民基本台帳（2022年12月1日現在）から無作為に抽出した15歳以上の3,000人の皆さまにお送りしています。調査結果は、後日、市ホームページなどで公表します。

○回答方法について

次の①、②のいずれかの方法でご回答ください。

① 調査票（この冊子）で回答

- ・設問ごとに「○は1つ」などと指定していますので、あてはまる番号に○を付けてください。
- ・調査票(この冊子)は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、郵便ポストに投函してください。
※表紙（この紙）は取らずに、このまま投函をお願いします。

② パソコン・タブレット・スマートフォンでオンライン回答

【オンライン回答ページ（e-kanagawa 電子申請システム）】

https://dshinsei.e-kanagawa.lg.jp/142018-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=46742

- ・ブラウザのURL欄に上記URLを入力して画面を開いてください。
（スマートフォンからは、右のQRコードを読み取ってアクセスできます。）
- ・回答の際は、はじめに以下の「オンライン回答用パスワード」を入力してください。



オンライン回答用パスワード

3月7日（火）まで

に、ご回答（ご投函）をお願いいたします。

○お問い合わせ先

この調査に関するご不明な点は、下記部署までお問い合わせください。

横須賀市 経営企画部 都市戦略課
Tel 046 (822) 9784 Fax 046 (822) 9285
Email upi-pc@city.yokosuka.kanagawa.jp

はじめに、あなた自身のことについてお伺いします

統計上、必要なものですので、全ての方がお答え下さいますようお願いいたします。

F 1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

※身体上、戸籍上の性別に関わらず、ご自身が認識しているものを選んでください。

1 男性	2 女性	3 その他
------	------	-------

F 2 あなたの年齢を教えてください。(○は1つ)

1 15～19 歳	2 20～24 歳	3 25～29 歳	4 30～34 歳	5 35～39 歳
6 40～44 歳	7 45～49 歳	8 50～54 歳	9 55～59 歳	10 60～64 歳
11 65～69 歳	12 70～74 歳	13 75～79 歳	14 80～84 歳	15 85 歳以上

F 3 あなたのお住まいの地域を教えてください。(○は1つ)

(以下の地域別一覧表をご参照ください。)

1 本庁地域	2 追浜地域	3 田浦地域	4 逸見地域	5 衣笠地域
6 大津地域	7 浦賀地域	8 久里浜地域	9 北下浦地域	10 西地域

地域別一覧表

(地域別)	(町名)
① <u>本庁地域</u>	稲岡町、不入斗町、上町、小川町、大滝町、楠ヶ浦町、坂本町、佐野町、猿島、汐入町、汐見台、新港町、田戸台、鶴が丘、泊町、日の出町、深田台、富士見町、平成町、平和台、望洋台、本町、緑が丘、三春町、安浦町、米が浜通、若松町
② <u>追浜地域</u>	浦郷町、追浜町、追浜東町、追浜本町、追浜南町、湘南鷹取、鷹取、夏島町、浜見台
③ <u>田浦地域</u>	田浦町、田浦泉町、田浦大作町、田浦港町、長浦町、箱崎町、船越町、港が丘
④ <u>逸見地域</u>	安針台、西逸見町、東逸見町、逸見が丘、山中町、吉倉町
⑤ <u>衣笠地域</u>	阿部倉、池上、大矢部、金谷、衣笠町、衣笠栄町、公郷町、小矢部、平作、森崎
⑥ <u>大津地域</u>	池田町、大津町、桜が丘、根岸町、走水、馬堀町、馬堀海岸
⑦ <u>浦賀地域</u>	浦賀、浦賀丘、浦上台、小原台、鴨居、光風台、西浦賀、東浦賀、二葉、南浦賀、吉井
⑧ <u>久里浜地域</u>	岩戸、内川、内川新田、久比里、久村、久里浜、久里浜台、佐原、神明町、長瀬、ハイランド、舟倉、若宮台
⑨ <u>北下浦地域</u>	栗田、グリーンハイツ、津久井、長沢、野比、光の丘
⑩ <u>西地域</u>	秋谷、芦名、太田和、荻野、子安、佐島、佐島の丘、湘南国際村、須軽谷、武、長井、長坂、林、御幸浜、山科台

F 4 あなたは結婚していますか。(内縁・事実婚含む)(○は1つ)

- | |
|-----------------------|
| 1 結婚している(配偶者あり) |
| 2 結婚していた(配偶者と離別または死別) |
| 3 結婚したことはない |

F 5 あなたが同居している家族の構成は、次のどれに当たりますか。あなたを含めてお答えください。(○は1つ)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 一人暮らし → F7へ | 4 祖父母と親と子(3世代) |
| 2 夫婦のみ | 5 その他 |
| 3 親と子(2世代) | () |

F 6 同居者がいる方だけにお尋ねします。同居している方の中で、以下に当てはまる方はいますか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1 未就学児 | 4 65~74歳の方 |
| 2 小学生・中学生・高校生 | 5 75歳以上の方 |
| 3 短大生・専門学校生・大学生・大学院生 | 6 選択肢にあてはまるものはない |

F 7 あなたの現在のお住まいは、次の選択肢の中のどれに当たりますか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------------------|--------------------|
| 1 持ち家(一戸建) | 5 市営住宅や県営住宅などの公営住宅 |
| 2 持ち家(マンションなどの集合住宅) | 6 社宅・寮・公務員住宅 |
| 3 賃貸住宅(一戸建) | 7 その他 |
| 4 賃貸住宅(マンション・アパートなどの一般的な民間の集合住宅) | |

F 8 あなたのご職業を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|----------------------------------|---------------|
| 1 自営業主 | 6 主婦・主夫(家業専業) |
| 2 自営業の手伝い(家族従業者) | 7 学生 |
| 3 会社などの経営者・役員 | 8 無職 |
| 4 正社員・正職員 | 9 その他 |
| 5 パート・アルバイト・嘱託職員・派遣社員(正社員・正職員以外) | |

I 定住意識について伺います

問1 あなたは、横須賀市に通算でどのくらいの期間住んでいますか。(○は1つ)

1 1年未満	5 20年以上 30年未満
2 1年以上5年未満	6 30年以上 40年未満
3 5年以上 10年未満	7 40年以上 50年未満
4 10年以上 20年未満	8 50年以上

問2 横須賀市に住む前は、どちらにお住まいでしたか。(○は1つ)

1 生まれてからずっと横須賀市に住んでいる	5 川崎市
2 三浦市	6 その他神奈川県内
3 鎌倉市、逗子市、葉山町	7 東京都・埼玉県・千葉県
4 横浜市	8 その他 (.....道・府・県.....市・区・町・村)

問3 今のお住まいや周辺の環境をどのように感じていますか。(○は1つ)

1 暮らしやすい	4 どちらかという暮らしにくい
2 どちらかという暮らしやすい	5 暮らしにくい
3 どちらともいえない	

問4 あなたは、これからも横須賀市に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

1 住み続ける	3 たぶん転居する	5 わからない
2 たぶん住み続ける	4 転居する	

↓
問4-1

↓
問4-2、4-3へ

↓
問5へ

【問4で、「1 住み続ける」、「2 たぶん住み続ける」を選んだ方のみ回答してください】

問4-1 横須賀市に「住み続ける」「たぶん住み続ける」を選んだ理由として、①～③の分野ごとにそれぞれ当てはまるものを選んでください。

分野①

生活環境 (〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| 1 気候が温暖 | 9 図書館や運動施設、コミュニティセンターなどの公共施設が使いやすい |
| 2 海や緑などの自然が豊か | 10 近隣住民との関係など地域コミュニティに満足している |
| 3 静かな周辺環境で過ごしやすい | 11 治安が良い |
| 4 公園が多い | 12 地震や風水害、土砂崩れなどの自然災害が少ない |
| 5 交通の便が良い | 13 病院・クリニックなどが充実している |
| 6 周辺に日常的な買い物ができる店が充実している | 14 介護・福祉施設が充実している |
| 7 個性的なショップや飲食店、大規模なショッピングモールなどがある | 15 特になし |
| 8 遊びや余暇活動をする場所が多い | |

分野②

子育て・教育 (〇はいくつでも)

- | | |
|---|--------------------------------|
| 1 子育てがしやすい(妊娠・出産～乳児期)
例 公園などの遊び場が多い | 5 学習環境が充実している
(図書館、自習スペース等) |
| 2 子育てがしやすい(幼児期)
例 保育園・幼稚園などに入りやすい | 6 スポーツや音楽などの習い事ができる場所が充実している |
| 3 子育てがしやすい(就学期以降)
例 中学給食がある、
中学卒業まで小児医療費が無償 | 7 特になし |
| 4 魅力的な学校がある | |

分野③

仕事・ライフスタイルなど (〇はいくつでも)

- | | |
|------------------|--------------|
| 1 就職先が近くにある | 5 住宅価格、家賃が安い |
| 2 転職・転勤などの予定がない | 6 街のイメージが良い |
| 3 実家がある | 7 特になし |
| 4 今の生活が変化する予定がない | |

自由記入

※上記以外に「住み続ける」「たぶん住み続ける」と思う理由があればお書きください。

--

【問4で、「3 たぶん転居する」、「4 転居する」を選んだ方のみ回答してください】

問4-2 仮に引っ越すとしたら、どこを希望されますか。(〇は1つ)

1 具体的に.....都・道・府・県.....市・区・町・村	2 希望はない
--------------------------------	---------

問4-3 横須賀市から「転居する」「たぶん転居する」を選んだ理由として、①～③の分野ごとにそれぞれ当てはまるものを選んでください。

分野①

生活環境 (〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------------------|------------------------------------|
| 1 気候が良くない | 9 図書館や運動施設、コミュニティセンターなどの公共施設が使いにくい |
| 2 海や緑などの自然が少ない | 10 近隣住民との関係など地域コミュニティに不満 |
| 3 騒音などが大きく過ごしにくい | 11 治安が悪い |
| 4 公園が少ない | 12 地震や風水害、土砂崩れなどの自然災害が多い |
| 5 交通の便が悪い | 13 病院・クリニックなどが充実していない |
| 6 周辺に日常的な買い物ができる店が少ない | 14 介護・福祉施設が充実していない |
| 7 個性的なショップや飲食店、大規模なショッピングモールが少ない | 15 特になし |
| 8 遊びや余暇活動をする場所が少ない | |

分野②

子育て・教育 (〇はいくつでも)

- | | |
|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 1 子育てがしにくい(妊娠・出産～乳児期)
例 屋内の遊び場が少ない | 5 学習環境が充実していない
(図書館、自習スペース等) |
| 2 子育てがしにくい(幼児期)
例 保育園・幼稚園などが空いていない | 6 スポーツや音楽などの習い事ができる場所
が充実していない |
| 3 子育てがしにくい(就学期以降)
例 学童の利用料が高い | 7 特になし |
| 4 魅力的な学校がない | |

分野③

仕事・ライフスタイルなど (〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1 就職先が少ない | 5 住宅価格、家賃が高い |
| 2 転職・転勤などの予定がある | 6 街のイメージが悪い |
| 3 市外の実家に戻る予定がある | 7 特になし |
| 4 結婚する(した) | |

自由記入

※上記以外に「転居する」「たぶん転居する」と思う理由があればお書きください。

--

Ⅱ 近所の方々や地域とのつき合いについて伺います

問5 あなたは、近所の方々と普段どのようなつき合い方をしていますか。(○は1つ)

- 1 顔もよく知らない
- 2 道で会えば挨拶ぐらいする
- 3 たまに立ち話をする
- 4 一緒に買い物に行ったり、気の合った人と親しくしている
- 5 困ったとき、相談したり助け合ったりする

問6 あなたは、近所の方々とのつき合いをどのように感じていますか。(○は1つ)

- 1 親しい人間関係があって暮らしやすい
- 2 適度な人間関係があって暮らしやすい
- 3 互いに干渉しあわず、さばさばしていて暮らしやすい
- 4 人間関係が薄く、みながばらばらな感じでさびしい
- 5 人間関係が濃く、煩わしい

問7 あなたは、現在、地域でどのような活動に参加していますか。(○はいくつでも)

- 1 自治会、町内会の活動
- 2 子ども会、婦人会、老人クラブの活動
- 3 高齢者や障害者への手助けや交流などの福祉活動
- 4 身近な道路や公園などの清掃活動
- 5 文化・芸術活動
- 6 スポーツや健康づくりの活動
- 7 祭や盆踊り、運動会などのイベント
- 8 PTA 活動や学校行事での手伝い・ボランティアなど
- 9 交通安全や防災・防犯などの地域の安全活動
- 10 その他(具体的に)
- 11 特になし

問8 あなたは、今後、地域との関わりをより深めたいと思っていますか。あなたのお気持ちに最も近いものを選んでください。(○は1つ)

- 1 深めたい
- 2 まあ深めたい
- 3 このままでよい
- 4 あまり深めたくない
- 5 深めたくない

Ⅲ 生活意識について伺います

問9 あなたは、以下の、生活に関するさまざまな分野における満足の度合いについて、「非常に満足している」を10点、「全く満足していない」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
【回答例】満足度が7点の場合	10	9	8	⑦	6	5	4	3	2	1	0
① 家計と資産	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
② 雇用環境と賃金	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
③ 住宅	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
④ 仕事と生活 (ワークライフバランス)	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
⑤ 健康状態	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
⑥ あなたご自身の教育水準・ 教育環境	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
⑦ 交友関係やコミュニティなど 社会とのつながり	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
⑧ 生活を取り巻く空気や水などの 自然環境	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
⑨ 身の周りの安全	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
⑩ 子育てのしやすさ	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
⑪ 介護のしやすさ・されやすさ	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0

問10 あなたは、全体として現在の生活にどの程度満足していますか。「非常に満足している」を10点、「全く満足していない」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。(〇は1つ)

	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
現在の生活全体の満足度	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0

IV 横須賀市の主な取り組みについて伺います

横須賀市では今、地域の魅力や特性を最大限に活用した取り組みを進めています。こうした取り組みに対する皆さまの認知度や実感についてお伺いします。

問13 あなたは、横須賀市の次のような取り組みについて知っていますか。
(○はそれぞれ1つ)

番号	地域の魅力や特性を活用した取り組み	1 知っている	2 知らない
①	海を活用した取り組み	1	2
②	音楽を活用した取り組み	1	2
③	スポーツを活用した取り組み	1	2
④	アート・芸術を活用した取り組み	1	2
⑤	歴史を活用した取り組み	1	2
⑥	地域のつながりを深めるための取り組み	1	2

問14 今の横須賀市で、次の取り組みが進んでいる実感はありますか。
(○はそれぞれ1つ)

番号	地域の魅力や特性を活用した取り組み	1 ある	2 どちらか といえ ばある	3 どちら ともい えない	4 あまり ない	5 ない	6 わから ない
①	海を活用した取り組み	1	2	3	4	5	6
②	音楽を活用した取り組み	1	2	3	4	5	6
③	スポーツを活用した取り組み	1	2	3	4	5	6
④	アート・芸術を活用した取り組み	1	2	3	4	5	6
⑤	歴史を活用した取り組み	1	2	3	4	5	6
⑥	地域のつながりを深めるための取り組み	1	2	3	4	5	6

問15 次の取り組みの中で、横須賀全体に、良い影響を与えていると感じるものを選んでください。(○は1つ) また、その理由もお答えください。

- | | |
|-------------------|----------------------|
| ① 海を活用した取り組み | ⑤ 歴史を活用した取り組み |
| ② 音楽を活用した取り組み | ⑥ 地域のつながりを深めるための取り組み |
| ③ スポーツを活用した取り組み | ⑦ 特になし |
| ④ アート・芸術を活用した取り組み | |

理由

問16 以下は、この数年に横須賀市が重点的に取り組んできた（および今後取り組んでいく）主な事業です。このうち、あなたが知っているものはどれですか。①～⑨の分野ごとにそれぞれあてはまるものを選んでください。

<p>分野① 子育て (おはこくひでも)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 LINE による妊活相談などのサービス 2 幼稚園・保育園などの0～2歳の利用料無償化（市は、国の基準よりも無償範囲を拡大） 国基準（全国）では、0～2歳は住民税非課税世帯が無償 →市では、0～2歳を世帯年収500万円未満の家庭まで拡大して無償 ※その他諸条件あり 3 幼稚園・保育園などの兄弟姉妹の利用の減額・無償化（市は、国の基準よりも範囲を拡大） 国基準（全国） 兄弟姉妹が同時に保育園や幼稚園などを利用した場合、 2人目の子は利用料半額、3人目は無料（1人目の小学校入学で利用料が増えてしまう） →市では、兄妹の年齢（小学生以上）に関わらず、2人目は利用料半額、3人目は無料 4 新たな病児・病後児保育センターの開設（横須賀中央） 5 学童クラブの利用料引き下げ 6 児童が小学校内で過ごせる「放課後子ども教室」の整備 7 市立中学校での給食の開始 8 所得制限なしで中学3年生まで小児医療費を無償化 9 知っているものはない
<p>分野② 健康・福祉 (おはこくひでも)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 市内在住の中学2年生を対象にピロリ菌（胃がんの主要原因）の検査を実施 2 福祉の困りごとを一括相談できる総合窓口「ほっとかん」の開設（市役所内） 3 各行政センターに身近な困りごとを相談できる窓口を設置 4 福祉の困りごとをLINEで24時間相談できるサービス 5 障害者などが農業に携われるよう支援する取り組みの推進（農福連携） 6 終活支援サービス「エンディングプラン・サポート事業」 7 新しい総合病院のオープン（令和7年予定・久里浜） 8 知っているものはない
<p>分野③ 地域 (おはこくひでも)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 小学校を活用した、子どもから高齢者まで交流できる場の提供 2 アーティストや学生などによる空き家の創作・交流拠点としての活用 3 市内27カ所の災害監視カメラの映像をリアルタイム配信 4 知っているものはない
<p>分野④ まちづくり・整備 (おはこくひでも)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 浦賀レンガドックの活用と地域全体の活性化 2 横浜横須賀道路のスマートインターチェンジ整備（横須賀PA付近） 3 国道357号の八景島～夏島間の延伸 4 追浜駅周辺の再開発（バスターミナル整備、再開発ビル内への北図書館の移転など） 5 横須賀中央駅周辺の再開発 6 京急久里浜駅周辺の再開発 7 知っているものはない

分野⑤ 地域経済 (オホさくしゅう) (せ)	<ol style="list-style-type: none"> 1 JAMSTEC（海洋研究開発機構）ほか市内外の研究・教育機関、民間企業などとの連携 2 横須賀ー北九州間のフェリー就航 3 物流関連企業などの誘致 4 事業承継や後継者不在に悩む市内企業の支援（セミナー開催、承継関連経費への補助金など） 5 副業人材の活用支援（セミナー開催、導入経費への補助金など） 6 ポートマーケットのリニューアル 7 知っているものはない
---------------------------------	---

分野⑥ にぎわい・観光 (オホさくしゅう) (せ)	<ol style="list-style-type: none"> 1 音楽やダンスによるにぎわいづくり（街なかライブ、ダンスイベントの開催など） 2 サブカルチャーによるにぎわいづくり（アニメやゲーム、スマホアプリとのコラボなど） 3 歴史遺産によるにぎわいづくり（浦賀ドック、第二海堡、千代ヶ崎砲台などの観光活用など） 4 アートによるにぎわいづくり（夜の猿島を舞台としたイベントなど） 5 うみかぜ公園内のBMXパークやよこすか海岸通りのウォールアートなどの整備 6 ヴェルニー公園の整備（歴史ミュージアム、イタリアンレストランなど） 7 ソレイユの丘のリニューアル（令和5年4月予定） 8 知っているものはない
------------------------------------	--

分野⑦ スポーツ (オホさくしゅう) (せ)	<ol style="list-style-type: none"> 1 横浜 DeNA ベイスターズファーム施設のオープン 2 横浜 F・マリノス練習場のオープン 3 DeNA や F・マリノスなどプロスポーツチームとの連携（選手交流イベントの開催など） 4 マリンスポーツによるまちづくり（ウインドサーフィンワールドカップの開催など） 5 アーバンスポーツの推進（BMX の大会やイベントの開催など） 6 e スポーツの推進（イベント開催や市内高校の部活動支援など） 7 知っているものはない
---------------------------------	---

分野⑧ 環境 (オホさくしゅう) (せ)	<ol style="list-style-type: none"> 1 市内の脱炭素化の取り組み（EV カーシェアリング、太陽光パネルの購入時のポイント交付など） 2 市役所の脱炭素化の取り組み（公共施設への太陽光パネル設置、ごみ焼却で発電した電気の活用など） 3 海中の藻類による二酸化炭素の吸収を増やす取り組み（ブルーカーボン）の推進 4 知っているものはない
-------------------------------	---

◎行政サービス (オホさくしゅう) (せ)	<ol style="list-style-type: none"> 1 コンビニでの住民票などの交付や市税などの納付の受付開始 2 住民票などの証明書交付手数料の Suica、PASMO での支払い導入 3 引越し手続などをオンラインで作成・予約し、窓口記入などが不要になるサービスの導入 4 知っているものはない
-----------------------------	--

自由記入	<p>※上記以外に知っているものがあればお書きください。</p>
------	----------------------------------

問17 以下の横須賀市の取り組みのうち、あなたが十分に行われていると思うものはどれですか。あてはまるものを選んでください。(〇は3つまで)

- 1 妊娠・出産にかかる経済的支援
- 2 妊娠・出産期のサポート
- 3 待機児童対策
- 4 放課後児童クラブ（学童）利用にかかる経済的負担の軽減
- 5 学校教育
- 6 教育環境の整備
- 7 高齢者への福祉サービス
- 8 障害者への福祉サービス
- 9 生活困窮者などへの支援
- 10 相談体制の強化
- 11 健康づくり
- 12 新型コロナ対策
- 13 地域におけるつながりの促進
- 14 防犯対策
- 15 交通安全対策
- 16 災害対策
- 17 主要な駅周辺の再開発
- 18 道路・歩道の整備やバリアフリー化
- 19 港湾の基盤整備
- 20 公園の整備・維持管理
- 21 地域経済の振興
- 22 雇用の促進
- 23 商店街振興
- 24 漁業・農業の振興
- 25 観光推進
- 26 スポーツによるまちの活性化
- 27 文化的な催しの実施
- 28 文化施設の整備
- 29 市民が学習する機会の創出
- 30 市民が運動する機会の創出

- 31 自然環境の保全
- 32 大気汚染、騒音・振動などの公害防止対策
- 33 ごみの減量・リサイクル
- 34 ポイ捨て防止、路上禁煙などまちの美化
- 35 地球温暖化対策
- 36 性別や国籍など多様性の尊重
- 37 市政への市民参加
- 38 住民自治の推進
- 39 広報活動
- 40 情報公開
- 41 都市イメージの向上
- 42 国際交流
- 43 行財政改革
- 44 行政サービスのDX化（デジタル化）
- 45 特になし

その他（自由記入） ※上記以外の取り組みがあればお書きください。

[]

問18 以下の横須賀市の取り組みのうち、あなたが特に力を入れてほしいと思うものはどれですか。あてはまるものを選んでください。(〇は3つまで)

- 1 妊娠・出産にかかる経済的支援
- 2 妊娠・出産期のサポート
- 3 待機児童対策
- 4 放課後児童クラブ（学童）利用にかかる経済的負担の軽減
- 5 学校教育
- 6 教育環境の整備
- 7 高齢者への福祉サービス
- 8 障害者への福祉サービス
- 9 生活困窮者などへの支援
- 10 相談体制の強化
- 11 健康づくり
- 12 新型コロナ対策
- 13 地域におけるつながりの促進
- 14 防犯対策
- 15 交通安全対策
- 16 災害対策
- 17 主要な駅周辺の再開発
- 18 道路・歩道の整備やバリアフリー化
- 19 港湾の基盤整備
- 20 公園の整備・維持管理
- 21 地域経済の振興
- 22 雇用の促進
- 23 商店街振興
- 24 漁業・農業の振興
- 25 観光推進
- 26 スポーツによるまちの活性化
- 27 文化的な催しの実施
- 28 文化施設の整備
- 29 市民が学習する機会の創出
- 30 市民が運動する機会の創出

- 31 自然環境の保全
- 32 大気汚染、騒音・振動などの公害防止対策
- 33 ごみの減量・リサイクル
- 34 ポイ捨て防止、路上禁煙などまちの美化
- 35 地球温暖化対策
- 36 性別や国籍など多様性の尊重
- 37 市政への市民参加
- 38 住民自治の推進
- 39 広報活動
- 40 情報公開
- 41 都市イメージの向上
- 42 国際交流
- 43 行財政改革
- 44 行政サービスのDX化（デジタル化）
- 45 特になし

その他（自由記入） ※上記以外の取り組みがあればお書きください。

[]

《調査項目は以上です。ご協力ありがとうございました。》

